

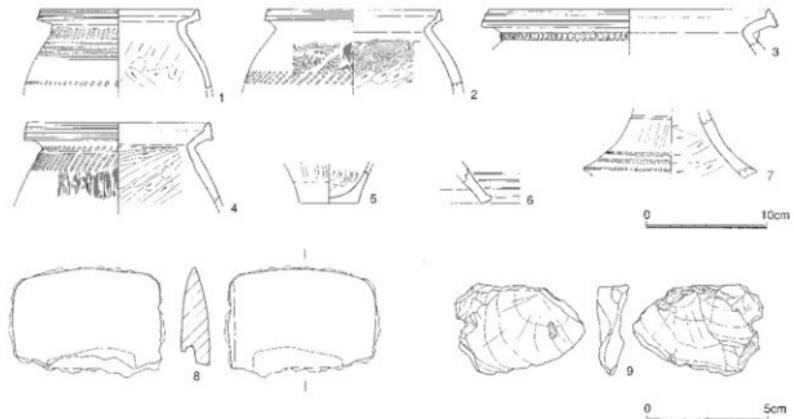


第44図 塙ノ内遺跡 SI13（遺構11）実測図（S=1/40）

SI13（第44～46図、図版30～32）

SI13はⅡ区に検出した焼失竪穴住居である。北側に隣接して後世の擾乱があり、東側も擾乱が激しく、北側の一部を検出できたにすぎない。また斜面下側にあたる南北側は床面が流失しており、検出できなかった。

この竪穴住居に伴う柱穴はP1～P3を確認しており、その配置から5～6本柱の建物が想定される。壁体溝は北西側に残るのみである。床面は覆土に対し僅かに濃い黒褐色で、しまりはあまり無い。第44図には断面見通し図を載せているが、炭化材が床面直上に折り重なって検出されたのに



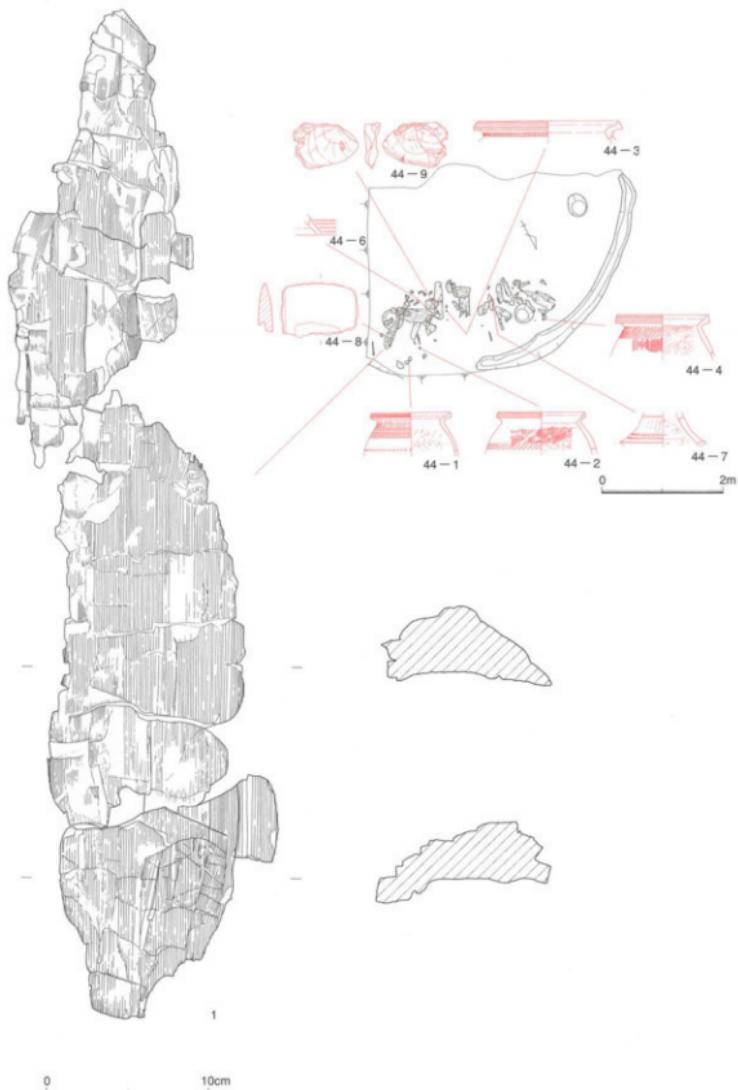
第45図 塙ノ内遺跡 SI13（遺構11）出土遺物（1～7はS=1/4、8・9はS=1/2）

対し、遺物は全体にレベルが高く、炭化材上に載っているものも多かった。

炭化材は竈穴の壁側を中心に出土し、大きく丸太材と板材に分けられる。残りが必ずしも良好とは言えないため、各部材を識別することはできなかった。丸太材は径15~20cmだが、10cm以下の小片もあり、部位により数種類を使い分けていた可能性がある。P3に建てられたまま出土した炭化材は、柱材の残片と考えられるが、コウヤマキ材の可能性が高い³³。板材はさらに残りが悪く、丸太材の小片との区別できないものもあった。残存幅20~35cmの個体があるが、これが当時の板材のサイズと合致するかは定かでない。なお炭化材は全て発泡ウレタンで梱包の上持ち帰った。しかし取り上げ時の気温が低かったためウレタンが十分に発泡せず、結果は思わしくなかった。住居構造の解明が期待されたが、炭化材の残存状況を見る限り困難といわざるを得ない。

出土土器には中期後半（IV-2）の壺、甌および高坏の脚部がある。45-1、4は頭部に縦長のヘラ描き沈線を入れた後、横方向の凹線を通して刻目文状に仕上げるもので、塙町式の土器である。これらが2、3のような壺と共伴する事が分かる。8は鋸造鉄斧片で、船載の袋状鉄斧の内利用品であろう。中期に瀬の鋸造鉄斧は北部九州に出土例が多い。山陰では鳥取県長山馬籠遺跡³⁴が挙げられるが、鳥根県西川津遺跡³⁵出土の鉄斧片が挙げられる程度である。板状鉄斧では塙ノ内遺跡から約50km斐伊川を源流とする仁多郡横田町の国竹中山遺跡から2点出土している³⁶。国竹中山遺跡では塙ノ内遺跡と同様に塙町式土器が出土しており、この時代の斐伊川上流域の様相が垣間見られる資料といえる。9は二次加工痕のある頁岩剥片で、熱を受けて変色している。

46-1は炭化材である。前記の通り、出土炭化材は可能な限り発泡ウレタンを用いて梱包の上、持ち帰った。しかし作業が11月から12月になったため、気温が低すぎてウレタンの発泡が極端に悪かった。このためウレタンが炭化材の周囲に十分行き渡らないなどの問題から、破損無く取り上げることができたものは数点にすぎなかった。またウレタン塊から炭化材を取り出す際も、発泡の悪いウレタンは切削が困難であった。今回は時間の関係もあって、最も程度の良い炭化材1点を選択



第46図 塙ノ内遺跡 SI13（遺構11）出土炭化材、遺物出土状況図（1はS=1/3）

し、発掘・復元した。丸太材の残片で、心材は残っていないものの、片側は端部が残っている。復元径は約15cmである。端部から13cm付近の陥没部をホゾ孔と考えていたが、クリーニングの結果、この部分の表面が剥離したものと判明した。

SI13の出土遺物は鋳造鉄斧を含め、床面から5cm前後離れて出土したものが多く、覆土中の遺物が混入している可能性は否定できない。しかし廃材を片づけた様子ではなく、炭化材の表面はそれはど荒れていない。柱穴に建てた状態で出土した炭化材もあり、焼失後それほど時間をおかずに覆土に覆われたと考えられる。この覆土が自然流入か、意図的に埋めたものかは覆土の状況から判断することができなかった。竪穴が埋まるプロセスについては不明な点が多いものの、SI13の時期は床面出土の土器から弥生時代中期後半と考えたい。またこの住居で用いられたかは定かでないものの、鋳造鉄斧も同時期の遺物と考える。

なお炭化物の放射線炭素同位体による年代測定は財團法人九州環境管理協会に依頼した。測定結果は以下のとおりである。

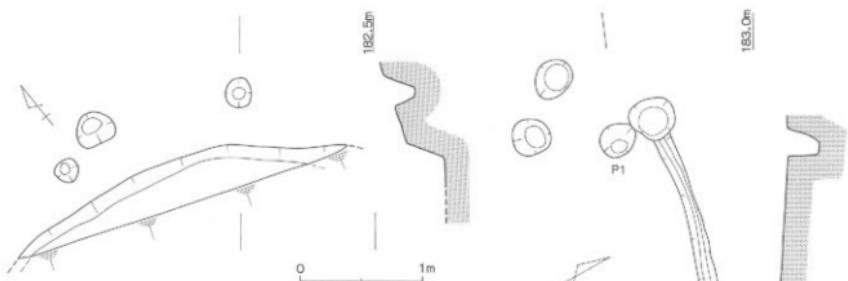
試料名：尾原ダム建設予定内埋蔵文化財の年代測定

財團法人 九州環境管理協会

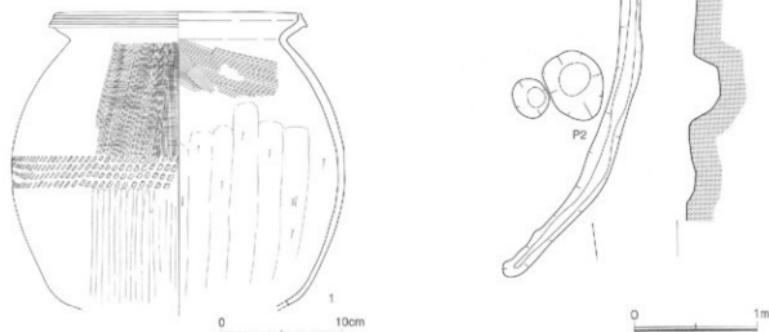
No.	依頼者コード	試 料 名	^{14}C 年代/yearsBP
KEEA-592	焼失住居・炭-4	垣ノ内遺跡植物遺体（木炭）	3390±90 (3480±90)
KEEA-593	焼失住居・炭-11	垣ノ内遺跡植物遺体（木炭）	2180±70 (2240±70)
KEEA-594	焼失住居・炭-100	垣ノ内遺跡植物遺体（木炭）	2190±80 (2250±80)
KEEA-595	焼失住居・炭-101	垣ノ内遺跡植物遺体（木炭）	2090±80 (2150±80)

備考：測定結果は ^{14}C 年代測定で慣例になっているLibbyの半減期5568年を採用し、西暦1950年までの経過年（yearsBP）で表示しております。また、()内の年代は ^{14}C の半減期として現在使用されている最新の値、5730年を採用し算出された値です。年代誤差は放射変異の統計誤差（ 1σ ）から算出された値であり、測定結果が約70%の確率でこの範囲にあることを意味します。 ^{14}C 年代は必ずしも層と一致するとは限りませんのでご注意下さい。

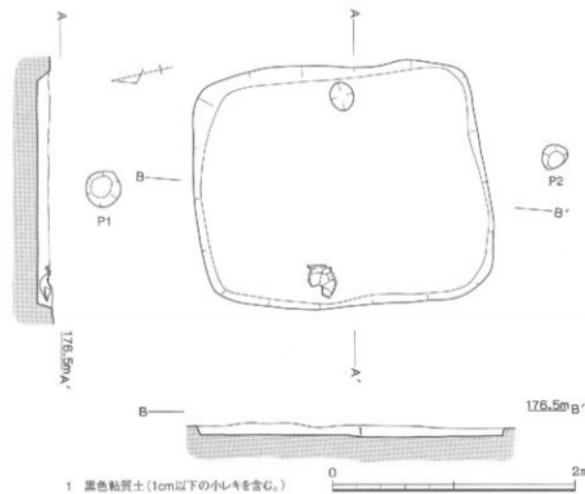
炭-11（依頼者コード）は46-1を取り上げた際に剥離した炭化材を採取したもので、同一個体である。また炭-100、101は、床面精査の際にP2、P3周辺で採取した炭化材である。床面直上の炭化材と考えて良い。炭-2はP3上に覆い被さるように出土した板状の炭化材と、その上面に乗っていた網片である。測定結果を見ると、46-1、床面の炭化物はほぼ同様の年代が出ている。炭-4は1,000年以上古い値が示されており、何らかの混入物によるものかもしれない。SI13が掘り込まれている土層は量は少ないものの繩文土器を含んでおり、その炭化物が覆土に混じっていた可能性もある。



第47図 堀ノ内遺跡 SI14実測図 (S=1/40)



第48図 堀ノ内遺跡 SI15実測図 (S=1/40)



1 黒色粘質土(1cm以下の小石を含む。)

第49図 堀ノ内遺跡 SI16(遺構9)実測図 (S=1/40)

SI14、SI15（第47・48図、図版33）

SI14はI区とA区の境界付近に検出した加工段状の遺構である。平成12年度のA区発掘調査では全く確認できず、I区側の豊穴部分を僅かに検出したにすぎない。豊穴の背後に並ぶピットも住居に伴う可能性がある。規模は大部分が残存していないため不明である。出土遺物は床面直上のものが僅かな上、細片が多く、時期を決定付けるものはなかった。

SI15はII区に検出した豊体溝と付属するピットである。円周の1/6程度豊体溝が確認できるのみで、付近のピットとの対応関係は不明である。付近からは弥生土器片が出土しているが、豊穴が明確でないためこの遺構に伴うものは不明である。

SI16（第49・50図、図版34）

C区の最南端で検出した遺構である。縄文土器の包含層（7層）に掘り込まれた長方形の豊穴で深さ数cmの浅いピットがある以外に、柱穴が全くない。主軸延長上にそれぞれピットが開くが、この遺構に伴うものかどうかは不明である。49-1は唯一の出土遺物で、弥生時代中期の壺である。東向きに倒れた状態で出土し、上部の2/3は飛んでしまっている。こうした柱穴を豊穴内に持たない小型の豊穴建物は順原町門道跡⁴⁷に例がある。門道跡でも他の豊穴住居とは離れた位置に構築されており、豊穴内に柱穴を必要としない簡単な上屋を造る小屋状の建物が、集落に付随して建てられる場合があったようだ。

遺構2、加工段1（第51～55図、図版35～39）

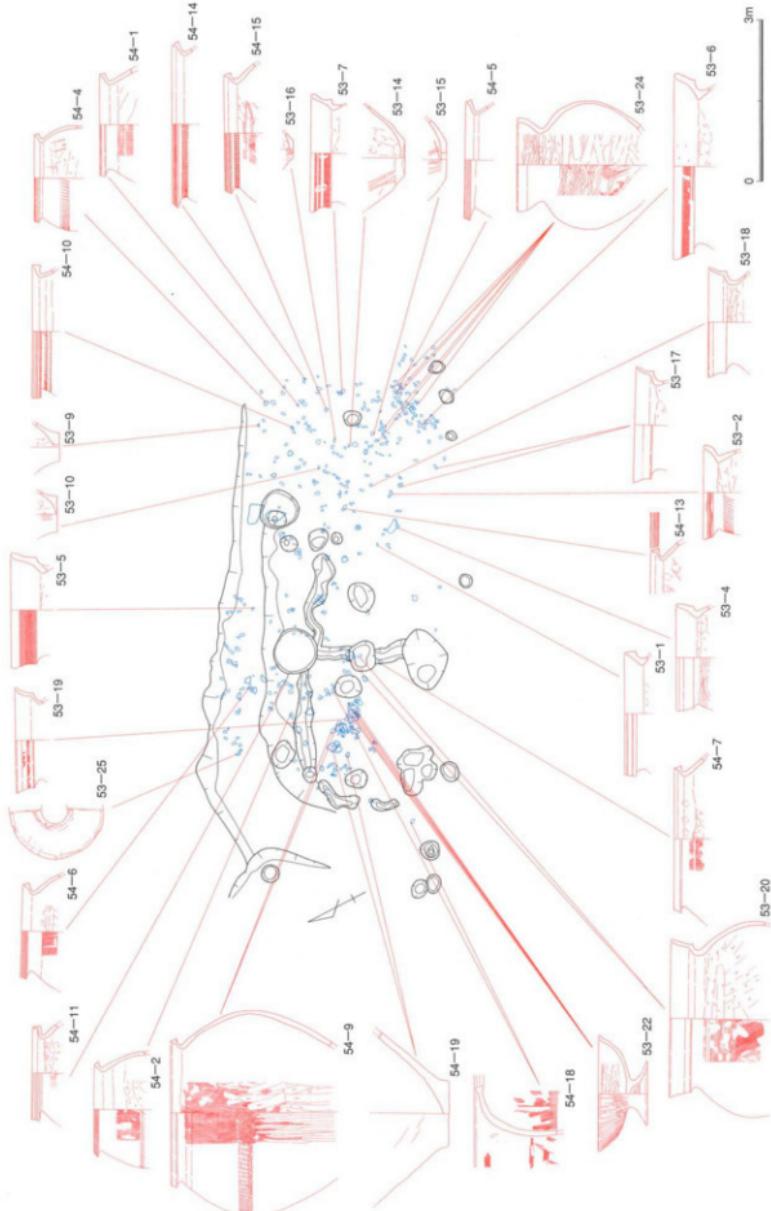
I区からII区にかけて検出した加工段状遺構群で、2段の加工段とそこに配置される溝状遺構、ピット群を遺構2とする。遺構2の西端を切って造られている加工段を加工段1とする。

遺構2のうち上段は、下段を構築する際に削平されており、原形をとどめていない。この段からは中期後半（IV-2）の壺類と環状石斧が出土した。下段は背後の崖面に沿って溝を配し、ピットが並ぶ。調査時は2間×1間の掘立柱建物を想定したが、4本柱の豊穴住居が建つ可能性もある。複数の遺構が混在しているのは確実だが、サブレンチのセクションでは、それぞれを層位的に把握することができなかった。遺物を含む層位は3層と4層であるが、4層上面では遺構が無かったことから、これらは流入した時期の異なる覆土と考える。出土遺物は弥生時代中期後半から後期末の土器が混在しており、上段の遺構上面に中期後半の遺物が、下段の覆土には中期後半から後期末の遺物が出土している。しかし各時代の遺物出土状況は覆土の堆積順と必ずしも一致しない。覆土は上段に伴う中期後半の遺物をとり込みながら堆積した可能性が高く、下段に構築された遺構は弥生時代後期末（草田6期）に位置づけられる可能性が高い。

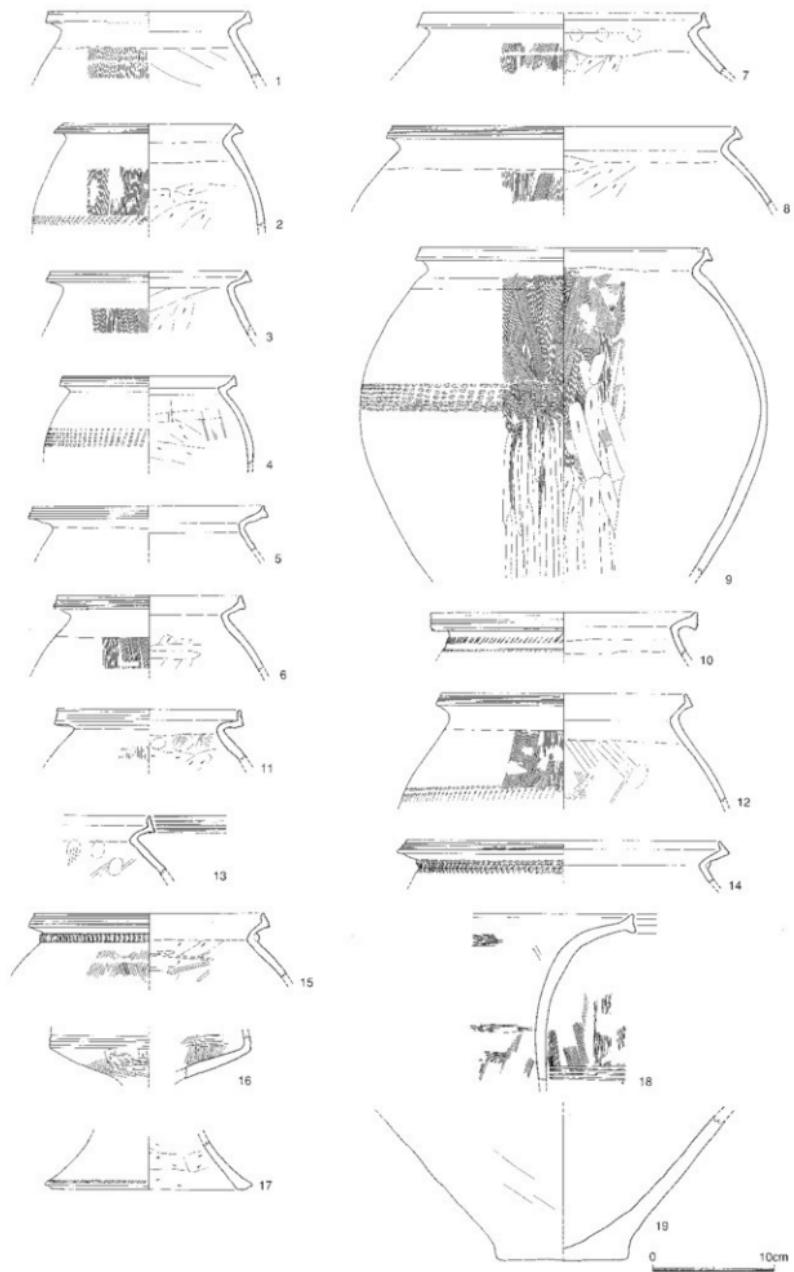
第53図4、6、10、14、15、第54図9、25は上段から出土した中期後半（IV-2）の遺物である。壺類は口縁端部をあまり拡張せず、3～5条の凹線を入れる。端部を上方に僅かに拡張する個体があり、15のように内面のケズリが頭部まで上がっている個体もあることから、時期幅を考える必要があるかもしれない。53-10は頭部に縱方向の刺突と凹線を組み合わせるもので、塙町式土器の影響があるかもしれない。14、15は頭部の貼付突帯に刻みを入れるものである。54-25は摩滅痕のある環状石斧の破片である。



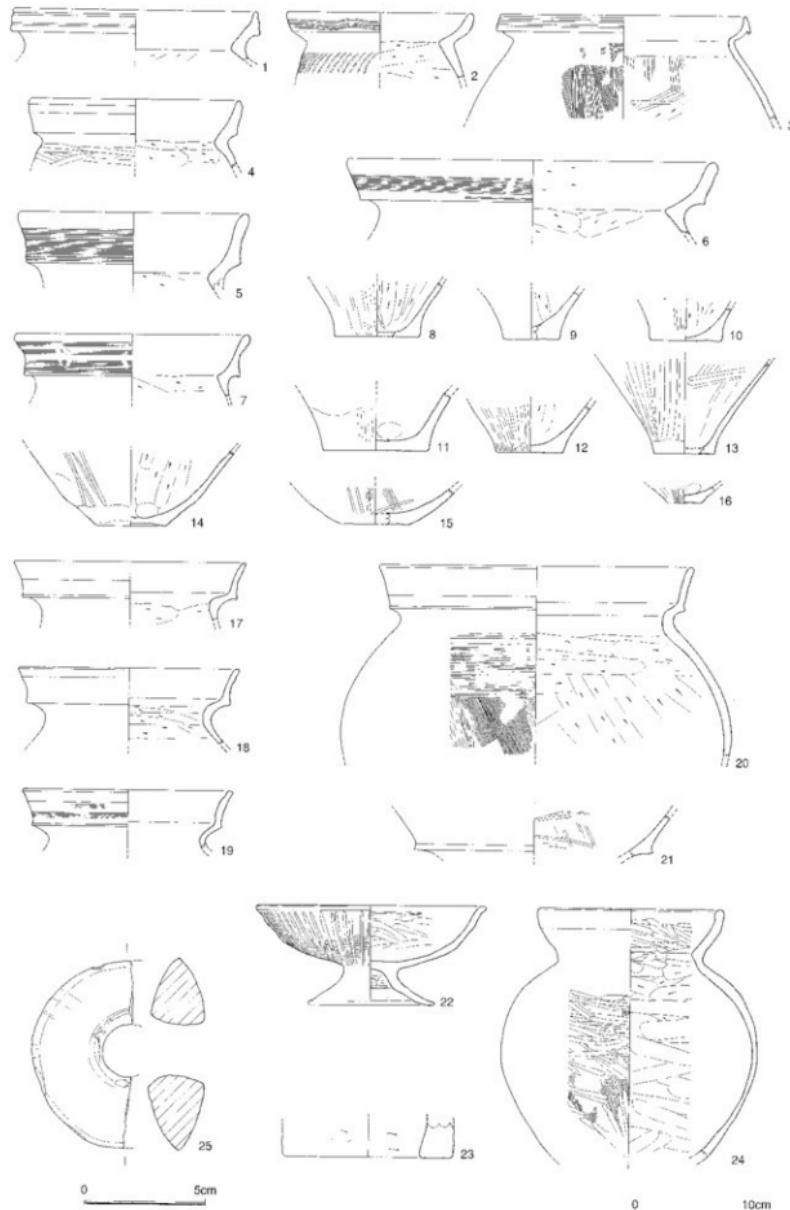
第51図 塙ノ内遺跡遺構2実測図 (S=1/80)



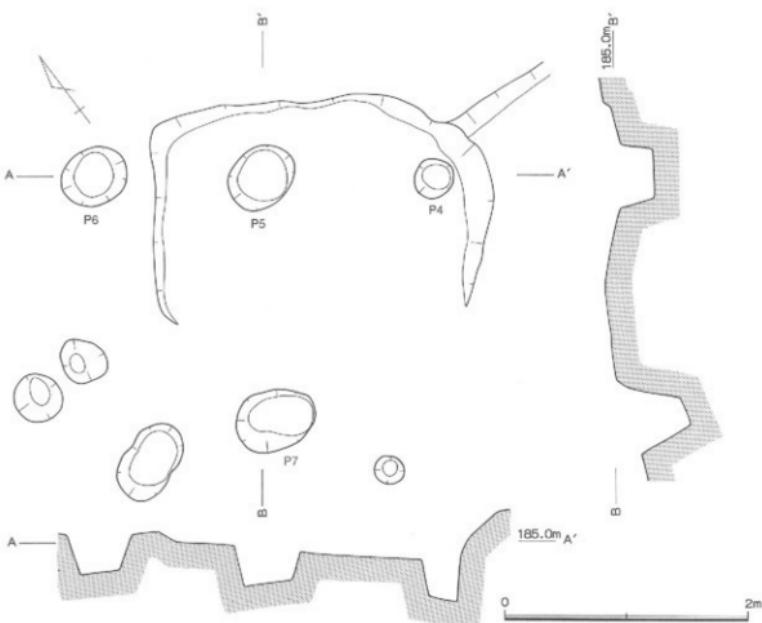
第52図 墳ノ内遺跡遺構 2遺物出土状況図



第53図 堀ノ内遺跡遺構2出土遺物1 (S=1/4)



第54図 塙ノ内遺跡遺構2出土遺物2 (1~24は S=1/4、25は S=1/2)



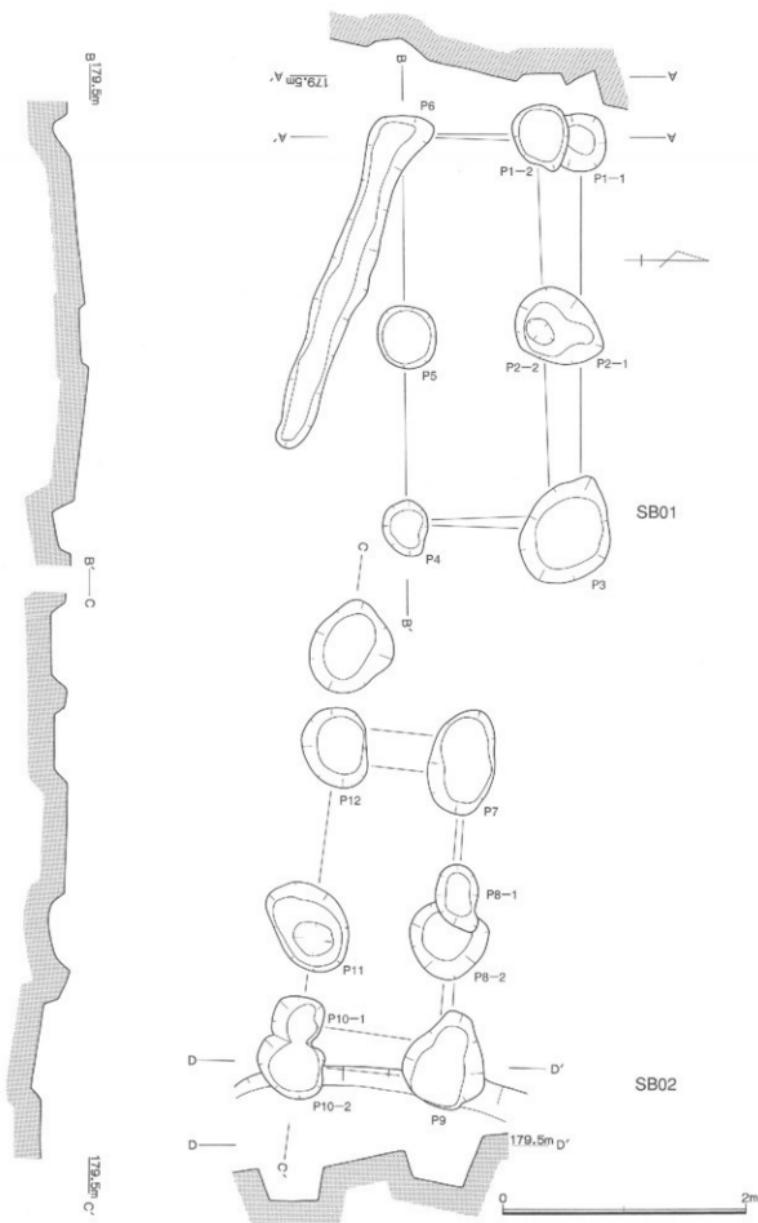
第55図 塙ノ内遺跡加工段1実測図 (S=1/40)

下段出土の土器は、前記のとおり時期幅がある。第53図掲載の遺物は中期後半に位置づけられるものである。13は拡張された口縁を持つ甕であるが、内面のケズリは頭部まで上がってきていない。18、19は広口甕の口縁部と底部だが、同一個体ではない。第54図は主に弥生時代後期以降の遺物で、むしろこの一群が下段に伴う土器と考えられる。後期前半から後期末まで時期幅があるが、中心は草田5～6期の土器である。22は外面を刷毛調整した後、縱方向のミガキを丁寧に入れる低脚坏で草田6期に並行するものだろう。下段の下限がおよそこの時期と考えられる。23は性格不明の土製品で、内部にケズリを施して空洞にする個体である。土製支脚の可能性もあるが、本遺跡で出土した他の土製支脚とは作り、胎土とも異なっている。

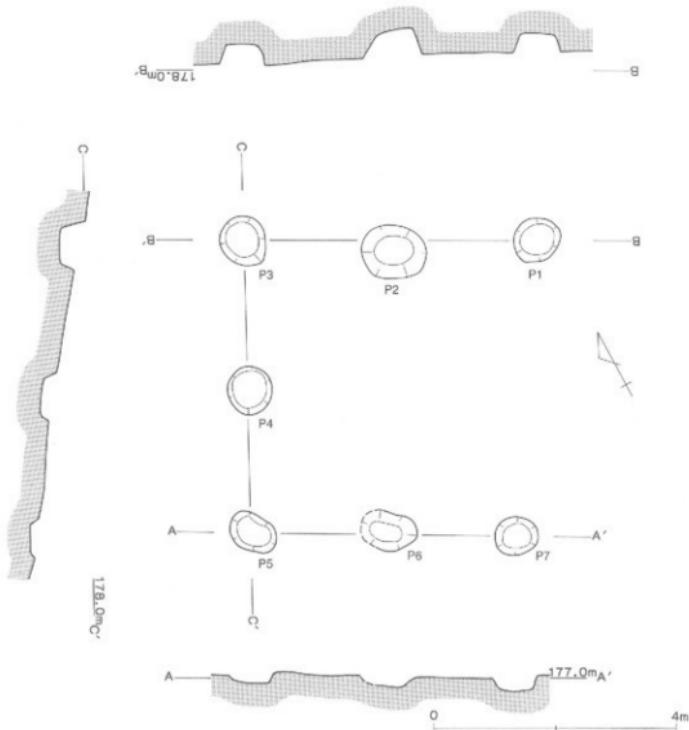
加工段1は造構2の上段を切って造られた平坦面である。加工段内にピットが2穴あるが、これらはむしろ西側に続くピットと一連である可能性が高い。この加工段は上器の細片が少量出土したのみで、時期は不明である。

SB01・02 (第56図、図版40)

2間×1間の掘立柱建物で、それぞれ一回ずつ建て替えられている。SB01は短辺をやや短縮するように南側へシフトさせており、P6には後世のSD01が重なっている。柱穴の底面は谷側の3穴が低い。SB02はSI05・08を切って構築された掘立柱建物で、建て替え時には全体に西にシフトさせている。



第56図 堤ノ内遺跡 SB01・02実測図 (S=1/40)



第57図 塙ノ内遺跡 SB03実測図 (S=1/80)

SB01とSB02は、同一規模で、斜面に対して平行には同じ向きに建てられていることから、同時に使用された可能性が高い。SI08廃施設後のどの段階で建てられたか明確でないが、SB02の柱穴内から内面にケズリのある弥生土器胴部片が出土しており、弥生時代後期ごろに位置づけられる可能性がある。

SB03 (第57図、図版41)

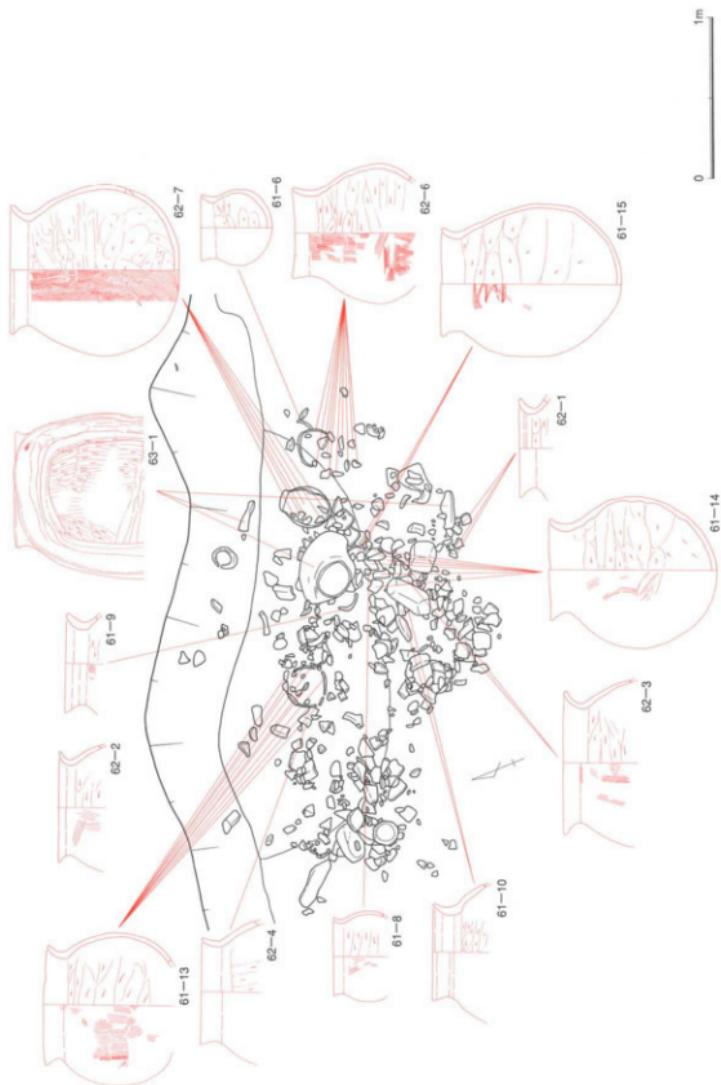
A区最東端の緩斜面に検出した掘立柱建物で調査区外に続く遺構である。まずP3～P5の3穴を検出したため、急進東側に調査区を拡大し、さらに4穴を検出した。3×2間以上の規模を持つ、この遺跡では大型の建物である。柱穴は山側ほど深く、谷側ほど浅いが、底面のレベルは必ずしもこれと一致しない。偶然にもP2、P6を結ぶライン上に、重機併用で先行サブトレーンチを設定していたためP6の西側は飛んでしまったが、両者の間にピットではなく、総柱建物ではないようだ。柱穴内から遺物は出土していないため時期は不明であるが、直上は弥生時代中期後半の包含層で、周辺もこの時期の遺物が散在しており、弥生時代中期まで遡る可能性がある。



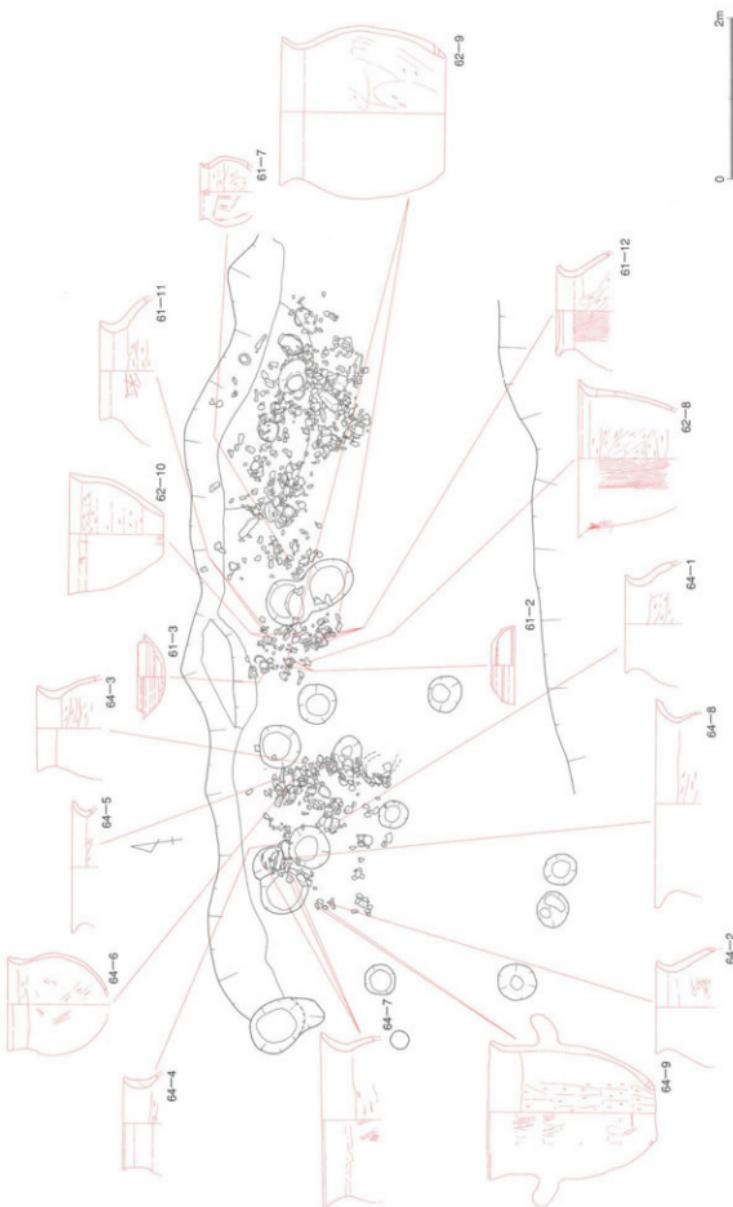
第58図 壇ノ内遺跡加工段2（BKDD、CKDD）実測図（S=1/60）

加工段2 【BKDD、CKDD】(第58~64図、図版42~50)

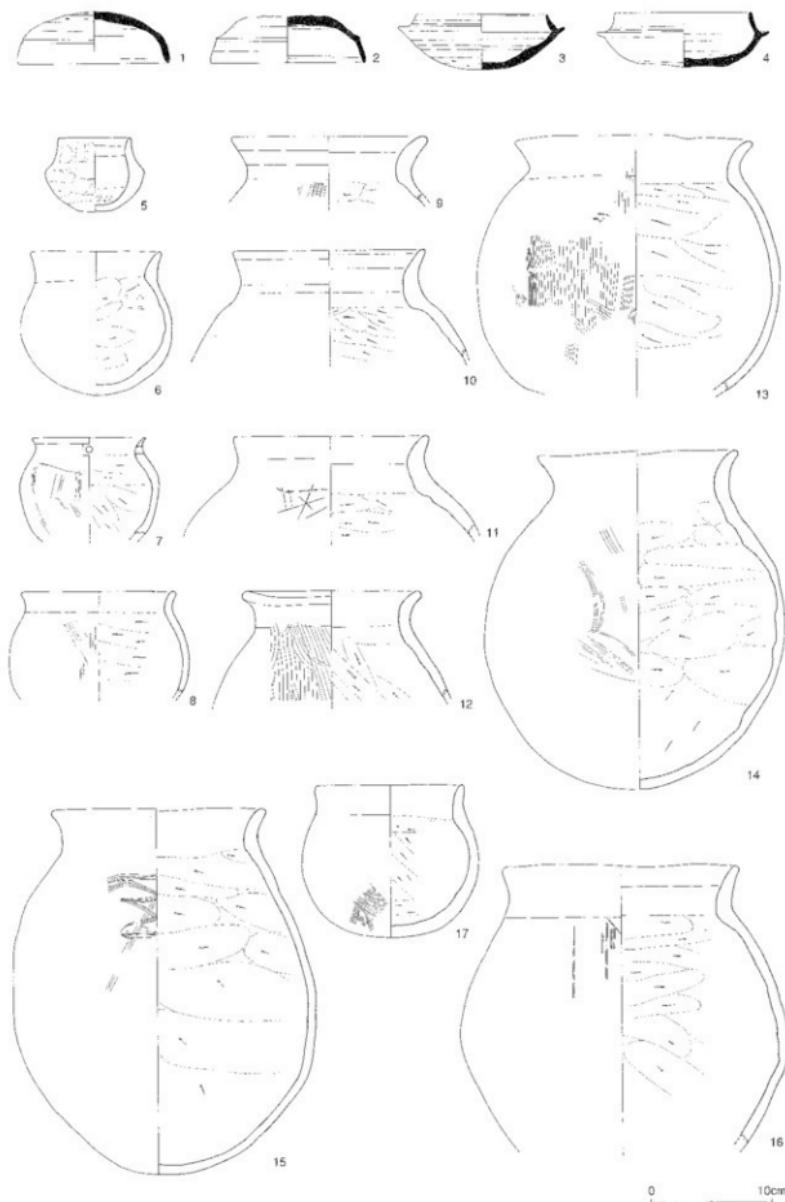
B区とC区にまたがって検出した加工段で、平坦面上には獨立柱建物(SB04~06)の柱穴群がある。



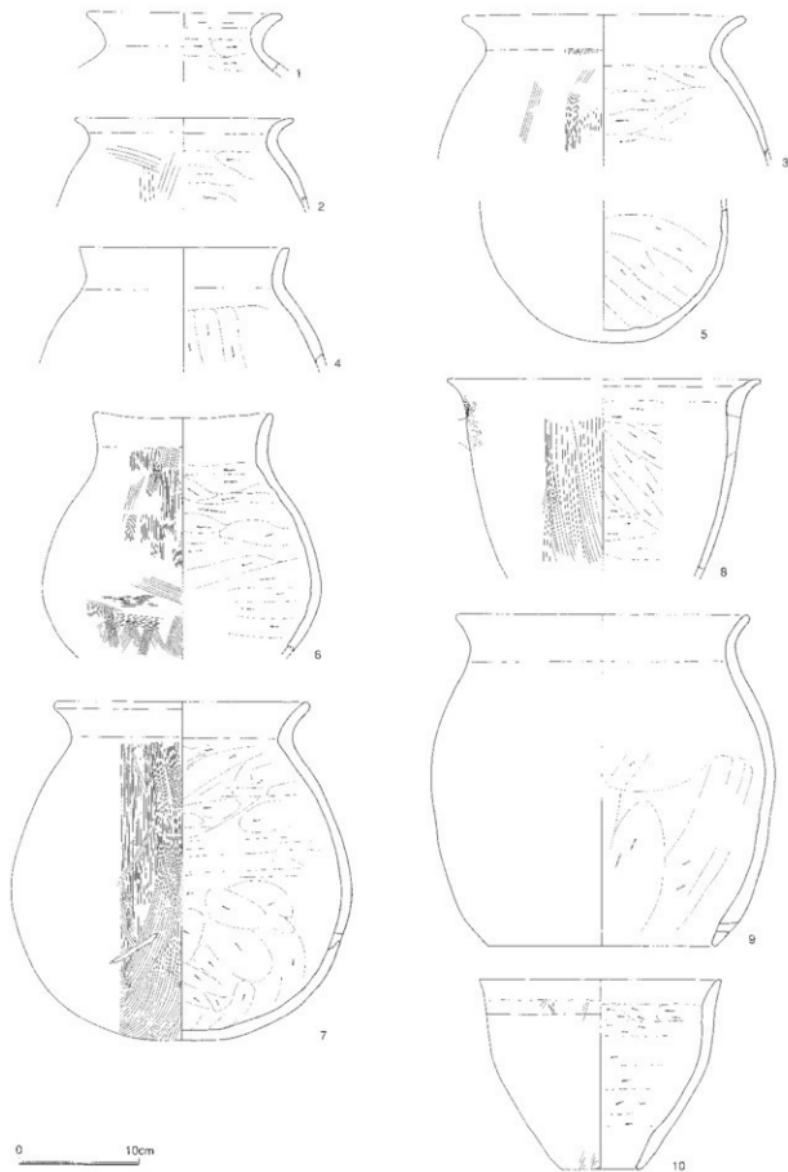
第59図 塘ノ内遺跡加工段2（BKDD、CKDD）遺物出土状況図中心部



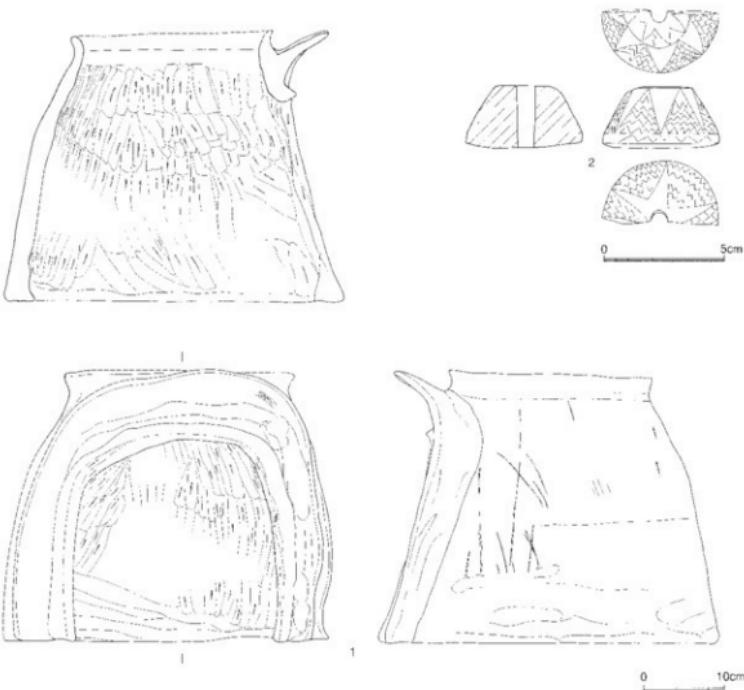
第60図 塙ノ内遺跡加工段2 (BKDD、CKDD) 遺物出土状況図



第61図 塙ノ内遺跡加工段2 (BKDD、CKDD) 出土遺物 (S=1/4)



第62図 壁ノ内溝跡加工段2 (BKDD、CKDD) 出土遺物2 (S=1/4)

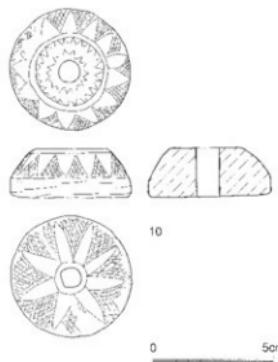
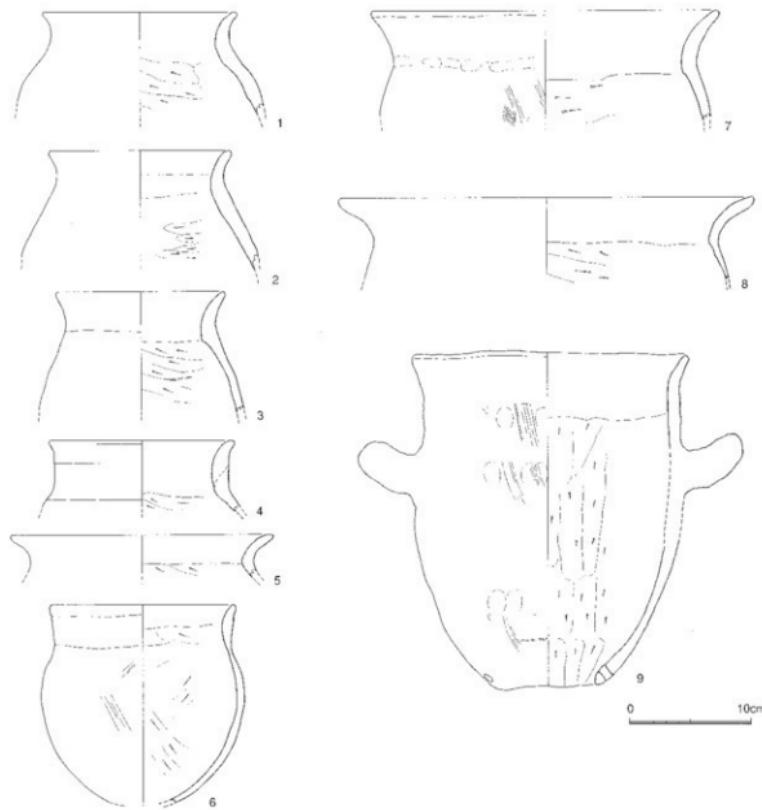


第63図 塚ノ内遺跡加工段2 (BKDD、CKDD) 出土遺物3 (1はS=1/6、2はS=1/2)

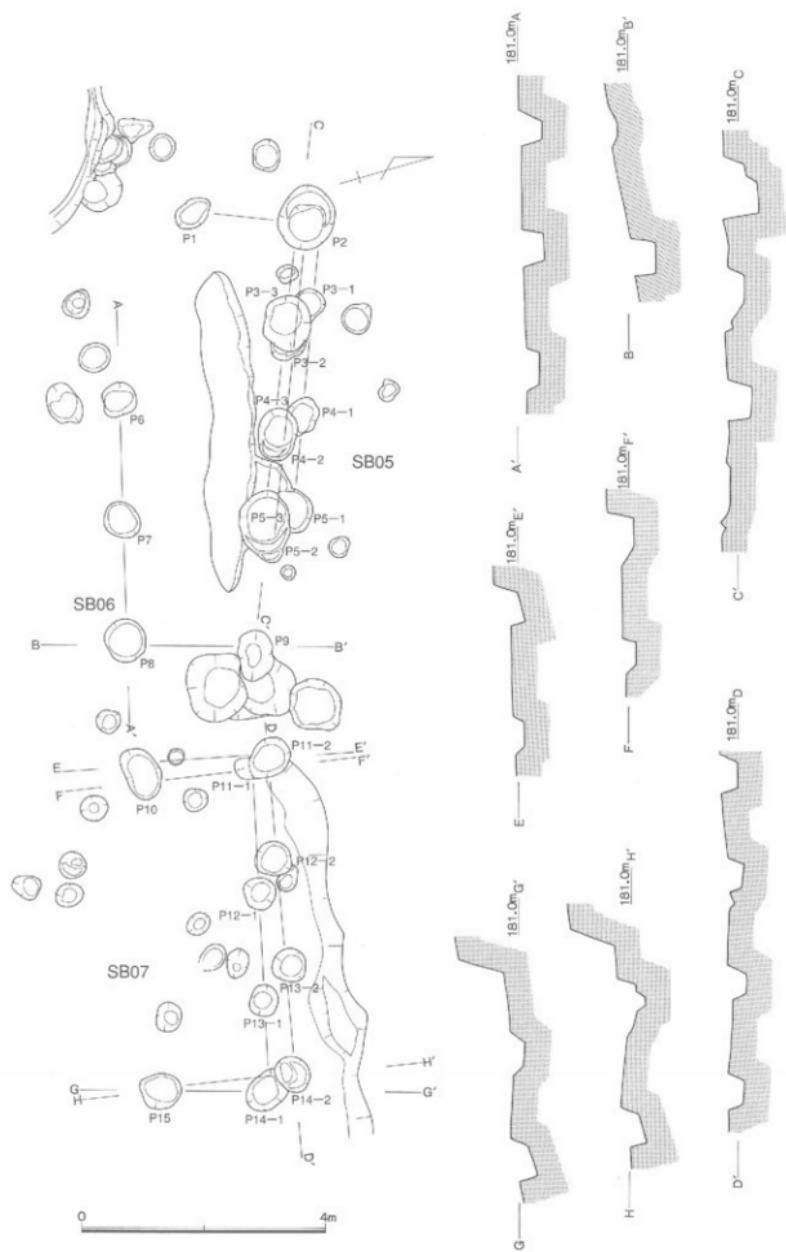
る。これらの掘立柱建物については別に記すが、弥生時代後期後半頃まで遡る可能性がある。加工段はこの掘立柱建物に作って造成されたと考えられるが、6世紀末から7世紀前葉に土器窯りが形成される。加工段背後の壁は最大高約80cmで、灰白色の地山土を削り込んで構築されている。

遺物は柱穴群上に堆積した14層の上面と、19~23層で出土している。出土遺物は2群に分かれ、東半部の移動式竈を中心とする土師器群と、西半部の蓋壺を含む土器群がある。東の一群は23層を中心に加工段上面からやや離れて集積しており、竈と壺、瓶が個別に出土するなど個々の遺物に据えられた形跡は見られない。西の一群は多くが14層直上から面的に出土しており、蓋壺が並ぶ様子から意図的に据えられた可能性が指摘できる。西群は蓋壺からみて6世紀後半と考えられ、東群はやや新しい7世紀の土器群と考えられる。

出土遺物は土師器壺・壺176個をはじめ、瓶、移動式竈、須恵器蓋壺、紡錘車などが出土している。出土遺物はB区、C区でそれぞれ取り上げており、整理の都合上本巻でも分けで掲載している。壺蓋には大井に浅いヘラケズリを施すもの(61-1)と、荒くケズってからナデを行うもの(61-2)があり、壺身もケズリの簡略化が見られる。出雲4期に位置づけられる。土師器壺・壺は口径13cm以下で高さ15cm以下の小型(61-5~8、17)、口径15cm以上で口縁が外湾するもの(61-9~14)、同じく口縁が外湾しないもの(61-15、62-6、64-3、4)の3形態に分類され



第64図 塙ノ内遺跡加工段2 (BKDD, CKDD) 出土遺物4 (1~9はS=1/4、10はS=1/2)



第65図 埼ノ内遺跡 SB05・06・07実測図 (S=1/80)

る。内面のケズリは頸部直下まで行うものと、1cm前後下で止めてから横ナデで仕上げるものがある。甌は、口縁が外湾するもの（62-8）としないもの（62-10）がある。62-9はやや胴が張る個体で、内面に縱向きのケズリを施す。移動式甌（63-1）はほぼ完形に復元できる個体で、外面は刷毛目調整のち荒くナデで、内面は縱方向のケズリを施す。

SB05・06・07（第65図、図版51）

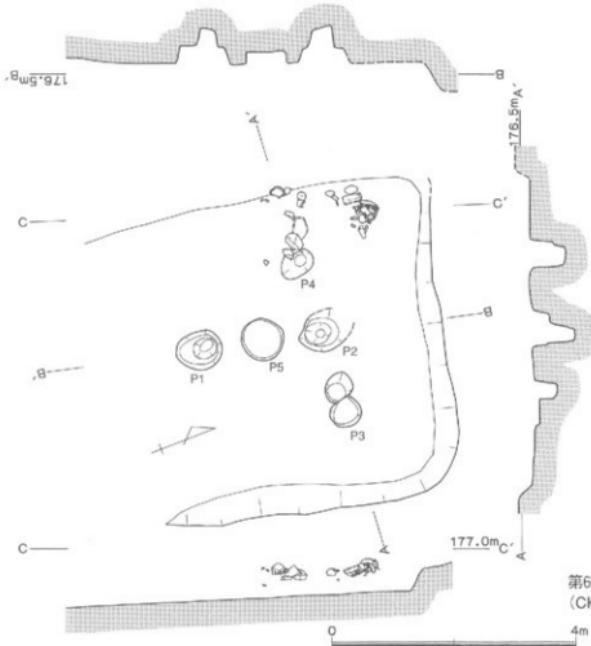
加工段2上に並ぶ掘立柱建物群である。ここでは切り合い関係とピットサイズ、ピット底部のレベルを参考に、SB05～SB07を復元している。

SB05は最も複雑に切り合うP1～P5の柱列で、谷側の柱列は流失したと考えられる。3間×1間の掘立柱建物で、切り合い関係から見て北側の第1列から南へ向かって3回の建て替えが行われている。

SB06はP6～P9で構成されるが、後世に溝が掘削されたために柱配置が定かでない。あるいはP9を含まない横列状の構造物の可能性もある。

SB06はP10～P15からなる柱列で、第1列と若干北側にシフトした第2列がある。3×1間の掘立柱建物であろう。

これらの遺構の時期は、柱穴内から弥生土器の小片が出土していること、セクションからみてSI02廃絶以降に構築されたと考えられることから、弥生時代後期後葉（V-3）以降の段階で、次々に建てられたと考えられる。

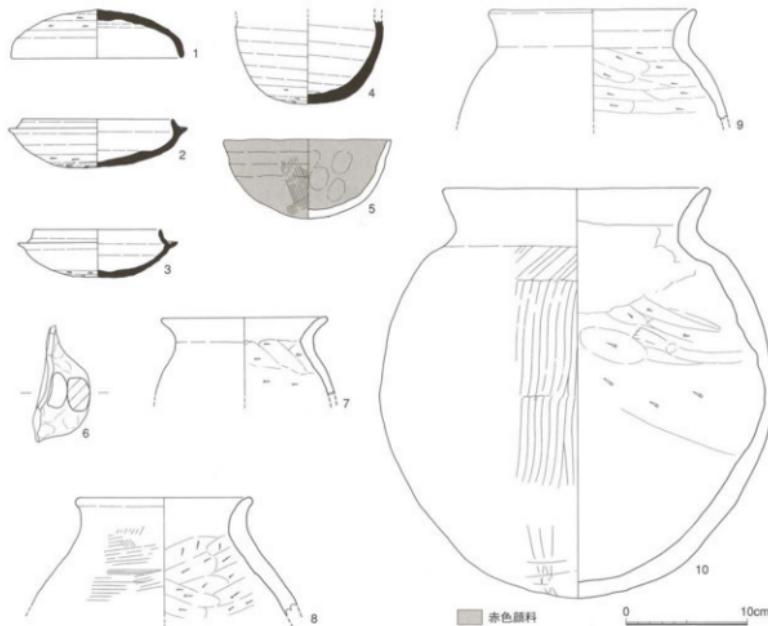


第66図 埴ノ内遺跡加工段3
(CKDD 2) 実測図 (S=1/80)

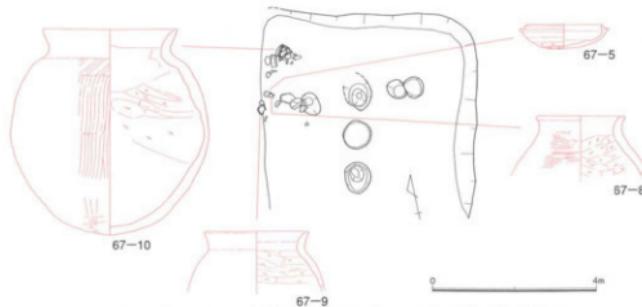
B. 古墳時代の遺構

加工段 3 (第66~68図、図版52・53)

B区とC区にまたがって検出した堅穴状の加工段である。縄文時代の包含層を削り込んで構築される加工段で、北辺と東辺は堅穴壁面がはっきりしているものの、西辺は残りが悪い。ピットはP1~P5を確認したが、柱の配置は定かでない。P1、P2は段の付くピットで、対応する柱穴であろう。P5は浅く、中央穴のような性格かもしれない。遺物は第66図のように床面上には皆無で、西辺側に集中した土器群のレベルは高かった。あるいは古い堅穴を、後世再利用したものかも



第67図 塙ノ内遺跡加工段3 (CKDD 2) 出土遺物 (S=1/4)

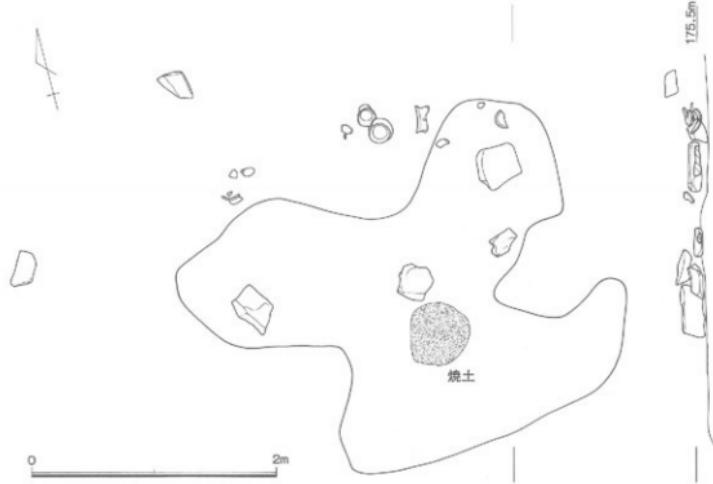


第68図 塙ノ内遺跡加工段3 (CKDD 2) 遺物出土状況図

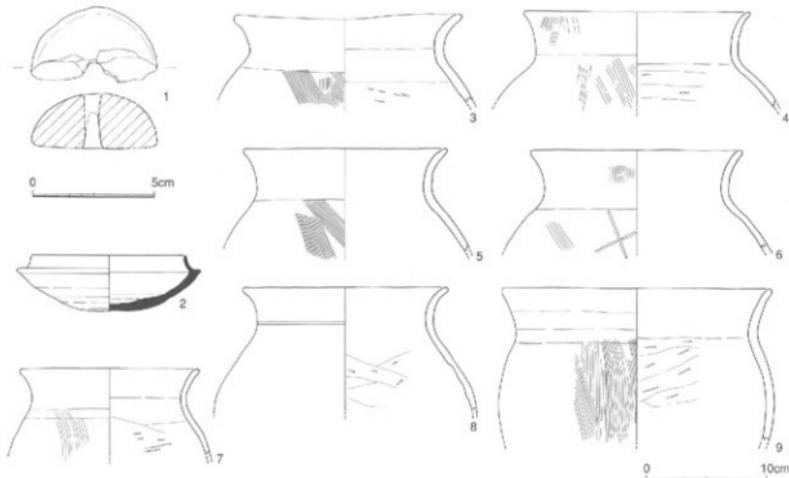
しない。土器群には須恵器の蓋坏と壺、土師器の壺があるが、蓋坏はケズリが浅く粗雑なもので、出雲4期に位置づけられる。壺は内面にしっかりと深いケズリを入れるもので、外面は特徴的な荒い刷毛目を施す。

硬化面1（第69～71図、図版54・55）

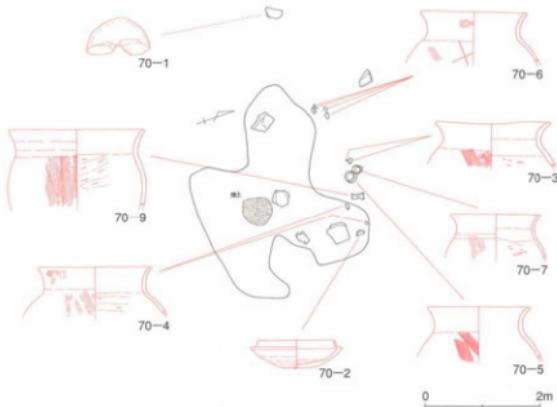
A区川側の緩斜面に検出した性格不明の硬化面である。後述する硬化面2も同様であるが、し



第69図 埠ノ内遺跡硬化面1（AKDD 2）実測図（S=1/40）



第70図 埠ノ内遺跡硬化面1（AKDD 2）出土遺物（1はS=1/2、2～9はS=1/4）



第71図 埼ノ内遺跡硬化面1（AKDD 2）遺物出土状況図

まりのある明確な面があるものの、縁辺部ではそれが不明瞭になり規模が定かでないものをここでは仮に硬化面と呼ぶ。

硬化面1は流失した部分が多く、硬化面の形状は入り組んで不明瞭である。また周囲も含めピットは全く無かった。造構面のある繩文時代の包含層は黒褐色の砂質土で、ピット内覆土との区別が付かなかった可能性もあるが、少なくとも掘立柱建物に伴うようなサイズのピットは無いと思われる。板状の角礫が置かれ、焼土面があり、土師器壺が並べられるなど、何らかの行為が行われたことは間違いないが、詳細は不明である。焼土面自体の厚さも薄かったことから、恒常に火を焚いたとは考えにくく、短期間使用されたものようだ。構造物が存在したかどうかも定かでないが、あるいは簡単な上屋は存在したかもしれない。

出土遺物は土師器壺と須恵器壺身、紡錘車がある。壺身はヘラケズリの入らない出雲5期のもので、焼成が悪い。壺は内面を浅めにケズリ、口縁は長く外湾するようにしっかりと横ナデ整形するものである。

この造構の時期は、須恵器によれば7世紀前葉と考えられ、土師器壺のプロポーションも特に矛盾しない。造構の性格については今後の課題としたい。

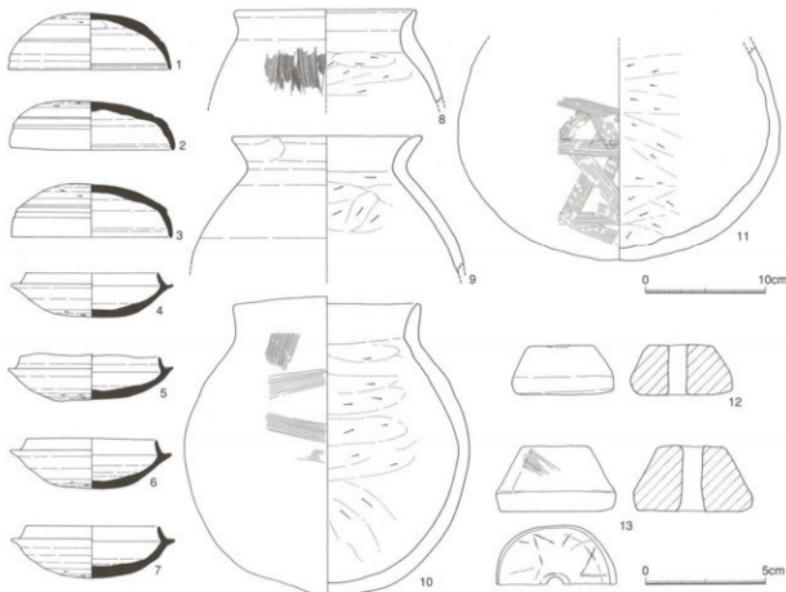
硬化面2（第72～74図、図版56～58）

蓋壺と壺が整然と並んだ状態で検出された硬化面である。西側は範囲確認調査の段階で掘削されており、残っていない。関係の明確な柱穴ではなく、斜面に対し平行に段が形成されている。上段には焼土面が広がり、下段には土器類が並ぶ。横断セクションでは、2層と3層が下段の硬化面を構成するしまりのある土層で、出土遺物はこの上面に並ぶ。8層は段に堆積した流土である。一方上段の硬化面はしまりも弱く、範囲も明確でない。この段には遺物がなく、下段との時間的な関係は定かでない。

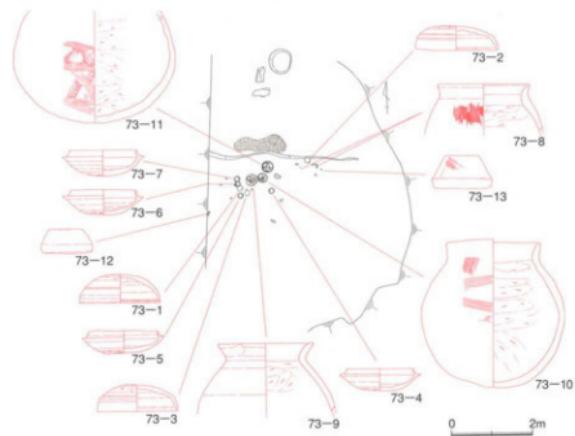
出土遺物は蓋壺と壺、紡錘車である。蓋壺は天井部に浅いヘラケズリが荒く入るもので、いずれ



第72図 堤ノ内遺跡硬化面2 (BKDD 2) 実測図 (S=1/40)

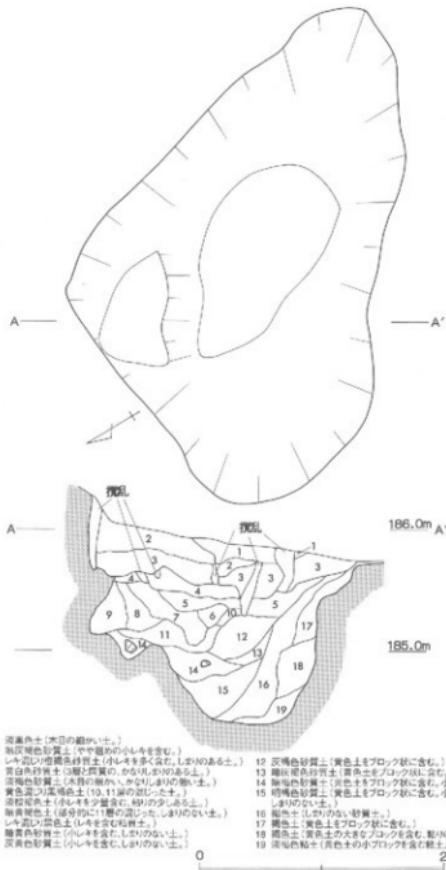


第73図 塙ノ内遺跡硬化面2（BKDD 2）出土遺物（1～11はS=1/4、12・13はS=1/2）

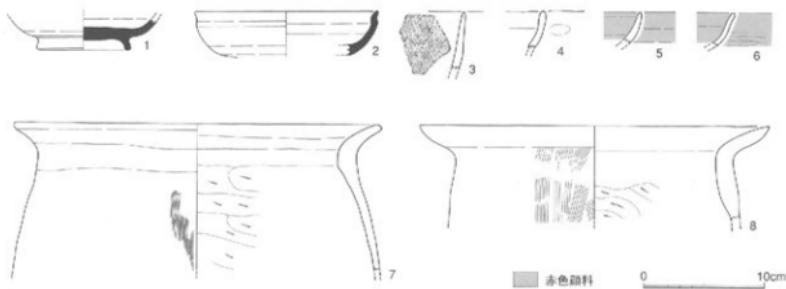


第74図 塙ノ内遺跡硬化面2（BKDD 2）遺物出土状況図

も出雲3～4期に位置づけられる。しかし蓋3身4と数が揃わず、それぞれ口径が微妙に異なり
セット関係にもないため、元来何セットが用いられていたのかも明らかでない。



第75図 塙ノ内遺跡遺構1実測図 (S=1/40)



第76図 塙ノ内遺跡遺構1出土遺物 (S=1/4)

C. 土坑など

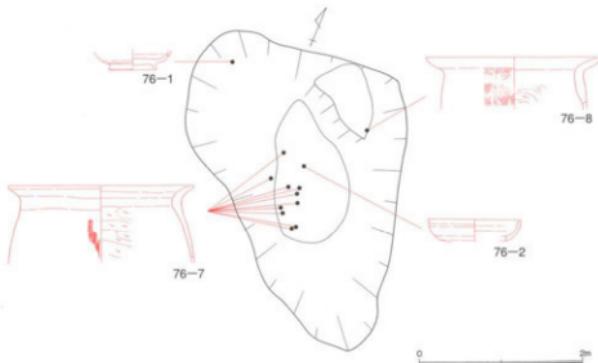
遺構1 (第75~77図、図版58・59)

SB10の背後に大きく口を開けている扁平の土坑で、北側にオーバーハング気味に中段が付く。覆土の堆積状況から、この段を境に時期差がある可能性がある。下部からの出上遺物は全くなく、中段よりも上位の層から蓋壺、丹塗り土器、製塙土器、土師器壺が出土した。1、2は回転糸切りの須恵器壺で、5、6は丹塗りの壺片である。これらは7世紀末から8世紀前葉に位置づけられる。土師器壺は頭部以下に張りの少ないもので、同時期のものであろう。

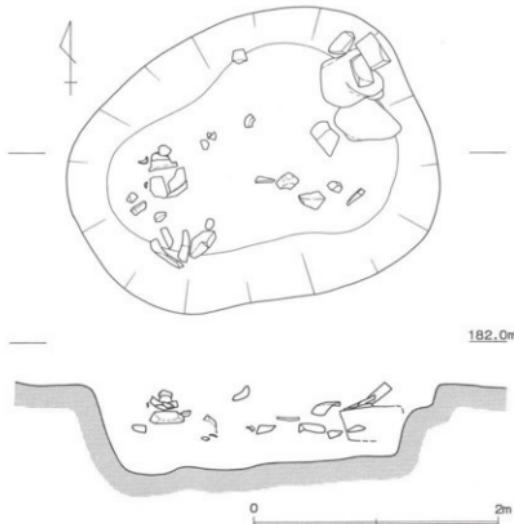
隣接するSB10との関係が注目されるが、遺物を見る限り遺構1が付帯設備となるような直接的な関係は認められない。

SK02 (第78~80図、図版59下)

平面形が小判形の土壙で、底部はほぼ平坦である。覆土は黒褐色系の砂質土で、分層はできなかつた。北東部と南西部に角礫が落ち込んでおり、これに挟まれるよう



第77図 塙ノ内遺跡遺構1遺物出土状況図



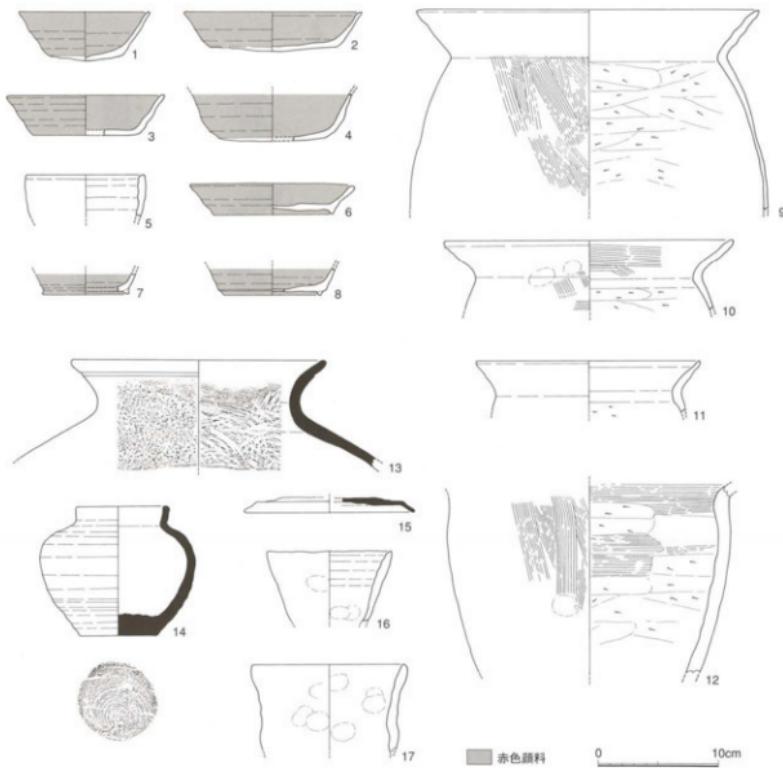
第78図 塙ノ内遺跡SK02実測図 (S=1/40)

にして須恵器、土師器、丹塗り土器、製塙土器が出土した。79-1～8は丹塗り土器で、高台の付くものと付かないものがある。底部はナデが施され、切り離し技法は不明である。9～12は土師器の壺で、口縁が直線的に開き、胴があまり張らない個体である。11～13は須恵器類で、14の底部切り離しは、回転糸切りである。5、16、17は製塙土器である。

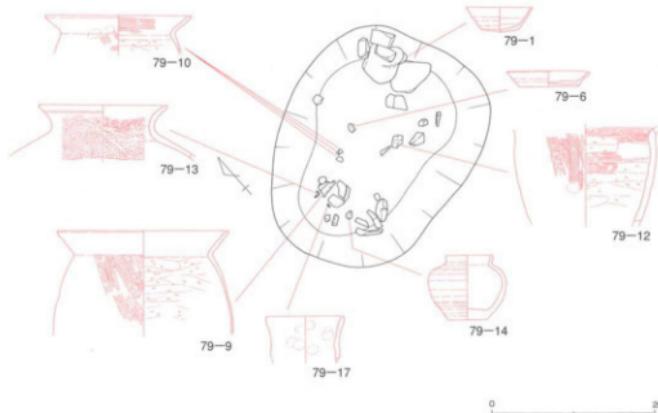
SK02の時期は、丹塗り土器や須恵器の底部切り離しが糸切り（あるいは糸切り後ナデ整形する）になる8世紀代と考えられる。遺物の出土レベルが比較的高いものが多く、覆土の分層もできないことから、一括して廃棄された可能性もある。

遺構8（第81～83図、図版61・62）

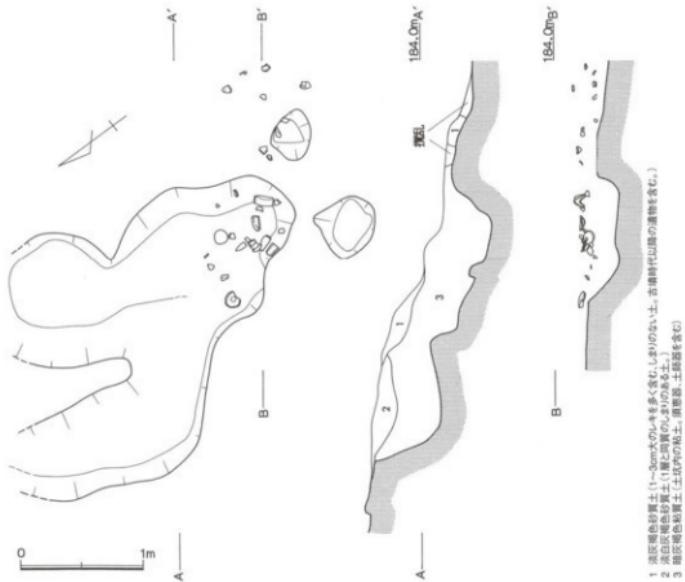
II区とIII区の境界付近に検出した不整形の土坑である。上下2段に分かれる土坑だが、セクションを見る限り前後関係は認められなかった。遺物は下段の上面に集中しており、覆土上に載っているとみて良いだろう。須恵器の壺と丹塗り土器、土師器壺があるが、壺類はほぼ完形の状態で並んで出土した。須恵器の壺は回転糸切りのものが1個体あるが、丹塗り土器も含めて切り離し後にナ



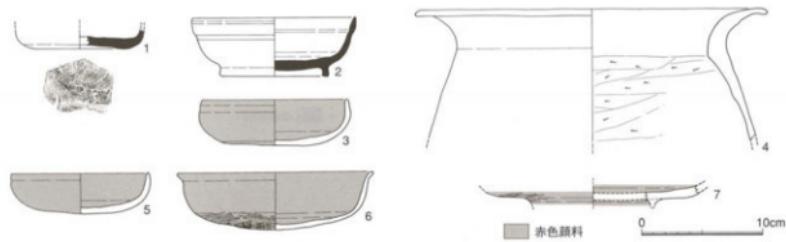
第79図 塹ノ内遺跡 SK02出土遺物 (S=1/4)



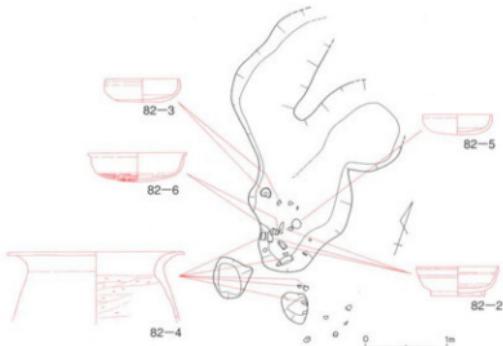
第80図 塹ノ内遺跡 SK02遺物出土状況図



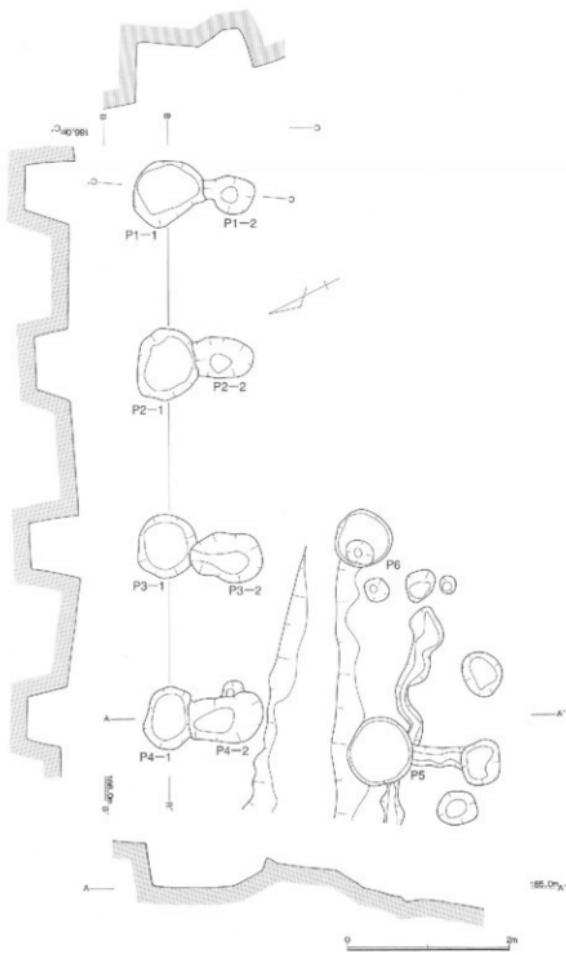
第81図 埣ノ内遺跡遺構8実測図 (S=1/40)



第82図 埇ノ内遺跡遺構8出土遺物 (S=1/4)



第83図
堺ノ内遺跡遺構8遺物出土状況図



第84図 塹ノ内遺跡 SB09実測図 (S=1/60)

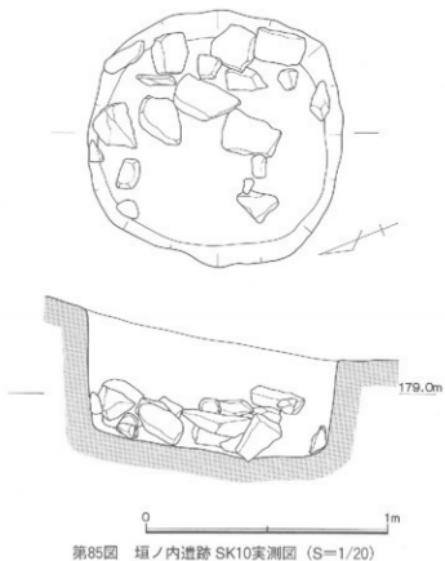
デ調整を施すものが多数である。

遺構の時期は8世紀前葉から中葉と考えられるが、性格は不明である。出土遺物は覆土上に並ぶのみで、土坑内からは時期の判断できる土器は出土していない。

SB10 (第84図、図版62)

I区に検出した掘立柱建物である。P1～P4の柱列からなる3間の建物で、遺構2と切り合うP5、P6もこの遺構に伴うものだろう。遺構2よりも南側(川側)は急激に傾斜がきつくなり、遺構の残りが悪い場所であることから、不足する柱穴は流失した可能性が高い。建物の規模は定かでないが、付近の傾斜を考慮すると3×1間が妥当と思われる。P1～P4の柱穴には、平面が長方

形のピットがそれぞれ付属する。隣接する両者は底面のレベルがほぼ同じで、境界部が壁状に盛り上がるという特徴がある。覆土では $-2 \rightarrow -1$ の切り合いで認められるが、これが時期的な差を示すかどうか定かでない。近世の出土例では、柱穴に対して支柱用の小型の柱穴が付属する例がある¹³⁾。ピット内出土遺物が須恵器壺と土師器壺の小片で、時期を決定することはできないが、奈良時代まで溯る可能性はある。



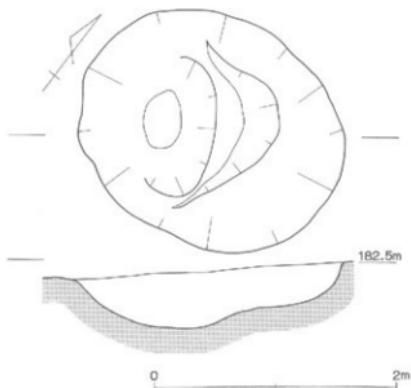
第85図 塙ノ内遺跡 SK10実測図 (S=1/20)

SK10 (第85図)

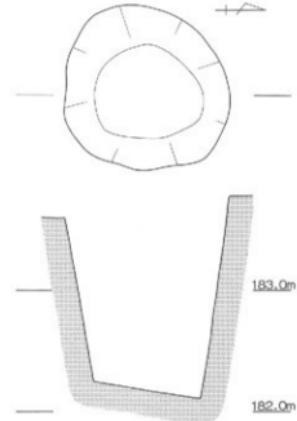
D区に検出した径約1m、深さ約50cmの土坑で、大小の角礫が落ち込んでいる。地山層に直に掘り込まれており、覆土の分層もできない。出土遺物が皆無であることから、時期、性格とも不明である。

SK20 (第86図)

I区の地山層に掘り込まれた、陥れ穴様の土坑である。垂直断面形は僅かに逆台形になるが、実見すると直に掘り込まれたかのような感覚を受ける。径約1.4m、深さ約1.6mで、底部は山側に若干傾斜している。覆土の中層部から弥生土器と思われる小片が出土したが、底部付近では出土遺物が皆無である。遺構2よりも下層にあたり、弥生時代中期以前の遺構と思われる。



第86図 塙ノ内遺跡 SK20実測図 (S=1/40)



第87図 塙ノ内遺跡 SK01実測図 (S=1/40)

SK01 (第87図)

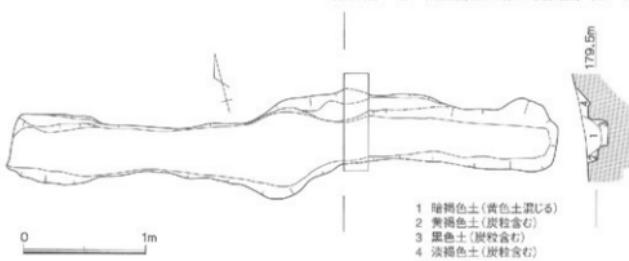
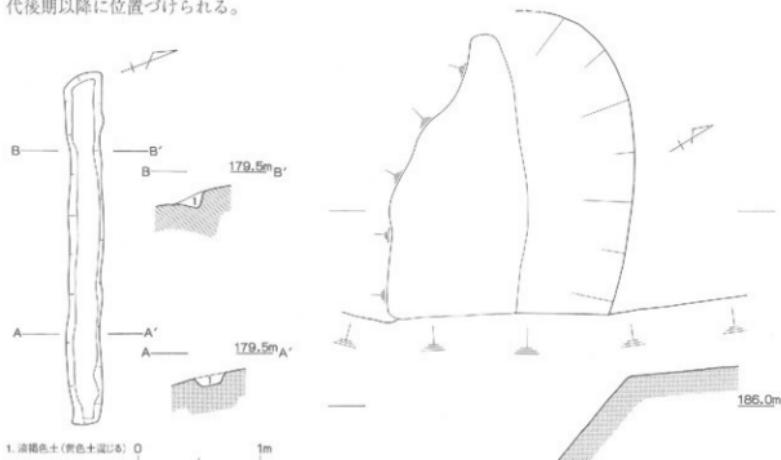
I区の地山層に掘り込まれた、陥れ穴様の土坑である。垂直断面形は僅かに逆台形になるが、実見すると直に掘り込まれたかのような感覚を受ける。径約1.4m、深さ約1.6mで、底部は山側に若干傾斜している。覆土の中層部から弥生土器と思われる小片が出土したが、底部付近では出土遺物が皆無である。遺構2よりも下層にあたり、弥生時代中期以前の遺構と思われる。

SK01 (第87図)

C区とII区の境界上に検出した、傾斜のなだらかな窪み状の土坑である。明確でないが、北東側に中段が付く。平面形は最大径約2.2mの楕円形で、深さは最大約40cmである。出土遺物は全くないが、地山面に直に掘られており、SI02やSI10と同一面にあたることから、弥生時代中期から後期の遺構である可能性が高い。

SD01・02 (第88,89図)

C区に検出した性格不明の溝状遺構である。SD01は全長約2.8m、幅35~40cmの溝で、深さは最大25cmである。断面形は逆台形状であるが、西側に行くほど谷側が削れて三角形状に近づく。上器の小片が数点出土したが、時期は明らかでない。SD01はSB01を切って掘り込まれており、弥生時代後期以降に位置づけられる。



SD02は長さ約4.6m、幅45~60cmの溝である。一部に段が付くが不明瞭である。セクションでは、段状の覆土は炭化物が多く、溝部分の覆土と異なっている。

加工段4（第90図）

I区最東端に検出した加工段で、出土遺物は皆無である。後述の土器渝り12よりも下層から検出しており、弥生時代中期以前の遺構と考えられるが、詳細は不明である。

埋桶遺構1・2・3（第91・92図、図版63・64）

第92、93図は埋桶遺構を掲載した。これらの遺構は直径約110cm（約3尺）の桶の周囲を粘土で固めたものである。こうした遺構は、粘土貼土坑や単に土坑として報告されているものが県内でも数例確認できた¹⁹。下山遺跡では埋桶のタガまでがはっきりと残るものと、底のみ粘土を貼るもの2種類があるとされているが、ここでは桶の痕跡が3遺構ともはっきりと残っている。

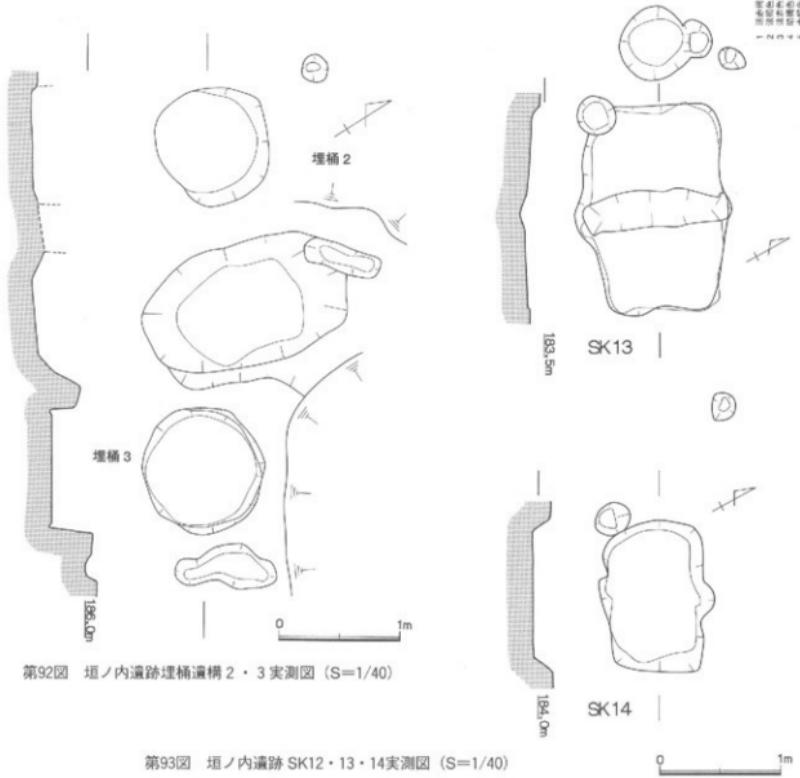
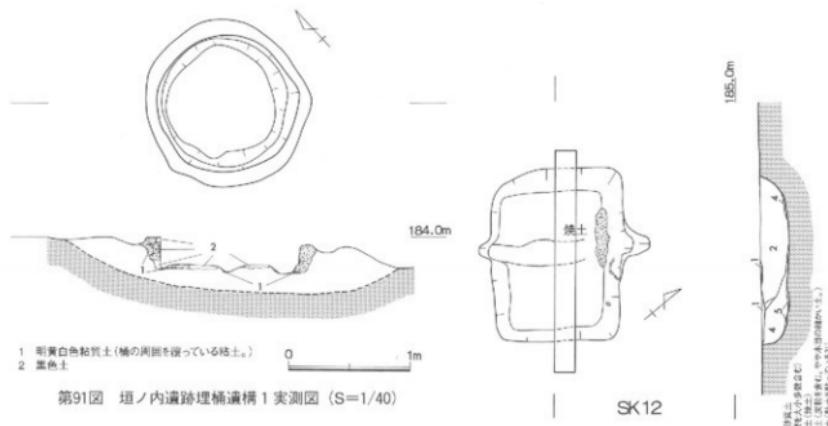
埋桶遺構1はII区に単独で検出したものである。直徑約110cmのほぼ円形の土坑で、周囲には粘土が貼られている。土坑の底は外周部が一段深くなっている、上げ底の桶が填っていたことが分かる。粘土の厚さは桶の周囲が10~15cm、底部は2~3cmである。残存部の深さは約25cmであるが、表土直下で検出したことを考えると、上部は後に削られた可能性が高い。またこの土坑で特筆すべきは、内容物と腐食した桶が全く残っておらず、土坑内一杯に砂が詰まっていたことである。この砂は粒子が揃った混入物の少ない白砂で、遺跡周辺では川原以外に見られないものである。桶を引き抜いた後、何らかの意図を持って砂を入れたと考えざるを得ない。

埋桶遺構2、3はIII区に並んで検出した。2つの土坑の間には平面形が不整形の土坑があり、これに長方形の溝状の掘込みが付随している。埋桶遺構3のすぐ東隣にも溝が掘り込まれている。また小型ながら柱穴が1穴隣接しており、何らかの上層の存在が想定される。埋桶遺構2は直徑約110cmで、南側は削られて残っていない。桶のタガ跡が明確に残るが、周囲には粘土を貼らず、黄褐色の地山土をそのまま利用している。埋桶遺構3も同様に地山土を掘り下げてそのまま桶を填めている。タガ跡は最下部に3条、上部に1条確認した。この遺構のみ、桶の底材と考えられる10cm大ほどの板片が残っていたが、腐食が激しく取り上げることができなかった。

SK12・13・14（第93図、図版65・66）

SK12、13、14はII区とIII区で検出した性格不明の土坑である。検出した層位は前記の埋桶遺構1と同様で、同時期の可能性が高い。平面形は1.2m×2.0m前後のいびつな長方形で、SK14は他に比べて若干小型である。長辺に突き出るようにして突起があるのが特徴で、この突起部は溝状に土坑を縱断している。SK13は隣接する埋桶遺構1と同様上部の大部分が残っていない。またSK12は覆土に多量の炭を含み、表面に焼土面があることから、土坑内で火を燃やしたようである。焼土は最大で約2cmの厚さがあり、長時間あるいは断続的に一定期間火を焚いたのであろう。SK13では僅かに焼土面が確認できたが、SK14ではその痕跡はなかった。

こうした平面形の土坑の例は隠岐郡西郷町の尼寺原遺跡にある²⁰。尼寺原遺跡は掘立柱建物が多数検出された遺跡だが、同様の突起を持った土坑が数基出土している（SX04・05・06・12・15）。SX15では箱状に組まれた板材が残っていた。長辺が3m近くあること、土坑によつては突起





第94図 塚ノ内遺跡土器溜り位置図 (S=1/600)

が片側のみ付くこと、箱状に組まれた板材が残るものはあるものの、炭化物が検出されていない等、相違点も多い。今後の類例増加を期待したい。

(3) 土器溜り

垣ノ内遺跡は検出遺構もさることながら、包含層中の遺物量が多く、調査中はこれらの取り扱いが問題であった。遺跡は基本的に南向きの傾斜地であるが、堆積上は複雑に入り組んでおり、各包含層の厚さは場所により大きな差があった。このため遺跡全体で統一した基本層位毎に、正確に遺物を取り上げることは困難であった。そこで、同一層位内である程度一括性が保たれていると判断される遺物群については「土器溜り」として一括して取り上げる方法を探った。したがって以下に挙げる「土器溜り」は、必ずしも遺構に伴う一括遺物ではなく、限定された範囲内で同一層位中に含まれる比較的一括性が高いと考えられる土器群を指す。こうした判断は現場で調査員が下したものであり、遺物間に時期幅の認められる「土器溜り」もあるので、遺構に伴う一括遺物と同等に扱うこととはできないことをお断りしておきたい。なお、個々の「土器溜り」の名称は調査時のものを可能な限りそのまま用いることとした。欠番が多いが、御容赦いただきたい。

AYD 1 (第95~97図、図版67~72)

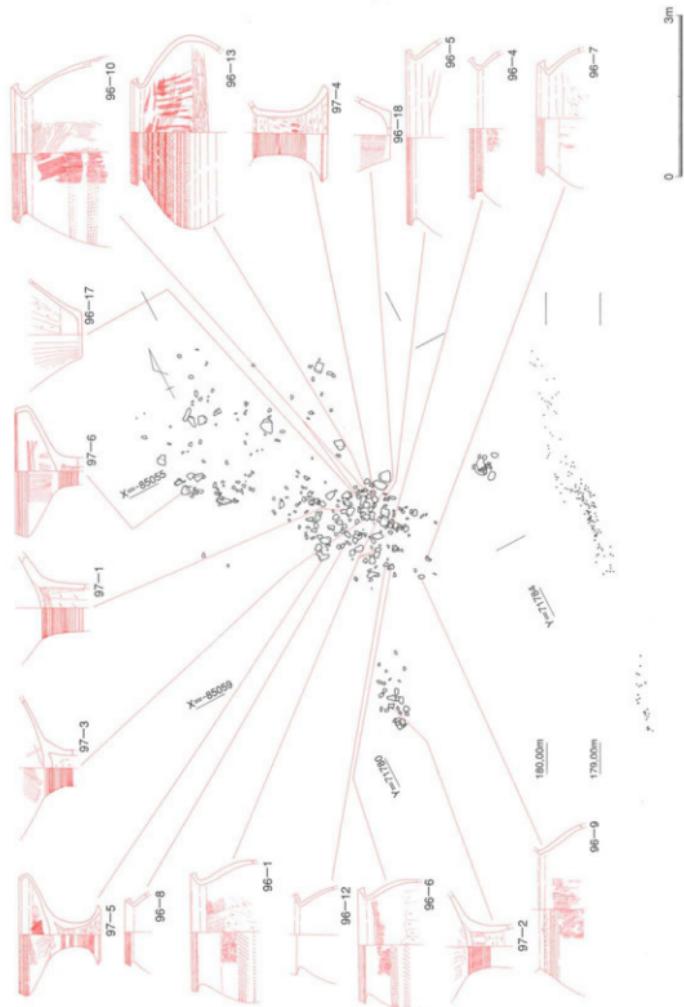
A区上部の傾斜が急激に緩くなる部分に堆積する弥生時代中期後半(IV-2)の土器溜りである。直上に6世紀後半から7世紀の上器溜り(AKDD)がある。壺、広口壺、高坏など総点数約300点からなり、若干ではあるが後期の破片も混じる。壺は外面頸部下を刷毛目調整、胴の下半部に縦方向のミガキを入れるので、胴部に刺突列点文帯を2本入れるものが多い。内面は頸部下を刷毛目もしくはナデ調整し、胴の下半部は縦方向のケズリである。頸部の貼付突唇に刻みを入れる個体があるが、割合は約25%である。96-3は頭部に凹線文と刻目文を入れる塩町式土器である。13は台付壺の可能性がある個体で、刻目文と斜格子文、円形浮文を組み合わせており、塩町式土器の影響を伺わせる。15は全面にミガキを入れる壺、16は広口壺の頭部である。

第97図には高坏を並べた。1~4、7は口径約30cmに達すると思われる大型の個体で、脚柱部内側は幅約2cmのヘラを用いて削り込む。坏部底の円盤を充填した後に削るため、円盤裏側にヘラの刺し跡が残る。(図版72) 5、6は口径約20cmの高坏である。

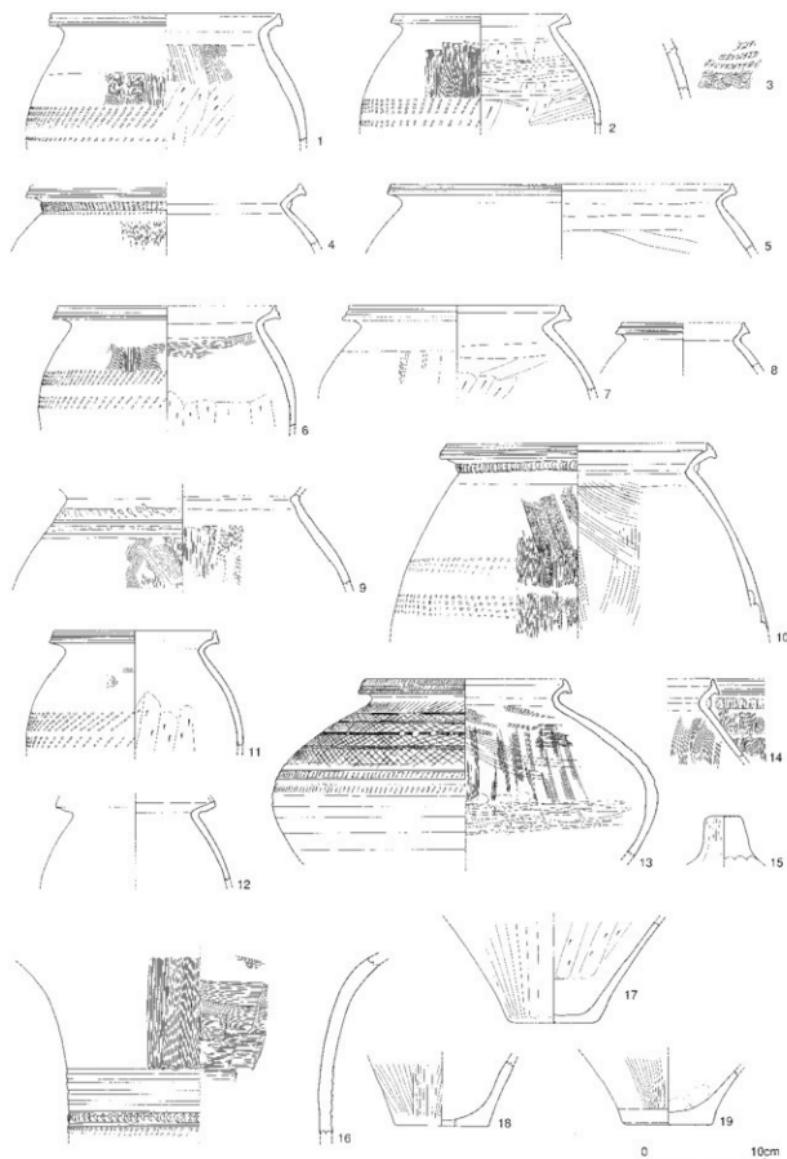
土器溜り11 (第98・99図、図版73・74)

I区最上段に位置する弥生時代中期後半(IV-2)を中心とする上器溜りである。壺、広口壺、高坏があるが、調査後の整理によれば上器溜りの混入量も多い。包含層自体が薄い場所であったために、上層の混入物を判別できなかったと考えられる。

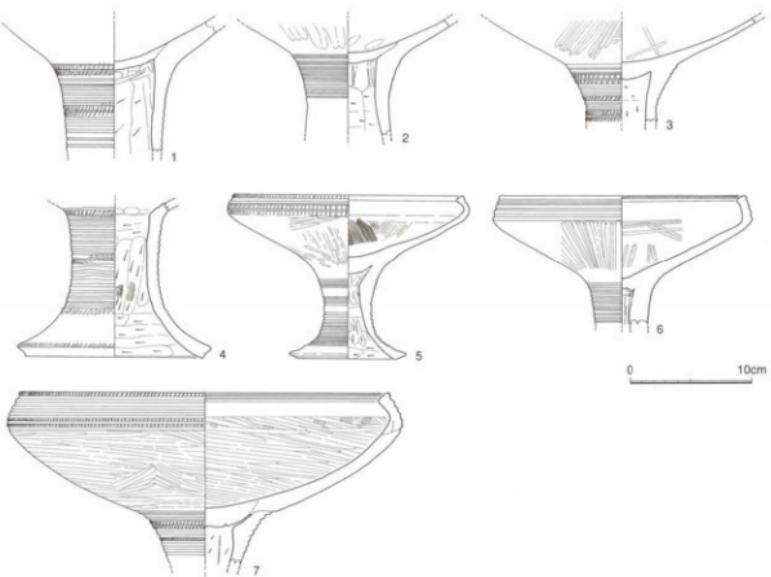
99-1~16は中期後半に位置づけられる遺物である。3、4は塩町式の壺で、10、11は広口壺である。14は底径の大きな脚部で、台付壺等の脚かもしれない。17、18は後期後半(V-3)の壺で、他の遺物と時期的に離たりがある。19は碗状に内溝する器種不明の破片で、外面を丁寧にミガキ、内面をケズる個体である。蓋あるいは脚部であろうか。



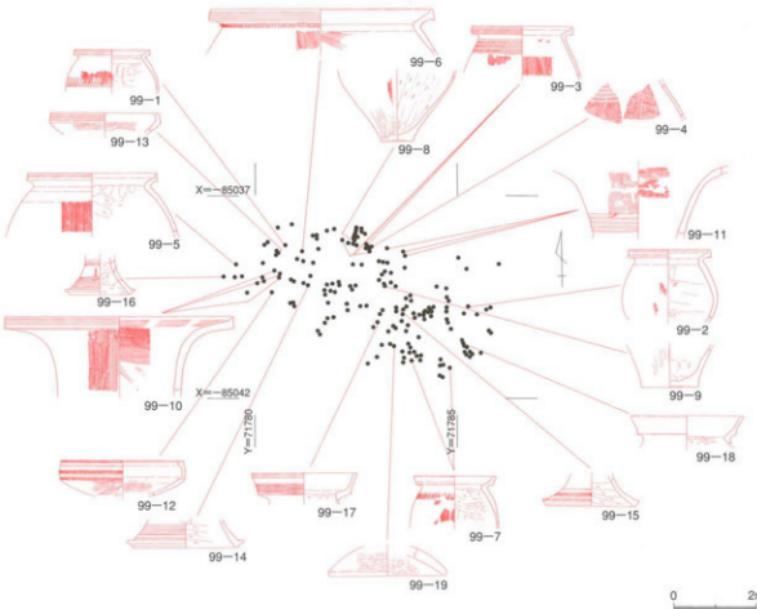
第95図 塹ノ内遺跡土器(漏り) AYD 1 (AYDD) 遺物出土状況図



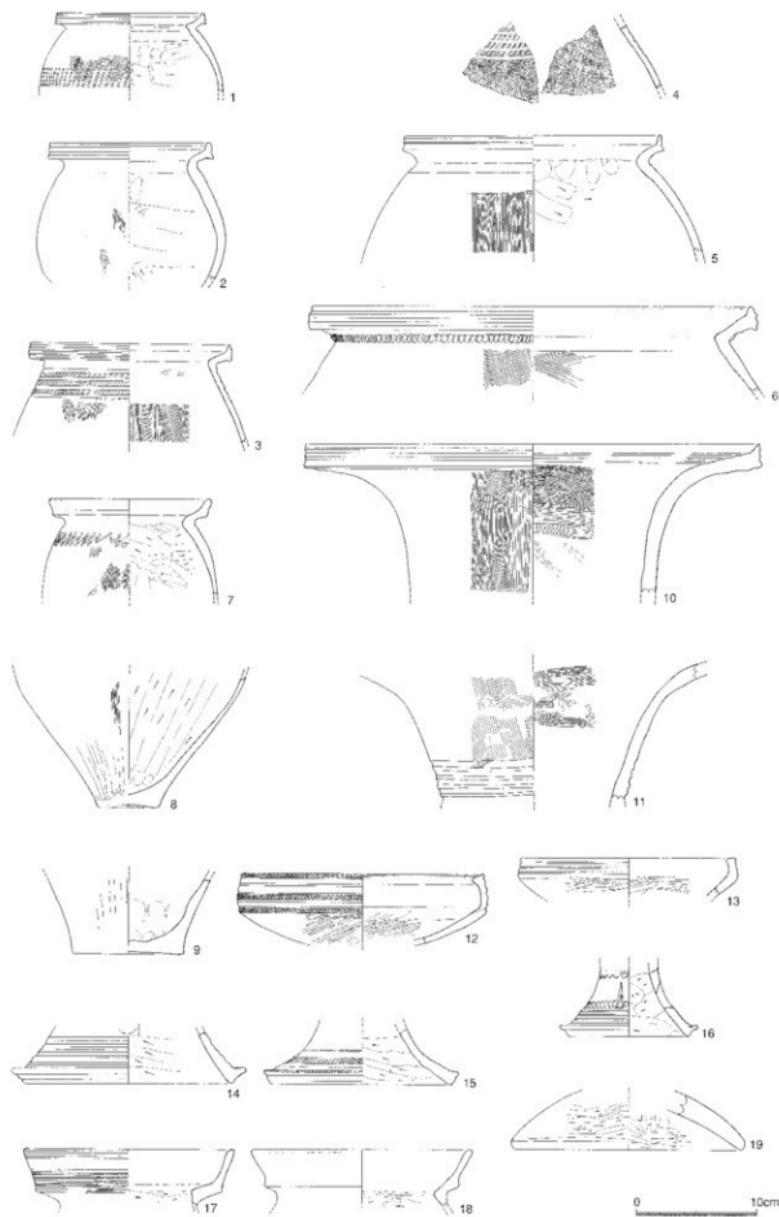
第96図 塙ノ内遺跡土器窯 AYD 1 (AYDD) 出土遺物 1 (S=1/4)



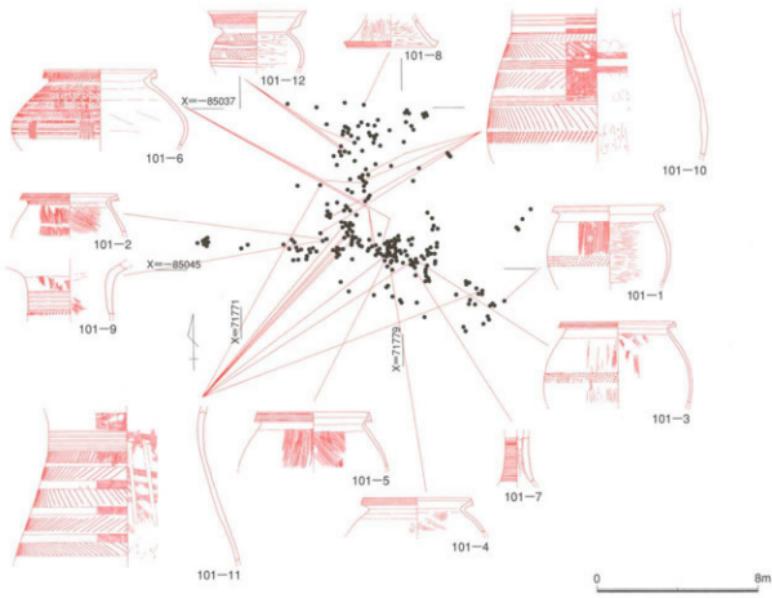
第97図 埠ノ内遺跡土器溜り AYD 1 (AYDD) 出土遺物 2 (S=1/4)



第98図 埠ノ内遺跡土器溜り11遺物出土状況図



第99図 塩ノ内遺跡土器窯11出土遺物 (S=1/4)



第100図 塙ノ内遺跡土器溜り12遺物出土状況図

土器溜り12（第100・101図、図版75～77）

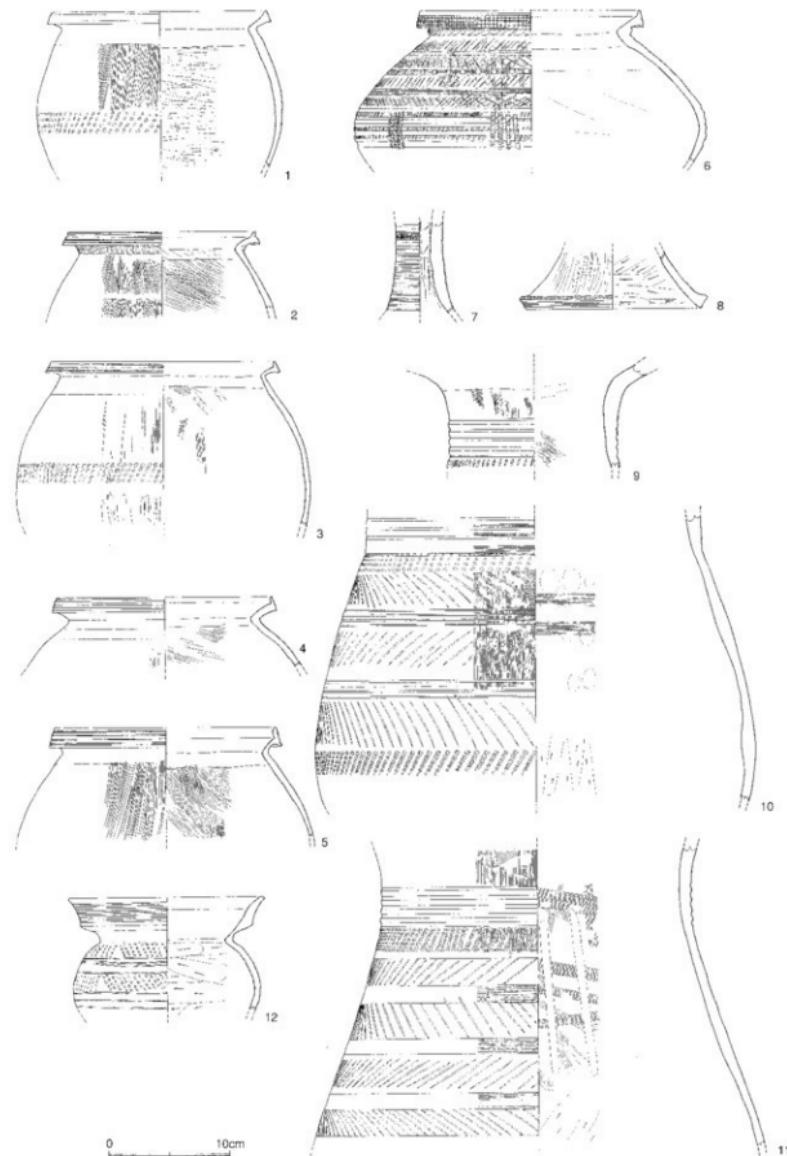
I 区に位置する土器溜りで、前記の土器溜り11、AYD 1 と同一層にあたる。弥生時代中期後半（IV-2）を中心とする土器溜りで、この部分は比較的包含層の厚さがあることから他時期の混入は少ない。

6は凹線文に刻目文、斜格子文、円形浮文などを組み合わせる装飾性の高い壺で、台付壺の可能性がある。塙町式土器そのものではないが、その影響が塙間見られる個体である。9～11は広口壺で、刺突列点文と綾杉文を入れる。12は複合口縁を持つ後期の壺で、刺突列点文と凹線を組み合わせた文様帯が入る。

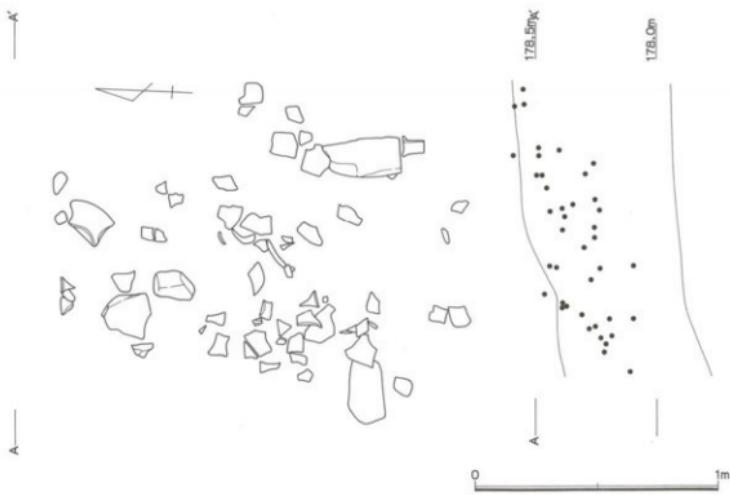
DYD 1（第102～105、図版78～80）

調査区最西端の D 区隅に検出した土器溜りで、弥生時代中期後半（IV-2）を中心に約40個体からなる。遺物は大小の角砾とともに堆積しており、この場に一括廃棄されたものの可能性は薄い。地形的な理由などで、包含層の中でも遺物密度の濃い場所と考えられる。

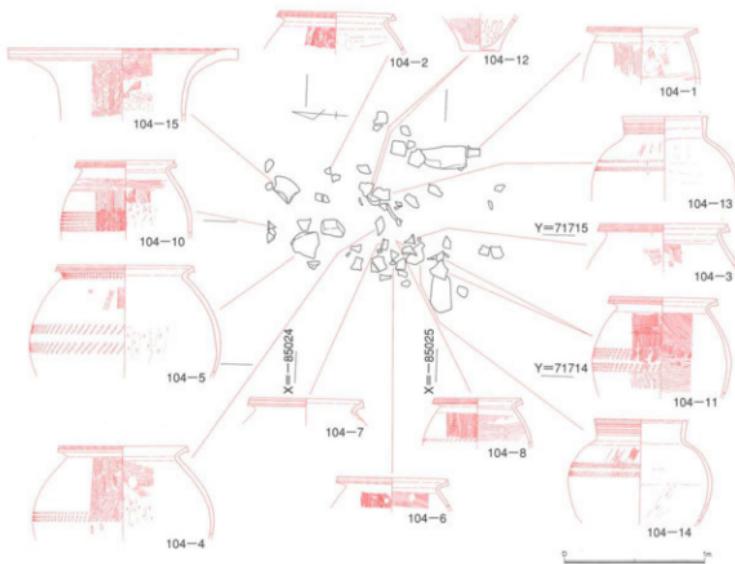
104-1～15は壺、壺類である。この遺跡で出土する典型的な中期後半の遺物であるが、高坏は全く出土していない。9は塙町式の影響を受けた個体である。13、14のような直口壺もこの時期に見られるもので、口縁の形状は高坏に似る。105-1～3は後期（V-2～3）に位置づけられる個体で、この時期の遺物は7点である。



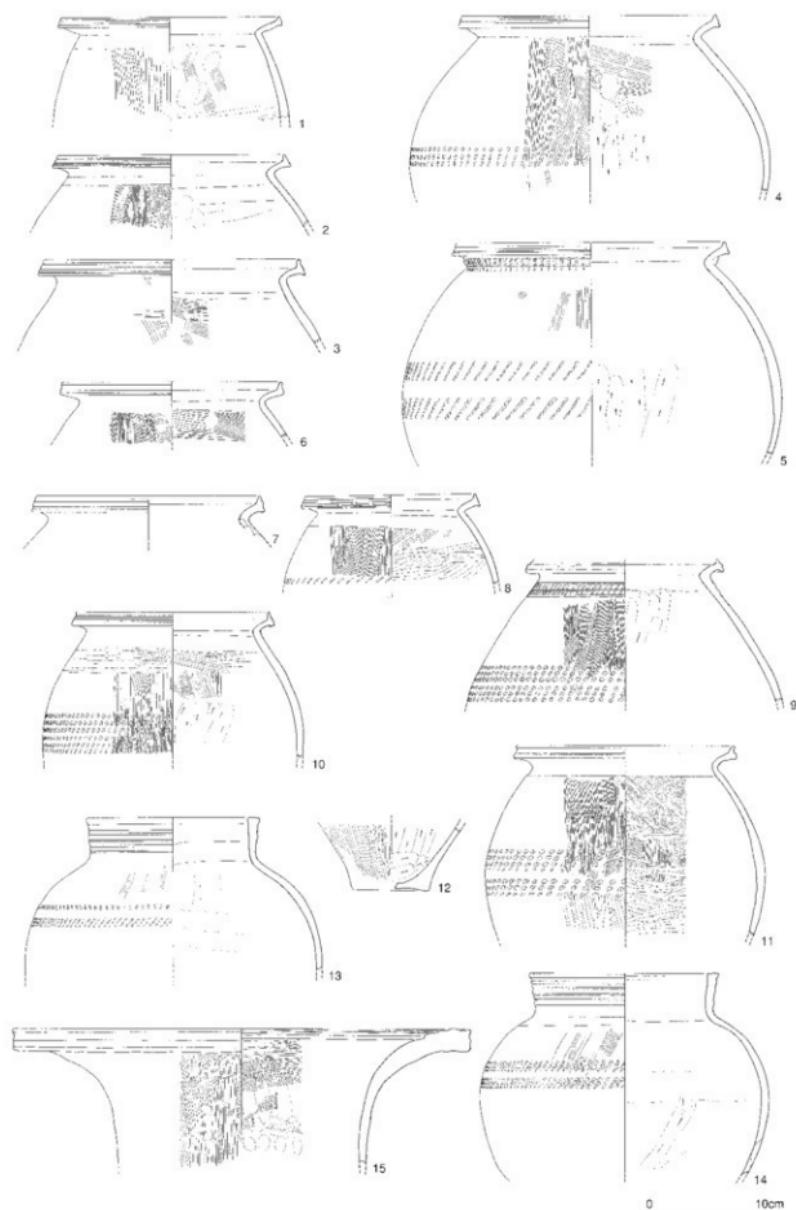
第101図 塙ノ内遺跡土器満り12出土遺物 (S=1/4)



第102図 堀之内遺跡 DYD 1 (DYDD) 実測図 (S=1/20)



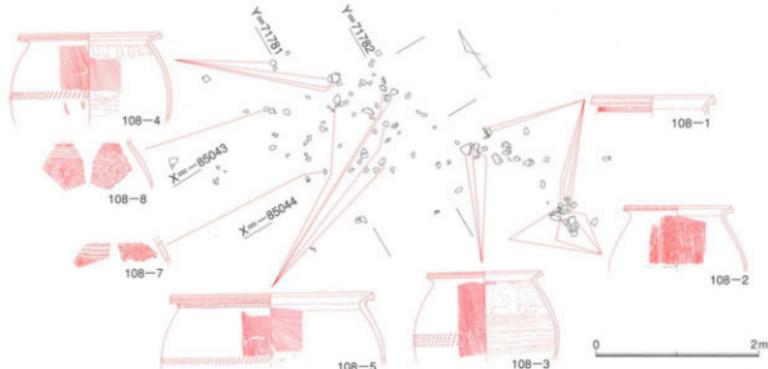
第103図 堀之内遺跡 DYD 1 (DYDD) 遺物出土状況図



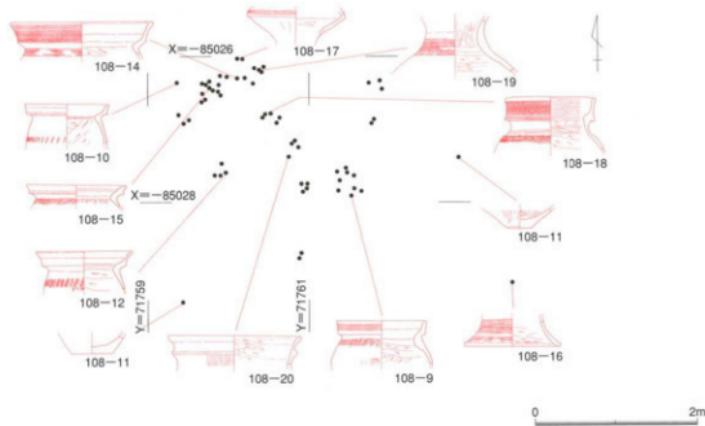
第104図 塵ノ内遺跡 DYD 1 (DYDD) 出土遺物 1 (S=1/4)



第105図 埼ノ内遺跡 DYD 1 (DYDD) 出土遺物 2 (S=1/4)



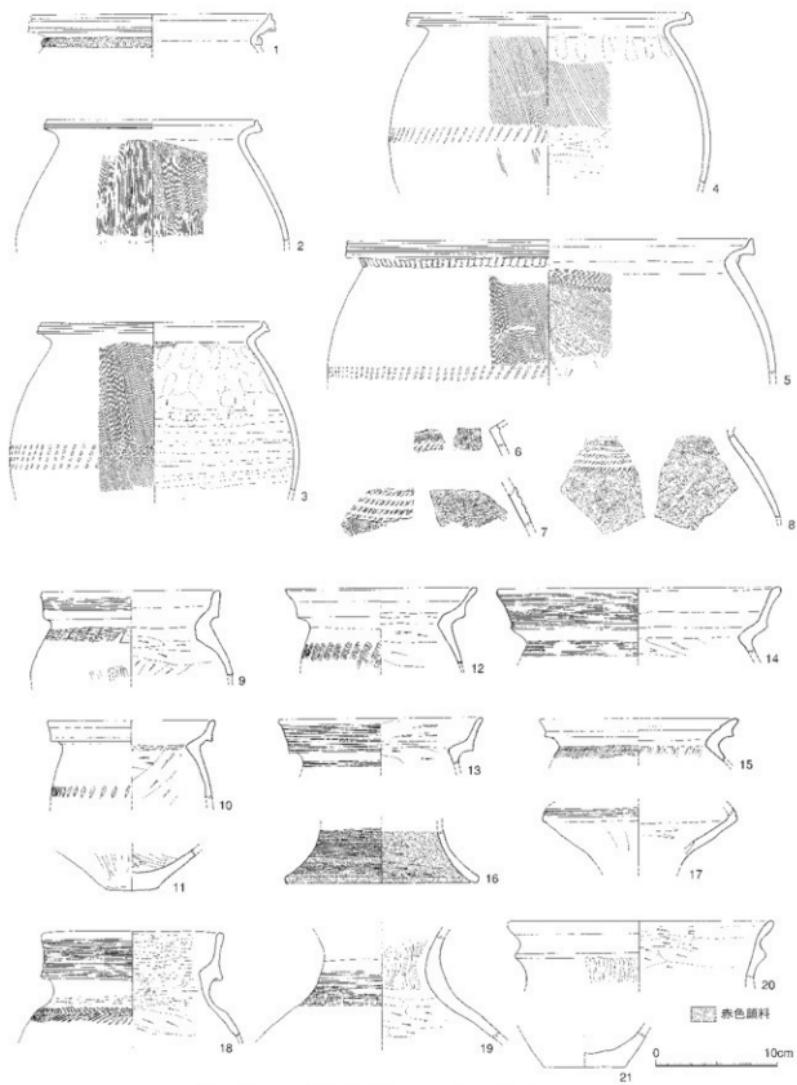
第106図 埼ノ内遺跡土器溜り 9 遺物出土状況図



第107図 埼ノ内遺跡土器溜り 10 遺物出土状況図

土器溜り 9 (第106・108図、図版80・81)

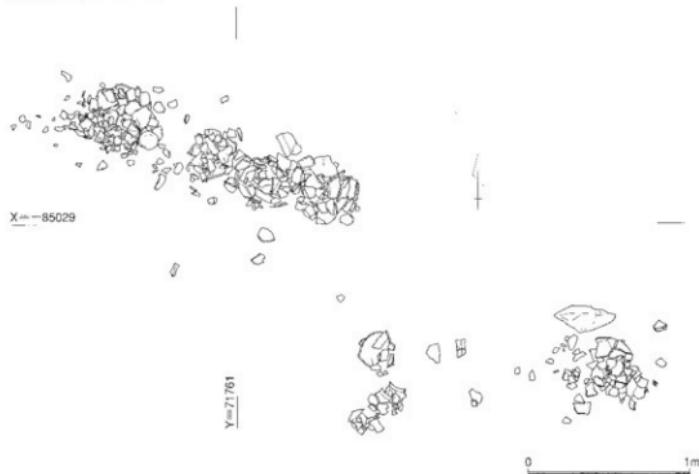
I区東端に集中して検出した土器群で、一括性が高い遺物と考えている。層位はI区からA区にかけて散在する弥生時代中期後半の土器溜りと同一である。出土遺物(108-1~8)は壺が大部分で、高坏は小片があるのみである。6、7、8は塩町式の壺片であるが、全て別個体である。



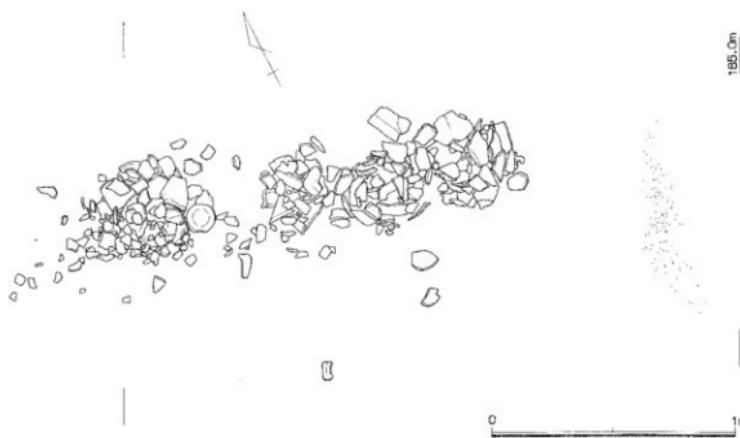
第108図 坑ノ内遺跡土器窯9・10出土遺物 (S=1/4)

土器溜り10（第107・108図、図版80～82）

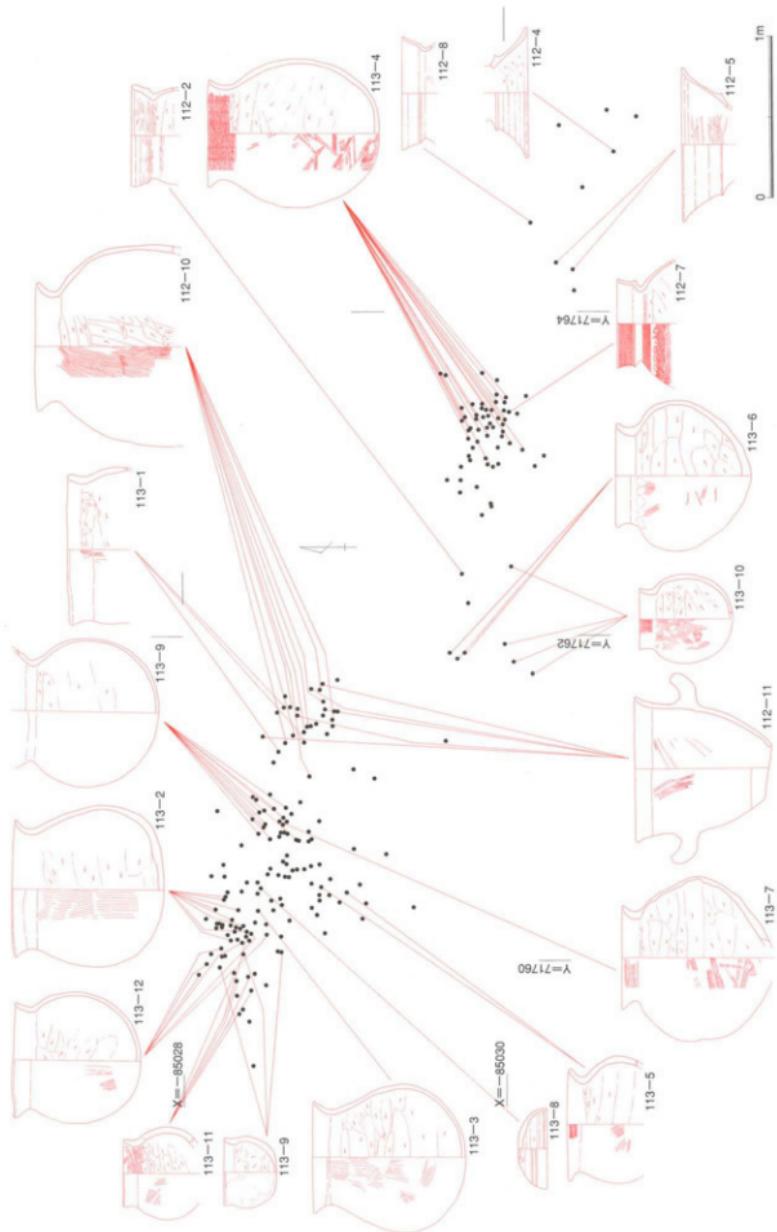
II区の山側に検出した土器群で、弥生時代後期後葉（V-3）を中心とする上器溜りである。層位は隣接する加工段1、遺構2の覆土と同様と考えられる。中期後半から後期初頭の出土量も無視できない数であるが、固化できる大きさの破片は皆無である。壇ノ内遺跡でこの時期の遺物が集中して出土した場所は、他にない。複合口縁に貝殻を用いた擬凹線を施す彫を主体とし、外面上赤色顔料を塗布する鼓形器台（16）、壺が混じる。壺の頸部直下に押し引き気味の刺突列点文や擬凹線を入れる個体も多い。20は外面に丁寧なミガキ、内面にケズリを入れる個体で、何らかの脚部である可能性も考えられる。



第109図 坑ノ内遺跡土器溜り1・2・3実測図 (S=1/30)



第110図 坑ノ内遺跡土器溜り3遺物出土状況図

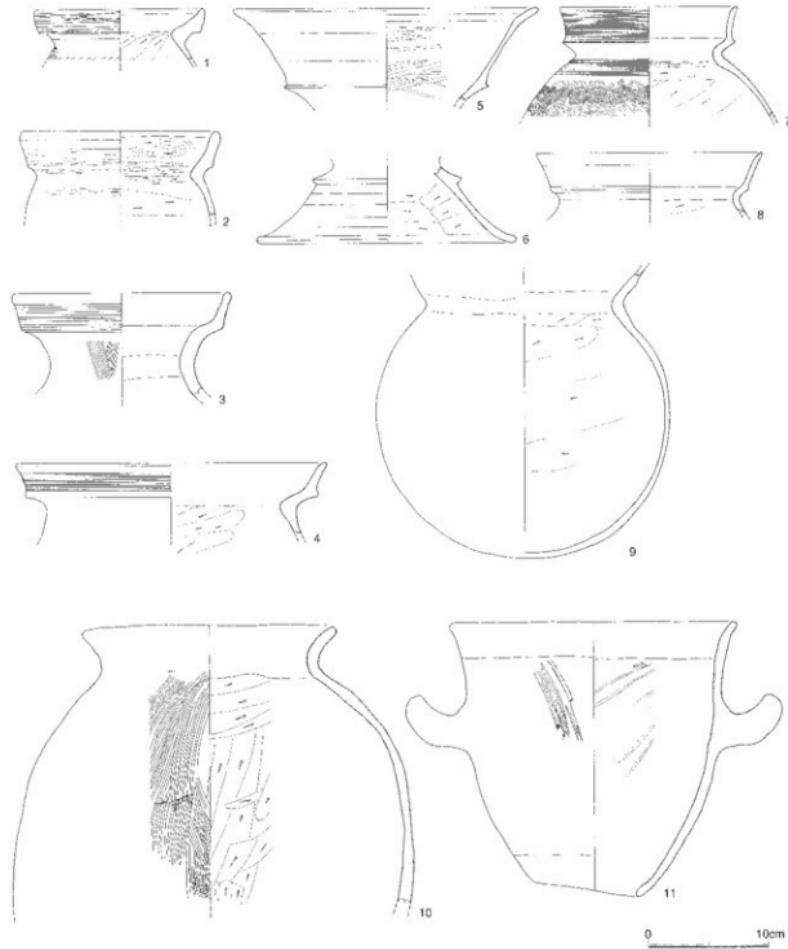


第111図 塙ノ内遺跡土器溝り1・2・3遺物出土状況図

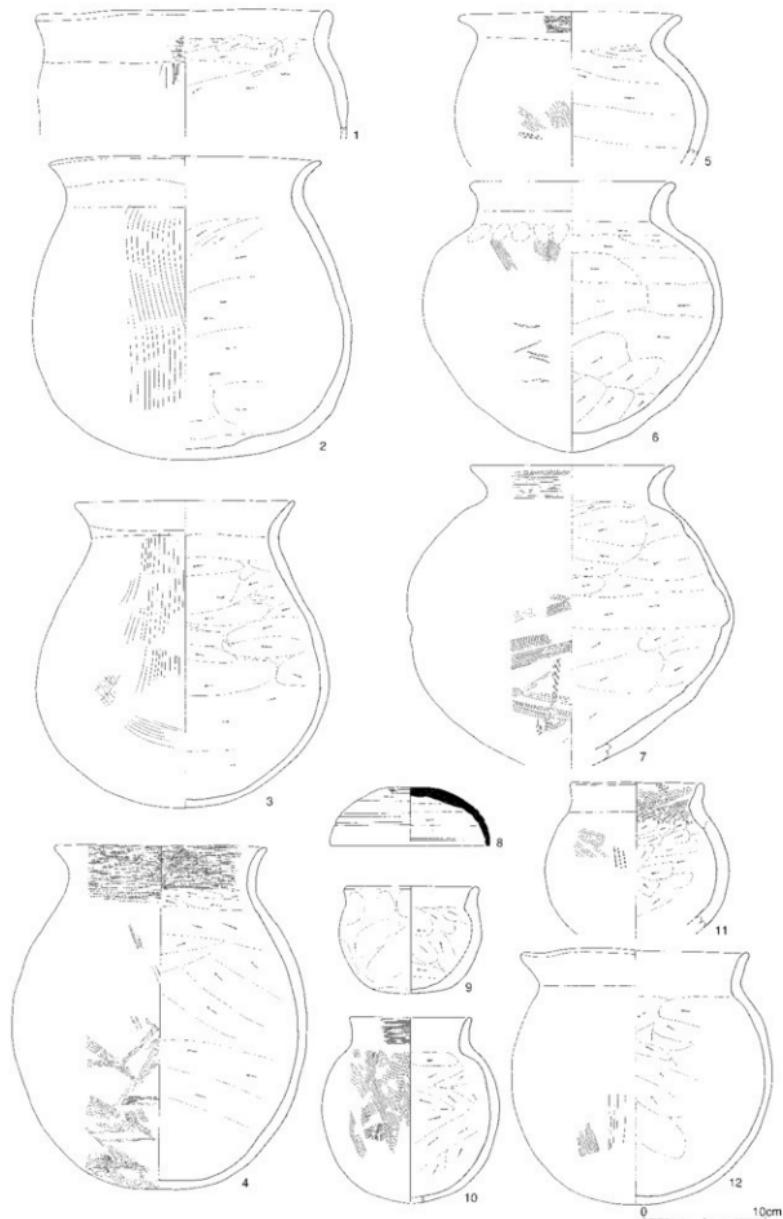
土器漁り 1・2・3 (第109~113図、図版82~87)

II区の加工段1付近で検出した土器群である。調査の進行上3群に分けて取り上げたが、層位的にはむしろ2群に分かれる可能性が高い。弥生時代の壺、鼓形器台を含む一群と、須恵器、土師器からなる6世紀後葉から7世紀初頭の一群である。基本的に土器漁り1は前者の一群、2・3は後者の土器群であるが、調査段階では層位的な差を認めないままに一括取り上げをしたため、土器漁り1にも6世紀後葉に位置づけられる上器が混入している。

土器漁り1は弥生時代後期から後期末を中心とする土器漁りである。前記の通り土師器壺が混じ



第112図 塙ノ内遺跡土器漁り1・2・3出土遺物1 (S=1/4)



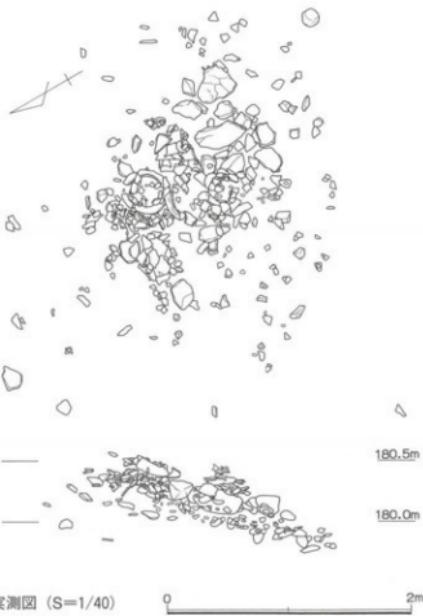
第113図 塙ノ内遺跡土器類 1・2・3出土遺物 2 (S=1/4)

るが、第111図のように113-5、6、10は弥生土器群から離れて出土しており、層位を誤って取り上げたと考えられる。

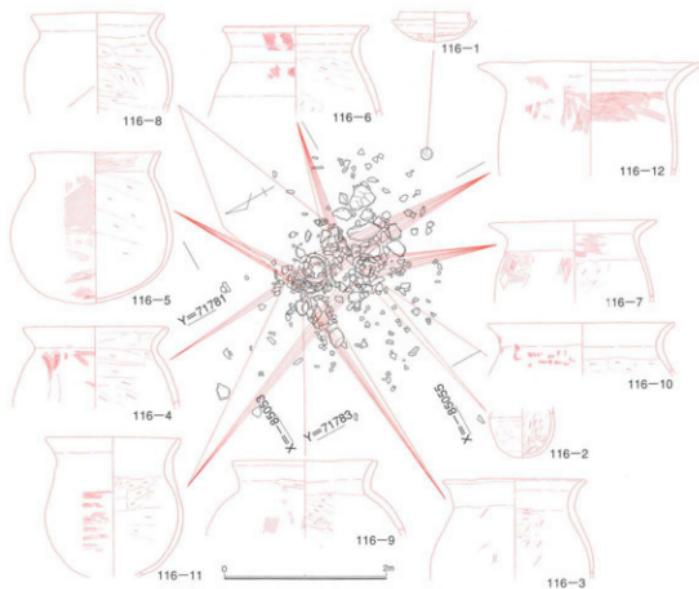
土器溜り2・3は須恵器壺蓋と土師器壺、甌からなる土器群である。113-8は天井周辺に荒いケズリを施す壺蓋で、6世紀後葉に位置づけられる。土師器壺は113-7のような肩部の張るものと、113-2、3のように胴体下部が張る個体がある。これらも6世紀後葉から7世紀初頭の土師器と考えられる。

AKDD（第114～116図、図版87～89）

土師器壺を主体とする土器溜りで、AYD 1の直上に位置する。10点ほどの角礫が上面をほぼ水平になるようにして並んでおり、壺類はその上に集積していた。しかしこの場所



第114図 坦ノ内遺跡 AKDD 実測図 (S=1/40)



第115図 坦ノ内遺跡 AKDD 遺物出土状況図



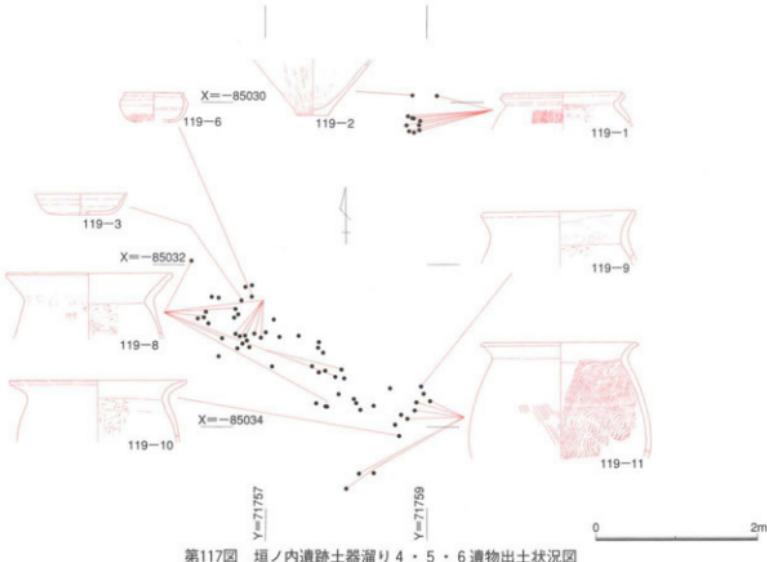
第116図 塚ノ内遺跡 AKDD 出土遺物 (S=1/4)

のセクションでは、疊群はどの層位の面にも対応しておらず、掘り方も検出できなかった。そのためこの疊群が人為的なものとは判断できない。確実なのは、土器群と疊群がほぼ同時もしくはごく短期間に集積したことである。

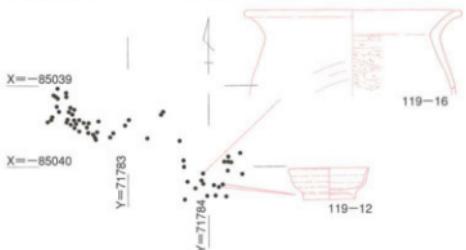
出土遺物は須恵器では壊身、土師器壺、甕があり、甕は口縁を下にして潰れている個体（5、12など）があった。1は焼成の悪い壊身で、表面の剥離が多く見られる。2は外面に赤色顔料を塗布する壺である。甕は口縁が直線的に開く胴の張らない個体（3、6、7、11）と口縁が緩く弧を描いて外反する個体（4、5、8、9、10）がある。6世紀後半から7世紀にかけての土器群といえる。

土器溜り4（第117・119図、図版89～91）

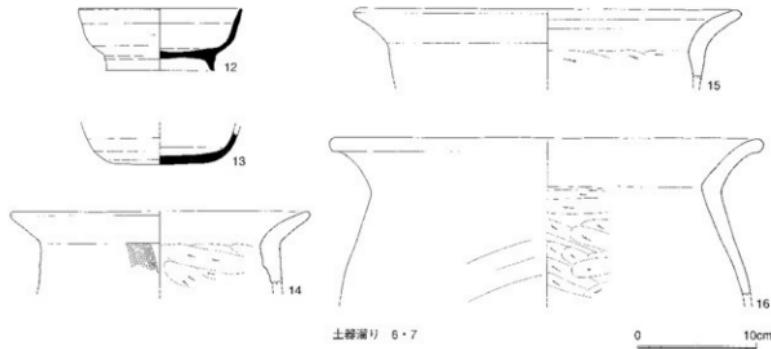
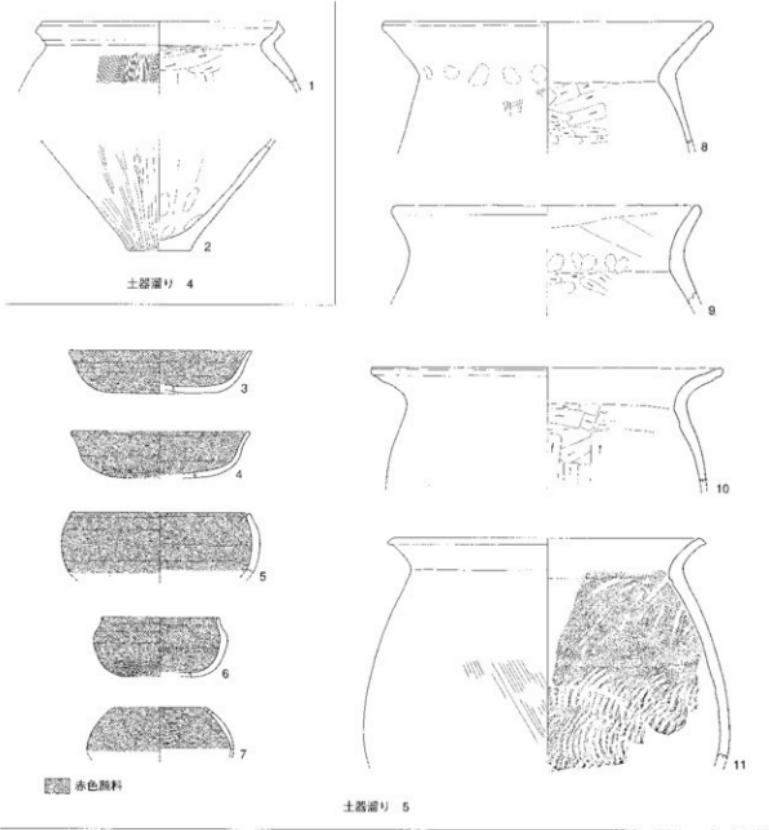
弥生土器からなる土器溜りで、接合したところ僅か2点に収まってしまった。1は頸部から口縁にかけてくびれが入る特徴的な甕である。内面は頸部下までケズリ、外面には刷毛目を入れる。後期初頭（V-1）頃と考えられる。



第117図 堀ノ内遺跡土器溜り4・5・6遺物出土状況図



第118図 堀ノ内遺跡土器溜り7遺物出土状況図



第119図 塙ノ内邊跡土器溝り 4 · 5 · 6 · 7 出土遺物 (S=1/4)

土器溜り 5（第117・119図、図版89～91）

II区に検出した丹塗り上器と土師器壺を主体とする土器溜りである。119-3～5は丹塗りの壺である。ヘラ切りあるいは糸切りの後、ケズリやナデ、不定方向のミガキを入れて底部を整形するものである。焼成後、全面に赤色顔料が塗布される。口縁部外面が横方向の丁寧な塗りであるのに対し、内面や底部は一定方向に勢いよく塗り上げる。こうした特徴は垣ノ内遺跡出土の丹塗り土器全般に見られるものである。これらの土器は、7世紀後葉から8世紀代に位置づけられる。7は口縁が内傾する壺であろうか。内面には丁寧なケズリがあり、口縁には補修孔が開く。

土師器壺は、口縁が直線的に聞く胴の張らない個体で占められる。10は口縁こそ外反する形状であるが、胴部があまり張らないまま伸びる兆候が見られる。11では内面に同心円状のあて具痕が残る壺で、こうした個体は包含層も含め2個体確認されている。

土器溜り 6（第117・119図、図版89～91）

II区に検出した土器溜りまで、層位的には土器溜り5と同一である。個体数は5、6点で、図化できる遺物は3点（13～15）でしかない。13は底部回転糸切りの須恵器壺で8世紀中葉以降に位置づけられる。土師器壺は、口縁部が直線的に外へ開くもので、おそらくは胴部があまり張らずにバケツ状に下に伸びるものであろう。

土器溜り 7（第118・119図、図版91）

I区に検出した土器溜りで、須恵器の壺と土師器壺からなる。個体数は7、8点で、図化できる遺物は2点（12、16）であった。12は高台の付く壺で、回転糸切りの後、高台を貼り付けて軽くナデ調整を行うもので、8世紀中葉以降に位置づけられる。16はやや径の大きい壺で、口縁は直線的に開いた後、端部を正縁状に丸く整形する。

第4節 包含層出土遺物

包含層の遺物は計400箱に及んだが、時間と労力の関係でこれらを細片にいたるまで分類整理することは難しかった。そのため時期と部位の判別可能な遺物をできる限り抽出し、整理対象を約150箱まで正確化した。これらを分類・集計した上で、代表的なもの、特徴的なものに限って掲載している。非掲載の遺物も分類した上で、鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。掲載遺物共々、今後の活用を期待したい。

縄文土器（第120～123図、図版92～98）

縄文土器は計約4,500点出土した。出土位置の分布では下布施川に近い低地部分（B区、C区）が圧倒的に多く、山側のI～III区では散漫であった。縄文時代の造構は検出されず、出土遺物の時期幅は広いものの層位も細分できなかった。そのため遺物は分類の上で原則古いものから掲載している。

中期の土器は船元2式から里木2式の上器が出土している。総点数は約3,300点である。約3,150点が里木2式に区分される撚り糸の入る土器で、残りの約100点が縄文地の船元2式から4式である¹¹¹。撚り糸地の上器は、撚りの大小や施文方向の違いで細分可能であったが、今回は一括している。

後期では中津2式から崎ヶ鼻式までが出土している。中津式の上器は約10点、福田K2式から崎ヶ鼻式の十器が10点程度確認できた。この他に、時期不明の刺突と凹線を用いる無地文の土器が10点ほどあり、これらは船元3式の可能性もある。晩期では篠原式、谷尻式にあたる孔列土器と、突帯文土器が出土しているが、数点に過ぎない。

このように里木2式の上器量が突出しており、その前後に位置する船元式と後期前半の土器を合わせてひとつのピークが想定される。また後期後半の空白期を挟んで、晩期前半からは数こそ少ないものの土器が出土していることが分かる。粗製土器は後期から晩期のものが出土している。

第120、121図には中期の上器を掲載した。1～5、7は縄文地のキャリバー口縁を持つ深鉢で、1では口縁外側に半裁竹管による凹線が入る。2では凹線は曖昧だが端部にしっかりとしたナデを行っている。3、4は同一個体と考えられ、外面に縄文を施すことで、端部には横方向に縄文を入れている。5も同様に端部に縄文が入るが、縄目は不定方向にはいる。7は外面に指頭圧痕を連続して付けるもので、同じ場所に凹線が入るものと同系統の土器であろう。これらの土器は船元3式である。

6は粘土帯を外面に貼り付けて肥大させるもので、外面にヘラ状工具による刻み目が入り、端部と内面に縄文をいれる。この個体は船元2式と考えられるが、山陰特有のいわゆる波子式¹¹²の範疇にはいるかもしれない。

8、14は半裁竹管による2条凹線を口縁に入れ、ナデ上げる個体だが、8では縱方向の凹線区画が加わり、14では凹線に押し引き気味の刺突を加えて変化を持たせている。船元3式E類にあたるだろう。10～12は半裁竹管による凹線が頭部に入る深鉢で同一個体と考えられる。大振りながら不鮮明な縄文が入る。船元3式B類である。9、13、15は特徴的な縄目の大きな縄文地を持つものである。口縁部と頭部には半裁竹管を用いた弧状のモチーフが連続して入る。船元3式B類である。

16は半裁竹管文や縄文の特徴から船元式の範疇に含めたが、口縁の肥大具合から見て後期の縁帶文土器になるかもしれない。17は繊細な縄文と半裁竹管の波状文が特徴である。船元3式から4式である。18は内外面とも縄文の波状口縁で、半裁竹管とヘラ状工具による多条の凹線に入る。船元3式D類である。19は縄文の入らない船元3式E類である。凹線と連続する刺突を入れる。20も同様に刺突が入るが、地文に1条おきに太さの異なる縄文が入る。船元4式に相当し、撫り糸地の里木2式への過渡期であろう。

21~24、第121図1~20は撫り糸地文の土器で里木2式にあたる。21~24はキャリバー口縁で、半裁竹管による波状文と連弧文が入る。口縁端部はナデ調整である。第121図1、2、5は交互刺突による特徴的な波状文が施される土器で、口縁の作りはやや薄い。3はY字形の粘土帯を貼り付ける。

6~11、20は波状文の入らないキャリバー口縁で、半裁竹管で横方向の凹線を入れるもの（6、9、11）と口縁外面をしつかり撫でるもの（7、8、10）がある。9、11は口縁外側を肥大させ、半裁竹管を用いて区画する。20は凹線区画内に刺突を施す。

12は縄文地に貼り付けた突帯上をさらに交互に刺突するもので、船元2式の範疇であろうか。

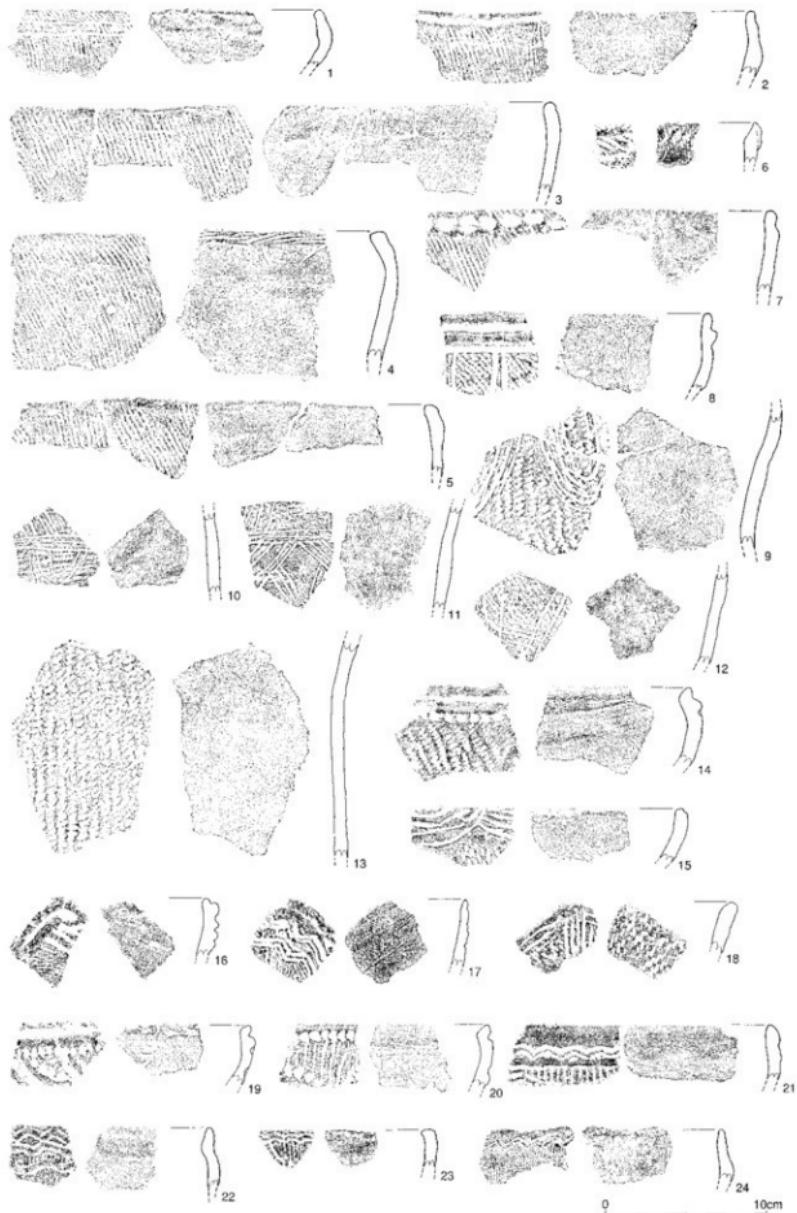
4、13~19は深鉢の頸部で、半裁竹管による連弧文が入る。18は他と撫り糸が異なるが、同様の連弧文を持つ。19は頸部に引いた連弧文の中のみ撫り糸地が残るもので、下位はナデ消している。

21~25は縄文時代後期前半の土器で、磨消し縄文を持つ中津式である。21、22は波状口縁の深鉢で、23~25はその胴部である。

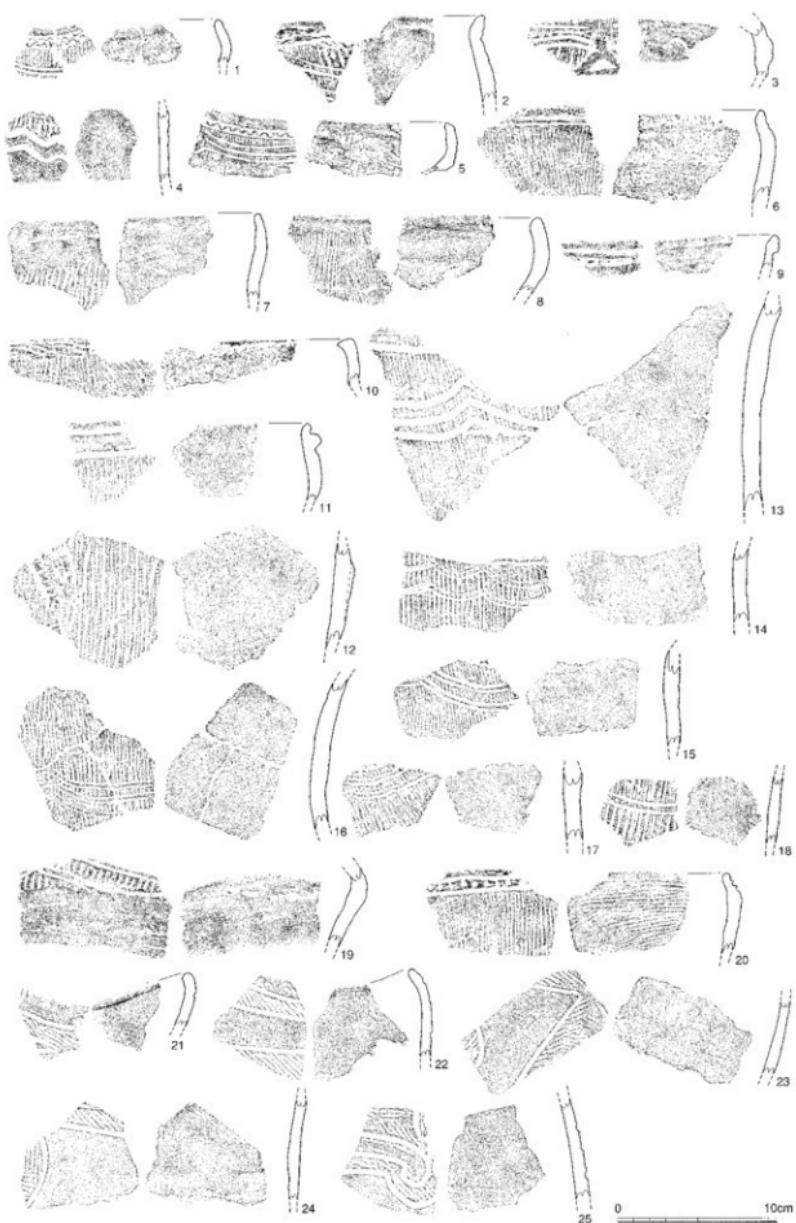
第122図1は頸部が大きく屈曲する鉢である。口縁内面はミガキ調整で、端部のみ刻み様に縄文が僅かに入る。頸部外面は丁寧に横方向のミガキをほどこし、縄文地の胴部とは明確に区別される。2は口縁が上方にせり上がる鉢で、外面に縄文を施す。崎ヶ鼻式の土器である。

3は縁帶文土器の波状口縁部で2条凹線を主体とする区画と渦巻き文が入る。凹線との関係が明確でないが部分的に縄文が入る。渦巻きの中心と口縁最下部に孔が貫通する。福田K2式並行の土器だろう。4は底部以外完全に復元できる個体である。2条凹線を用いたG字形と逆G字形モチーフが交互に並ぶ。それぞれのモチーフは上下で橋状に渡された文様帯で繋がり、燕手状もしくは三角形状のアクセントが入る。（第122図展開図）頸部は胴部の磨消しと同様横方向の丁寧なミガキである。口縁端部はくの字形に肥大させ、外端部に二条の凹線を入れて、縄文を充填する。口縁には2か所の突起が付くが、一方は三角形状に大きく穴を開けて把手風に仕上げ、他方はやや小さく穿孔する。内面はナデとミガキである。口縁の断面形は福田K2式から布勢式への過渡的な形状であるが、頸部が無文化し、口縁部と胴部が完全に区分けされるなど、より布勢式に近い段階に位置づけられるだろう。

5~9は横方向の凹線を基本とする上器である。5、6は縄文地で太くしっかりとした凹線が3、4条入る。6では口縁内側に回り込んで縄文を入れる。これらは縄文地であるから、崎ヶ鼻式の土器であろう。7、8は凹線を四角もしくは長楕円にめぐらすもので、全面ナデ調整である。小破片のため形状は分からぬが、丸く碗状に成形される精製浅鉢の可能性が高い。9は浅い沈線が4条横方向に入る浅鉢で、丁寧なナデを施す。晩期初頭の上器である。10はヘラ状工具もしくは小型の半裁竹管を用いた凹線と、円形の刺突が頂点に入るもので、口縁に段の付く晩期の浅鉢であろう。11、12、13は谷尻式の深鉢である。11は口縁外面に環状の突起を貼り付け、下に向かって浅い



第120図 埼ノ内遺跡出土縄文土器 1 (S=1/3)

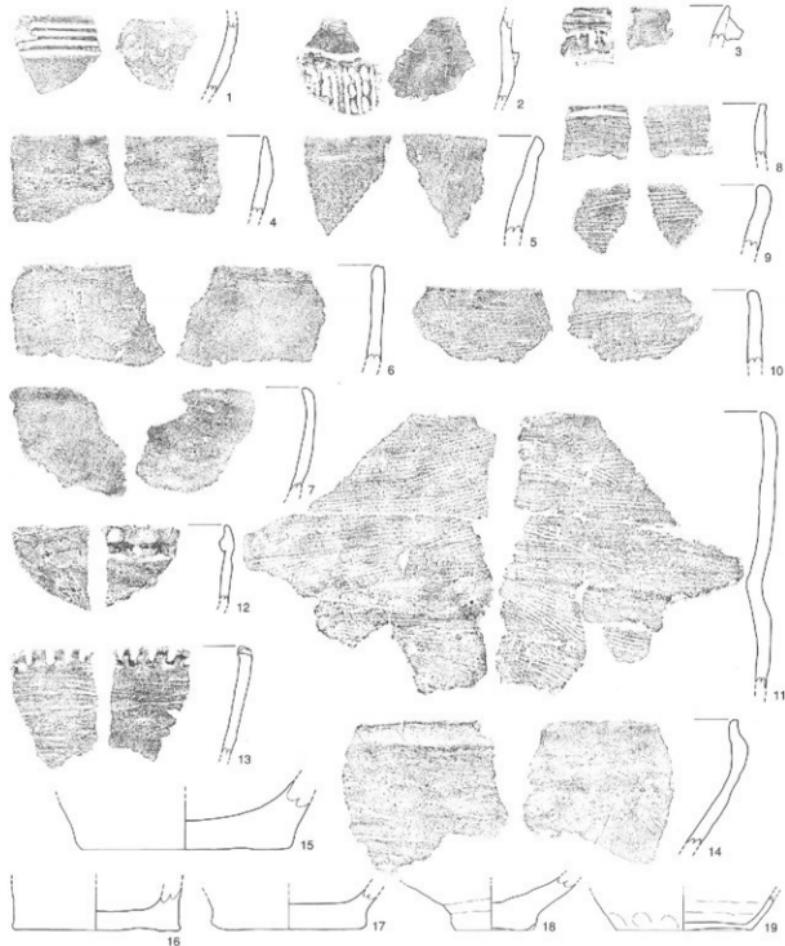


第121図 垣ノ内遺跡出土繩文土器2 (S=1/3)



第122図 垣ノ内遺跡出土縹文土器 3 (S=1/3)

線刻を施す。口縁端部は稜をなして上げて溝状に凹ませる。12は貫通しない円形断面の刺突を口縁内側に入れる孔列土器である。13は口縁端部に方形断面の刺突を入れるもので、口縁外面に円形の突起を付ける。第123図1は外面に横方向の凹線を入れてから丁寧にミガキをする個体で、晩期の浅鉢のようである。2は時期不明の土器で、貼り付け突帯を境として縱方向のモチーフが入る。地文は無く、太めの凹線と刺突を組み合わせている。色調も他の土器とは全く異なり暗紅褐色で、胎土も含有物が少なく特徴的である。形態的には地文を持たず、凹線と刺突を多用する船元3式E類の深鉢に類似するものがあるが、可能性を指摘するにとどめたい。3は断面が台形状の突帯に割込み目を入れる突帶文土器である。



第123図 塹ノ内遺跡出土繩文土器4 (S=1/3)

0 10cm

4～12は粗製の深鉢で、4～8は両面ナデ調整、9～11は貝殻条痕の調整である。条痕の入るものは晩期の深鉢であろうか。12は口縁の内側を肥大させて指頭圧痕を連続して入れる個体である。13は口縁端部に荒い刻み目を入れる深鉢で、晩期初頭のものである。14は粗製の浅鉢である。晩期初頭であろうか。

15～19は底部を集めた。15は捺り糸が入る里木2式の深鉢の底部である。16、17は貝殻条痕の入る晩期の深鉢の底部であろう。18は僅かに上げ底となるもので、外面は丁寧なナデが施されている。19は厚さの非常に薄い上げ底である。

弥生土器（第124～130図、図版98～111）

弥生時代の土器は中期後半（IV-2）以降の各時期の土器が出土している。この時期は、本遺跡において竪穴住居が構築され始める時期と合致する。また複合口縁の甕を主体とする古式土器に入るものも出土しているので、ここでは弥生時代中期後半から一括して取り上げる。表11-1のように遺物量では中期後半の遺物が突出する傾向が強く、結果としてこの時期に多い高壺と広口壺の出土量が目立っている。

中期の土器（第124～129図、図版98～109）

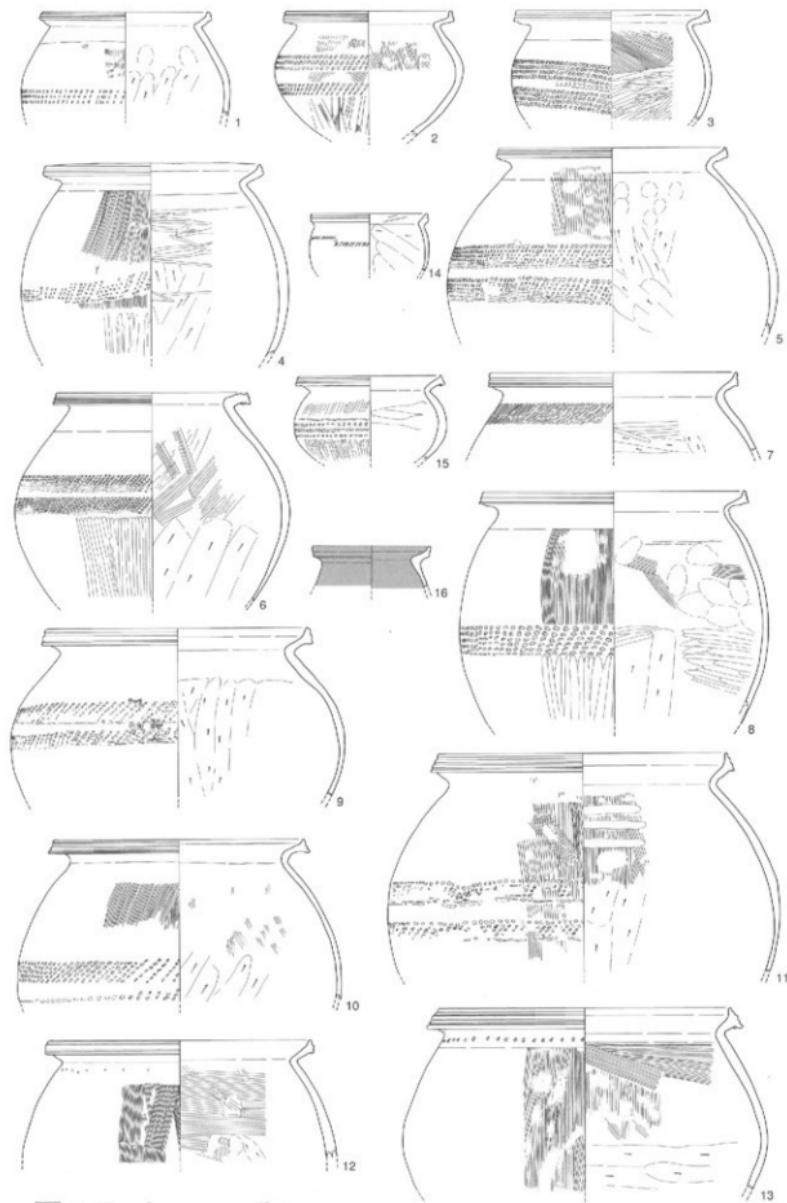
124-1～125-9には、中期後半の甕・壺類を挙げた。口縁端部には、凹線が2～3本に入る程度の幅の狭い平坦面を作り出すが、上下あるいは上ののみに僅かに拡張させる場合もある。胴部外面は頸部から胴部最大径付近までが刷毛目、以下底部まで縱方向のミガキを施す。胴部最大径付近には刺突列点文を2段入れる個体が多い。内面は胴部最大径以下に縱方向のケズリを残し、頸部までは刷毛目やミガキを施すが、最終仕上げにこれをナデ消す場合もある。最後に頸部直下を横にひとナデするのも特徴である。また、口径が10cm前後、15～18cm、21cm以上の3サイズに大別される。

125-1～9は頸部の貼付突帯に刻みを入れる個体である。ヘラ状工具で刺突するもの（1～3）、押し引き気味に刻むもの（4、5）櫛状工具を用いるもの（6、8）、断面長方形の工具で捺りながら刺突するもの（9）などのバリエーションがある。7は板材を斜め方向に連続して押し引きするもので、胴部の刷毛目と同じ工具を用いているようだ。

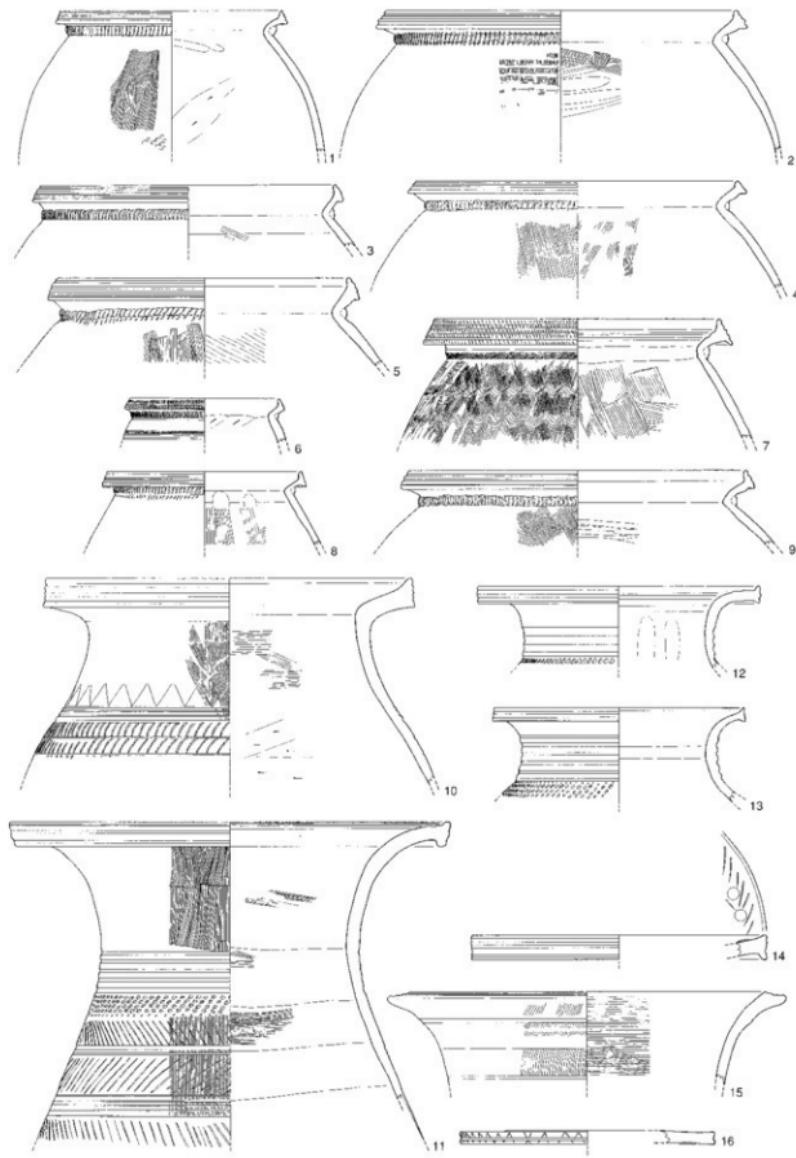
125-10～126-8は広口壺である。口径が30cmを越え、頸部を太く長く採るものが主体で、口径20cm前後の短頸のもの（125-12、13）が少数ある。口縁端部は垂直あるいはやや外傾させて凹線2～4条が入る。頸部外面は刷毛目調整で、下部には多条の凹線を週らして胴部と区分するものが多い。胴部文様には多条の凹線、貝殻刺突文、刺突列点文、羽状文、綾杉文を組み合わせている。125-14は口縁部内面に施文するもの、16は口縁端部にヘラ抜きのX模様を施文するもので各1個体のみ出土している。

126-9～11は小型の壺類で、11は全面に赤色顔料を塗布している。12は中央に孔を貫通させる蓋、15～18は台付壺と低脚壺の脚部で、脚部外面に丁寧なミガキが入る。17、18は外側ナデ調整で、後期に位置づけられる可能性がある。20は注口土器片、21は壺片を用いた紡錘車である。22、23は用途不明の土器品で、22は土器片をオセロ駒状に整形した土製円盤、23は土製小玉である。

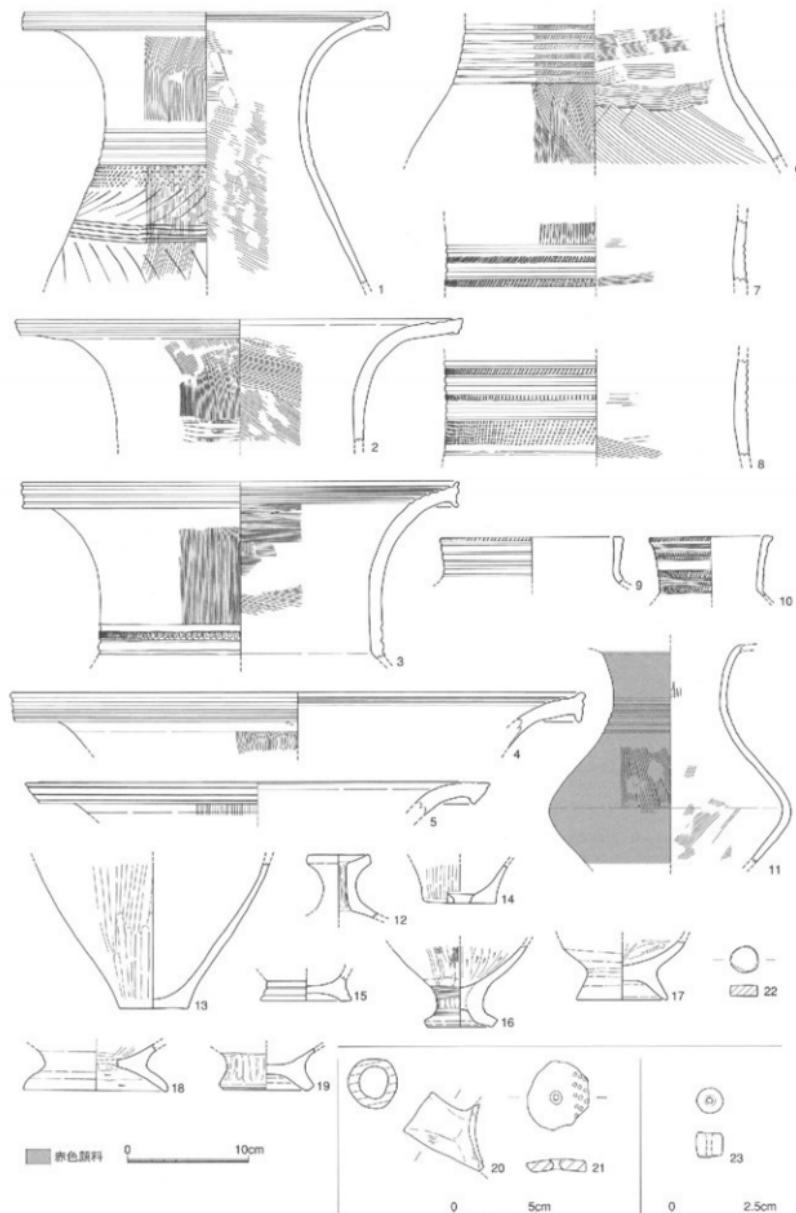
中期後半の土器で特徴的のは、塙町式土器の影響を受けた個体（以下、ここでは塙町系土器・塙町系と記す。詳細は第5節を参照されたい。）が一定数見られることである。甕・壺類では約100



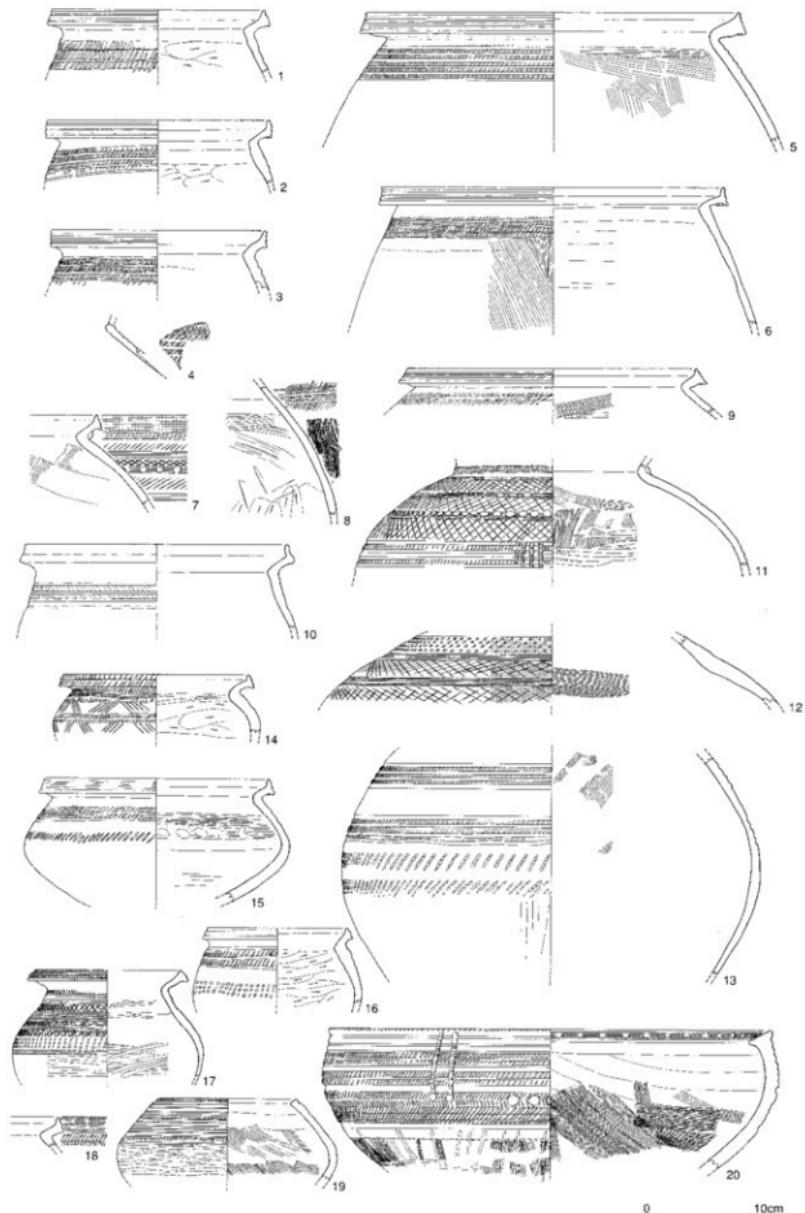
第124図 堀ノ内遺跡出土弥生土器（中期）1 (S=1/4)



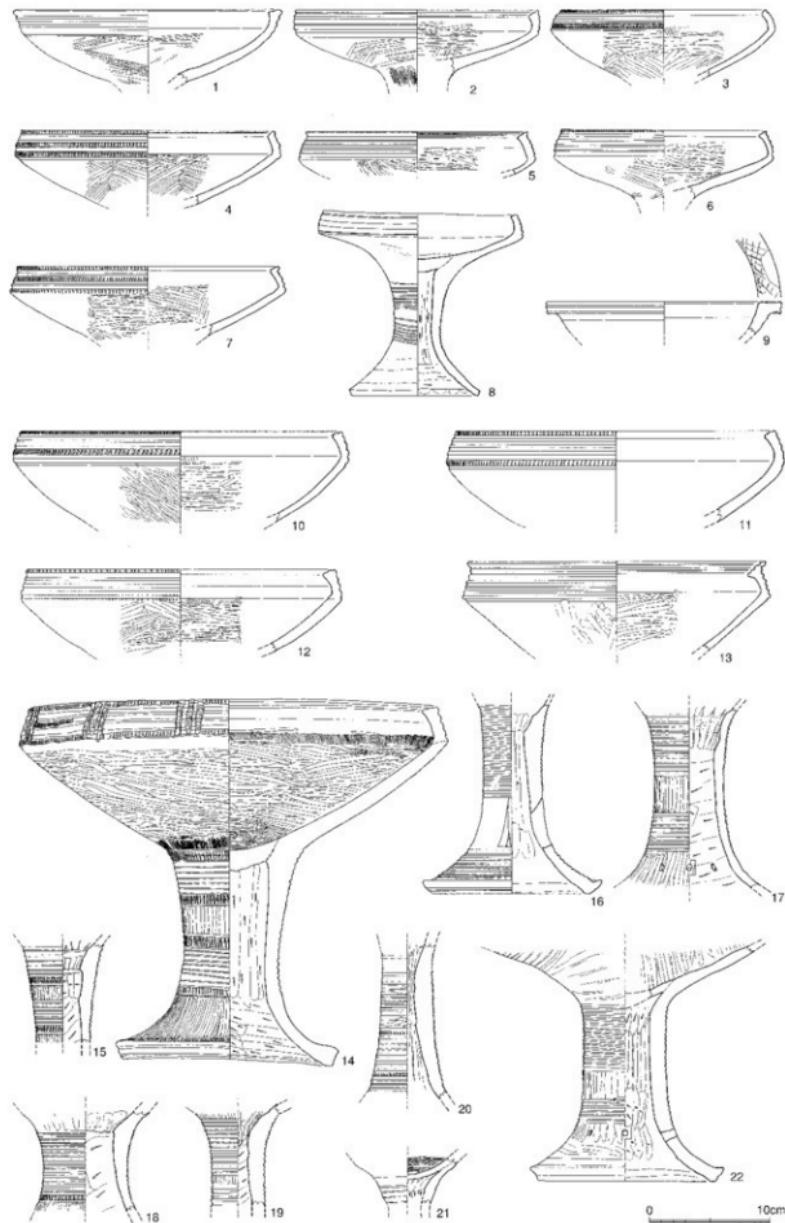
第125図 堀之内遺跡出土弥生土器（中期）2 (S=1/4)



第126図 堀ノ内遺跡出土弥生土器（中期）3 (1~19・22は S=1/4、20・21は S=1/3、23は S=2/3)



第127図 塙ノ内遺跡出土弥生土器（塩町系）4 (S=1/4)



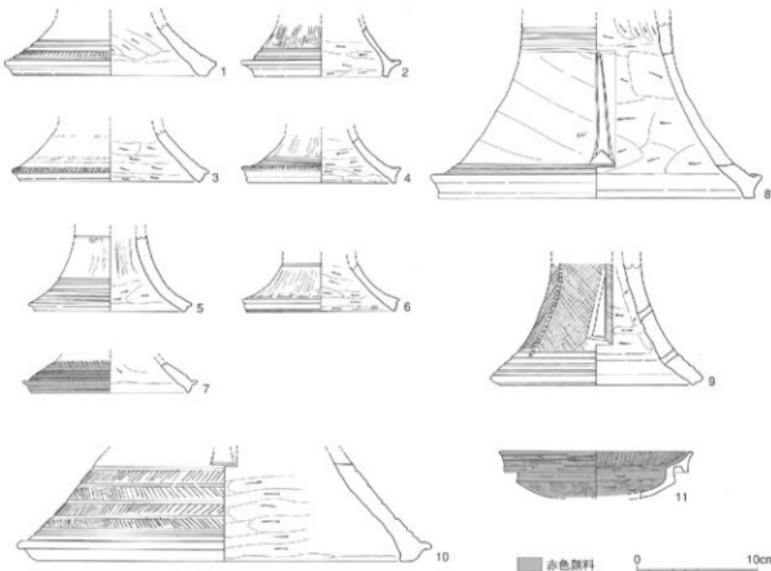
第128図 塙ノ内遺跡出土埴生土器（中期）5 (S=1/4)

点が該当し、この時期の甕類の約1/5を占める。127には塙町系の甕、壺、鉢を並べた。最も一般的な甕は、頸部から肩にかけて多条の凹線と刻目文を入れるもので（1～6）、縦方向の刺突（もしくはヘラ描き沈線）を入れた後に、横方向の凹線を施す。縦方向の刺突は右上がりに傾斜するが、10のみ左上がりである。13は2段にわたって施文するもので、塙町遺跡出土の土器にも同様の個体がある。9は縦方向の刺突が倒れ、横方向の凹線も浅く施すものである。こうした塙町式土器を意識しながらも、他の工具を刺突に用いるもの、浅い凹線を2・3条入れるものなど形態化した個体も多く見られる。円形浮文や棒状浮文、斜格子文などを組み合わせた個体は甕・鉢に多く、8、11では頸部にも貼付突帯を附加している。20は大型の鉢で、下部は出土していないが脚台が付くかもしれない。14、17、18は塙町式土器とは異なる加飾性の高い壺だが、刻目文や斜格子文を多用するなど塙町式土器の影響が垣間見られるものである。

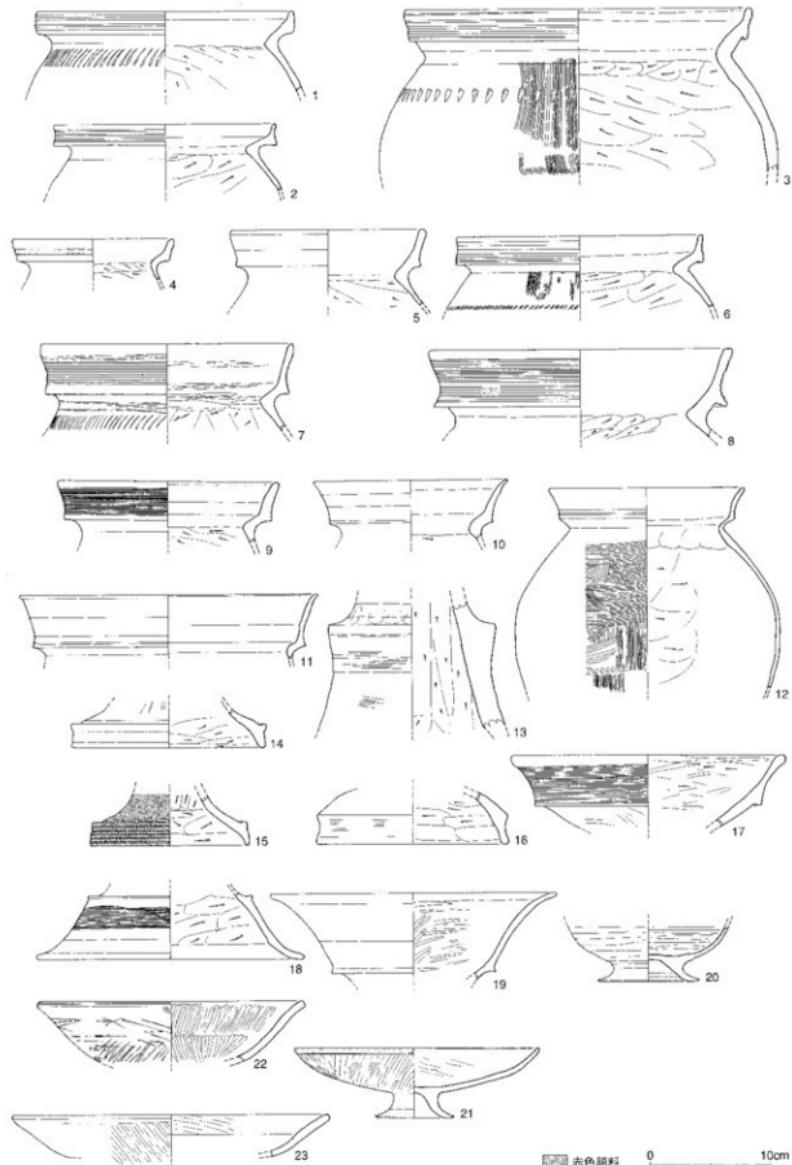
128～129はに高坏を挙げている。接合により全容の判明する遺物が少ないため、坏部、脚柱部、脚部でそれぞれ分類した。

坏部（1～13）は漏斗形に底を深くとるものが多く、口縁部はしっかりと内済する。口縁部外面は全面に凹線を入れるが、さらに刻目を施す場合もある。刻目を施す位置や数には顕著な傾向が見られない（表11-1）。口径は16～20cmと、23～26cmの個体、30cmを超える個体がある。

14はほぼ関係に復元できる大型の高坏で、全面に丁寧なミガキを施す。坏部と脚部の接合の後、円盤で底に蓋をしてから脚部内面をケズる。（図版72参照）このサイズの高坏は、脚柱部のみの個体も含めて9個体（97-1～4、7など）出土している。9は口縁端部を横に引き伸ばす個体で、内面に斜格子文を入れている。形態から見て、やや古手かもしれない。



第129図 塙ノ内遺跡出土弥生土器（中期）6（S=1/4）



第130図 堀ノ内遺跡出土弥生土器（後期～古墳初）7 (S=1/4)

脚柱部（16～22）は多条の門線を2群に分けて施文するのが特徴で、全面に門線を入れる個体はない。空白部にはミガキを施すが、ここに刺突孔や透かしを入れる（16、17、22）ことも多い。口縁部と同様に刻目を施す個体もあるが、14、15、18のように2条を一括して刺突する場合もある。この刺突法は脚柱部にのみ見られる。

脚部（129～1～10）は、底径10～13cmと15cm前後のものがある。凹線と刻目を組み合わせて施文する。8～10は、サイズから見て台付壺や台付鉢、注口土器の脚部である可能性が高い。8は矢羽根形の透かしが入る個体で、外面は赤色顔料を塗布している。9は斜格子文と円形・三角形の透かし孔を組み合わせるもので、内面には丁寧なケズリが施されている。10は底径30cmを超える大型の脚部で、綾杉文様の文様帯が描かれる。上段には三角形の透かしが入る。

後期以降の土器（第130図、図版109～111）

130には後期以降の土器を挙げた。1～9はV～1～3様式の壺・壺類である。この時期の土器は中期に引き続き比較的多く、壺・壺類で約150点ある。10～12は草田5～6期に相当する土器で、遺跡全体では約100点出土している。13～19は器台である。13は異様に厚さのある個体で、外面は刷毛目調整の後ナデを施す。内面のケズリは幅約2.1cmのしっかりとしたケズリである。形態的には器台に近いが、他に出土例が無く、用途不明である。16は口縁部のみ出土で、蓋の可能性がある。20～23は高壺および低脚壺で、草田6期に位置づけられる。

須恵器（第131～133図、図版112～118）

須恵器は6世紀後半から9世紀初めのものが出土している。分類および数量は表11-2を参照されたい。蓋壺、高壺、各種壺、壺、壺などが出土している。

蓋壺、壺（第131図、図版112～114）

131には壺身、壺蓋を並べている。1～23は出雲3～5期の蓋壺で、14は天井部にヘラ描きのX印が付く。6世紀後半から7世紀前葉に位置づけられる。なお、7世紀代の主流である蓋にかえりが付くものは小片が多く、図化できたのは46のみである。扁平な輪状つまみを持つ蓋で、7世紀後半のものであろうか。タガ状の突帯が付く47とセットになる可能性がある。

24～47は7世紀末から9世紀初頭の壺である。蓋は輪状つまみと擬宝珠つまみのものがあり、口辺端部を下方に屈曲させるものである。壺は口縁が緩やかに内湾する個体（33、39～42）と、口縁端部が僅かにくびれる個体（32、34～38）、高台の付く個体（43～45）に分類される。底部の切り離しは、静止糸切りと回転糸切りがあるが、回転糸切りが多数を占める。切り離し後丁寧にナデ整形するため、判別できない個体も多い。

皿は高台の有無と、口縁の形態で分類される。口縁の形態は、やや外反するもの（132～1～3）と内湾するもの（2、6）に大別される。底部切り離しは糸切りを用い、大部分が回転糸切りである。8世紀中葉から9世紀に位置づけられるだろう。

8～10は出雲4～5期の低脚無蓋高壺で、以下脇、提瓶、横瓶も同様の時期に位置づけられる。18～21は直口壺である。この器種は今のところ編年が明確になっていないため、位置づけが難しい。高台の付く17はやや後出であろう。

7は棒状に引き伸ばされた粘土の塊で、一端に環状に破断面が残ることから、且もしくは鍋の脚部である可能性が高い。

鉢・甕（第132・133図、図版115～118）

132-22、23は鉢あるいは鍋であろうか。復元口径はそれぞれ32cm、36cmであるが、口縁が直んでいることもあり、多少大きくなるかもしれない。全面に丁寧なタタキを施し、口縁端部はしっかりと横ナデを行う。瓈球形で丸底の器形は類例が見つからないが、松江市連行遺跡のSD-06から同様に丸底半球形のものが出土している⁸³⁾。鉢として掲載されているこの須恵器は、壇ノ内のものよりも底が浅く、2本の把手が付く。一般的な頸部を絞る甕と使い分けられており、その使用法も含めて今後の課題としたい。

132-23、24は甕の口縁で構成波状文が入る。このような長く伸びる大型の口縁を持つ破片は少なく、計3個体程度と思われる。133-1、2は最大径が60cm前後の甕である。3は加工段2の上層部から出土した個体だが、加工段を認識する以前に取り上げてしまったため、遺構との関係が明確でない。大甕の胴から底部で、上半部は全く出土していないが、132-23と同一個体かもしれない。

土師器（第134～137図、図版119～124）

包含層出土の甕、瓶は非常に多く、胴部片なども含めると全体の約1/3を占める。甕類の口縁部数は152点、瓶33点である。瓶は把手数を集計しており、個体数はこれよりかなり少なくなる。土製支脚片は65点、甕片75点であるが、胎土などで分類すると個体数はそれぞれ約20個体、4～5個体と考えられる。

甕類、瓶（第134図～135図、図版119～121）

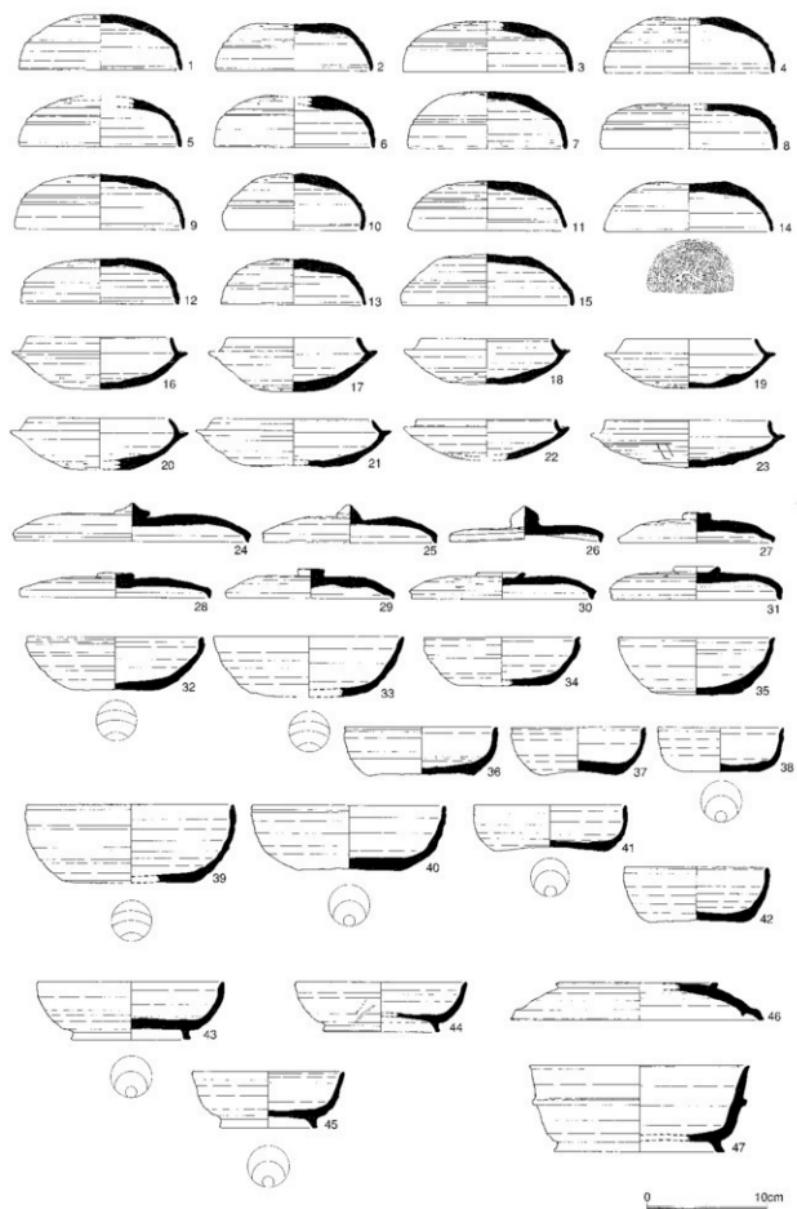
134-1～8、135-1は口縁が緩くカーブを描いて外反する甕である。胴部はしっかり張るものが多い。外面は口縁部を横ナデ、頸部以下に刷毛目を入れる。内面は口縁部を横ナデし、頸部以下をケズる。頸部直下まで深くケズることで口縁と明確に区別する個体（1、8）と、境界をナデで角を取る個体（2～7）がある。

134-9～12は口縁が角度を付けて屈曲する個体である。胴部はあまり張らず、内面のケズリを深く取り、胴部の厚さは薄手である。外面の調整は刷毛目だが、ナデが全面に及ぶため、大部分が消えている。

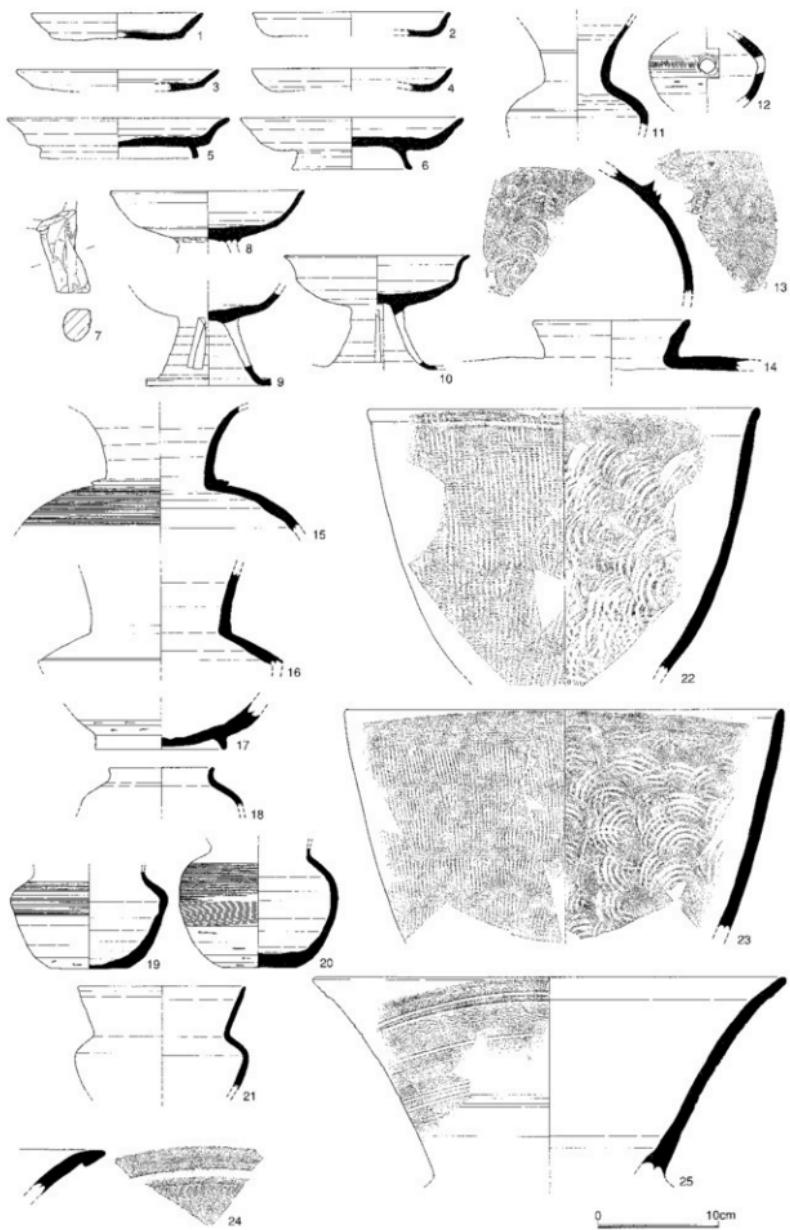
134-13は口縁があまり外反せず、胴も張らない甕である。内面のケズリも頸部まで上がりず、荒いナデで成形している。

135-2～5は小型の甕類である。口縁は外反するもの（2、4）と直口のもの（3、5）があるため口径は約12cm～20cmとばらつきがあるが、高さは20cm程度のものが多い。外面調整の基本はナデで、荒い刷毛目が入るものもある。内面は掘りの深いケズリで、厚さは薄い。

135-6～9は瓶である。下部が直線的にすぼまる漏斗形の個体（8）と、胴部が張り気味の個体（6、7、9）がある。口径は22cm～26cmで、内面はケズリ、口縁はナデ調整である。加工段3出土の環状把手を除けば、出土した全てが突起形の握手を持っていた。



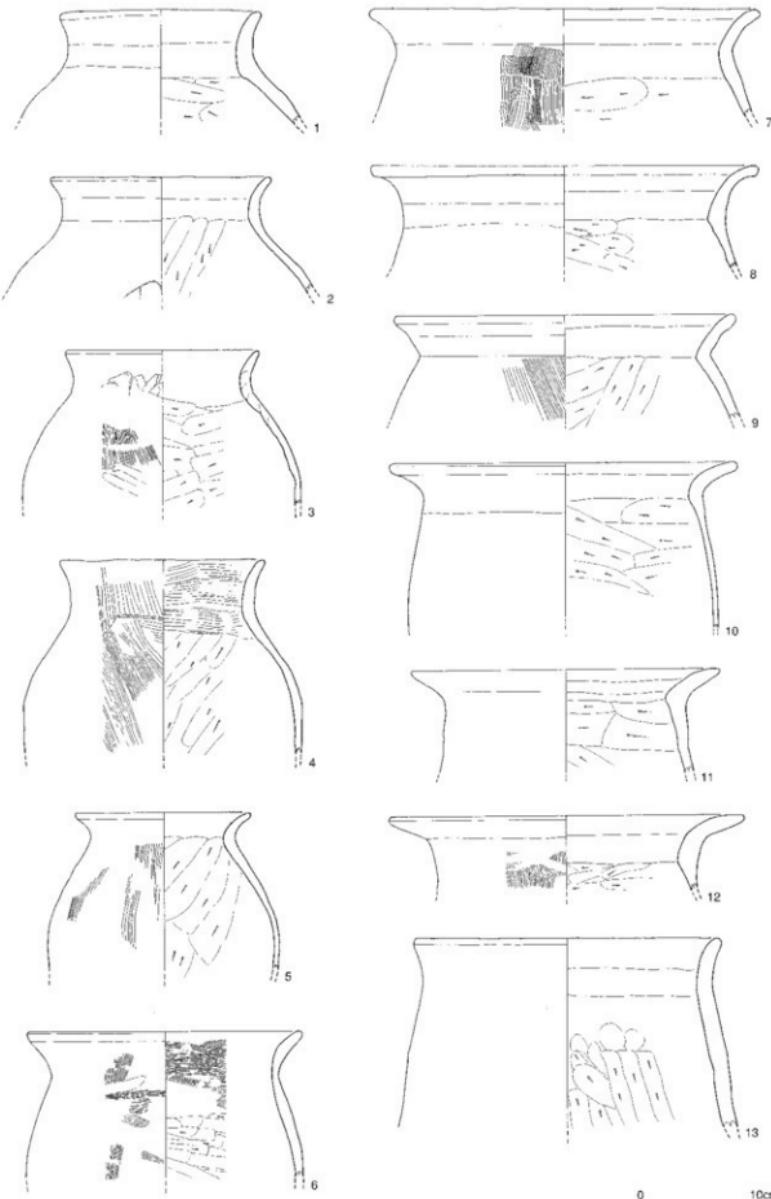
第131図 墳ノ内遺跡出土須恵器 1 (S=1/4)



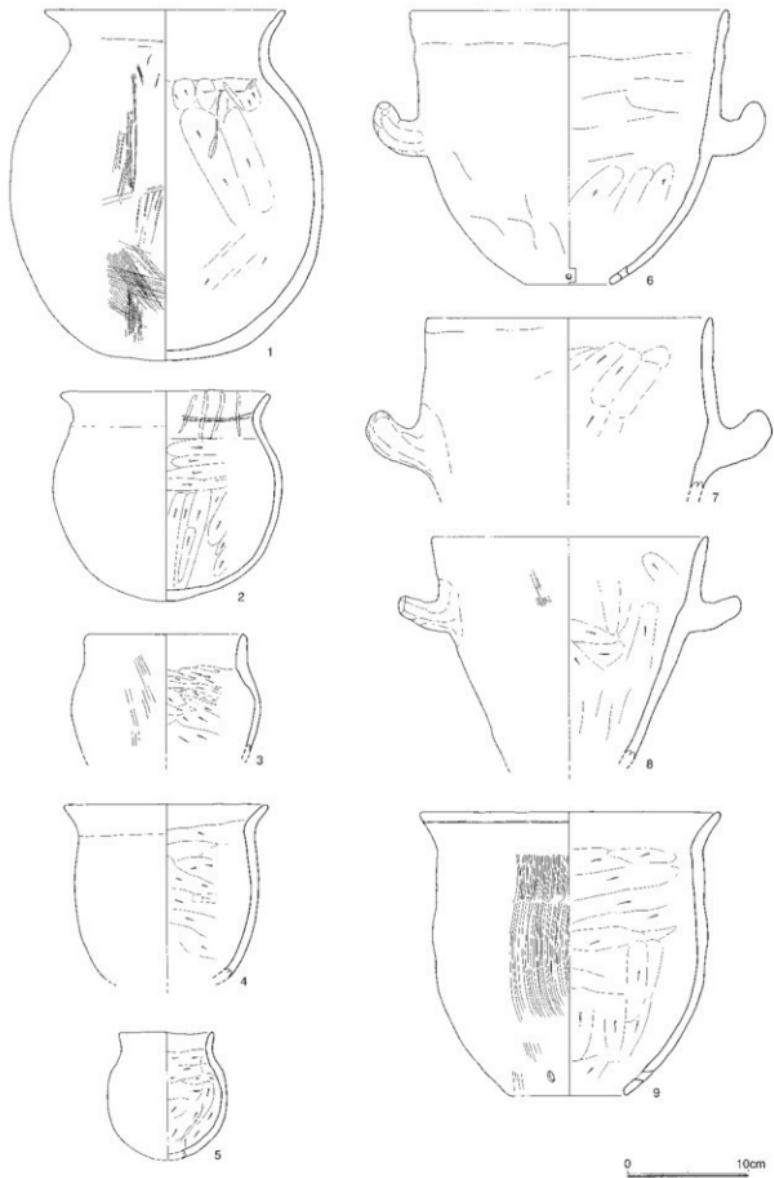
第132図 塚ノ内遺跡出土須恵器2 (S=1/4)



第133図 塩ノ内遺跡出土須恵器 3 (S=1/4)



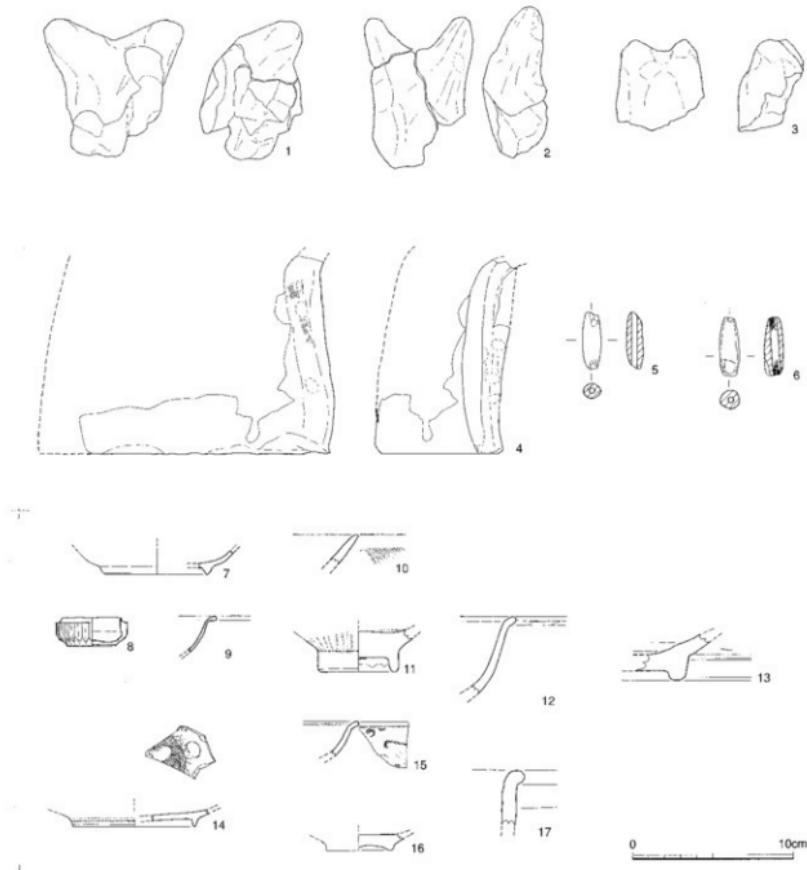
第134図 垣ノ内遺跡出土土師器 1 (S=1/4)



第135図 塚ノ内遺跡出土土器 2 (S=1/4)

土製支脚 (第136図、図版122)

136-1~3は土製支脚である。上製支脚は計65片出土したが、粉々に割れているものが多く、復元のできるものは僅かであった。個体数は胎土差や突起の数から20点前後と考えられる。復元できた個体はいずれも2本突起の支脚で、脚部は細めず、太く張っている。2本の突起は太く短いのが特徴で、3に至っては棒状の工具を用いて凹みを付けたに過ぎない。この形状では本来の2本突起の役割を果たし得ないとと思われる。あるいは三脚を一組として使用したのかもしれない。背側に穿孔する個体もあるが、貫通はしていない。



第136図 塙ノ内遺跡出土土器3・白磁・青花等 (S=1/3)

甌（第136図、図版122）

甌は少なくとも4個体確認できる。いずれも軒庇が付くもので、粘土帯を積み上げて成形し、内面をケズる。重量があるため、底部が潰れて肥大したり、歪んでいるものが多い。136-4はかろうじて復元できた個体で、軒庇は別付けである。

以上の土師器類は、6世紀後半から8世紀代にかけてのものと考えられる。加工段2の出土遺物を参考にすれば、胴の張る壺頸と甌は6世紀後半から7世紀にあたるだろう。胴の張らない甌と溜斗形の甌は後出と考えられ、7世紀から8世紀代に位置づけられる。土製支脚、移動式甌は出土状況が散漫で、道構出土の遺物が少ないため、甌、甌との対応関係は不明である。しかし土製支脚の突起が徐々に退化する傾向が見られることから、今後決定的目安になる可能性があるだろう。

土錘（第136図、図版123）

土錘は棒状のものが2点出土した。時期は不明である。

陶磁器類（第136図、図版127）

陶磁器類は総計コンテナ2箱ほど出土した。これらのうち18世紀以降の在地系陶器、右見、肥前系陶磁器が7割以上、備前が約1割である。17世紀代の肥前系陶磁器は1割弱で、砂目積のものは20点ほどである。16世紀までの遺物は24点ある。貿易陶磁器では13世紀頃と考えられる青白磁合子1個体、14世紀以降では白磁端反皿2点、龍泉窯系の青磁碗10点、青花端反皿・碗6点、李朝皿1点である。国産陶磁器等では、15世紀の備前甌1点、瓦質土器甌1点、美濃系天日碗1点がある。

136-7、9はE1類の白磁端反皿、10、12は14~15世紀の龍泉窯系の青磁碗で、10は連弁文が入る。11は15~16世紀の印花文の碗である。13は17世紀の唐津皿である。14、15は16~17世紀の青花碗、16は李朝皿の底部である。17は室町時代の備前甌の口縁である。

手づくね土器（第137図、図版122~124）

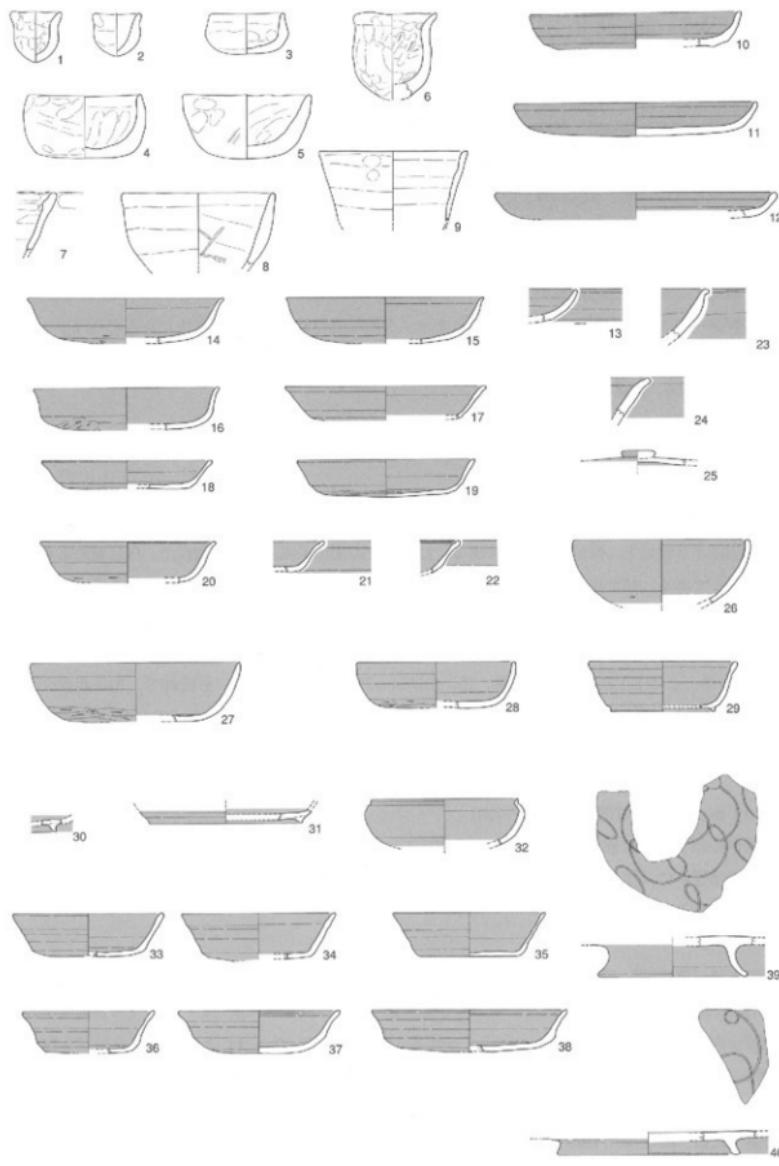
手づくね土器は二形態に分けられる。137-1、2、6は丸底で口縁が外側に開くものである。内容積は僅かで、作りも簡素かつ粗雑である。4、5は坯形の手づくね土器で、外面の調整は粗雑なナデを行う。これらの時期は不明である。

製塙土器（第137図、図版123）

製塙土器は計30点ほど出土している。非常に緻密な粘土で成形されるため、小片でも容易に区別が付くが、個体数はずつと少ないと考えられる。筒状の個体（7、9）とやや丸みを帯びる個体（8）がある。

丹塗り土器（第137図、図版123・124）

赤色顔料を塗布する土師器で、皿と甌が出土している。甌には碗状に口縁が長く立ち上がるものもあるが、甌と碗の形態差が明確でないため今回は甌として一括した。塗布する順序や、塗料の発色にも違いがあるようだが、今回は分類できなかった。出土数は口縁部や底部など識別可能な破片



第137図 塩ノ内遺跡出土手づくね・製塩土器・丹塗土器 (S=1/4)

数を表11-2に挙げたので参照されたい。

皿(10~13)は復元口径17cmから25cmのものがあり、口縁は緩く内湾しながら立ち上がるものが多い。底部はヘラ切りの後ケズリやナデを施すものと、糸切り後ナデするものがある。出土したもののはいずれも内外面に赤色顔料を塗布している。高台の付く皿(39、40)は、底部を一旦調整した後、坏に比べて高めの高台を付ける。内面には螺旋状の暗文が入る。

14~40は坏類である。坏類は高台の有無で2種類に分類し、さらに形態により幾つかに細分した。

高台のない坏は4種に細分される。

14~16、23、32は口縁が内傾気味に立ち上がり、端部に外向きのアクセントが付くものである。これらは底部縁辺にケズリを施した後ナデするものが多い。17~22、24は口縁が直線的に立ち上がるもので、底部は丁寧にナデする。20~22は口縁端部内側に沈線があり、やや外傾気味に成形される。24では棒状の工具を用いて口縁内面を凹ませている。

26~28は碗状に口縁を内湾させるもので、底部は立ち上がり部を中心に丹念にケズリを施した後、ナデする。底部外面のみ赤色顔料を塗布しないものがある。

33~38は底部縁辺を押し出すように成形し、底部と口縁部が明確に区別される坏である。ロクロから切り離した後に底部を成形したようで、ナデ調整が念入りに施される。口縁外面にロクロ成形時の凹凸が明瞭に残るものが多い。復元口径は約11cm~13cmである。25は扁平なつまみの付く蓋で、出土した蓋は全てこの形のつまみが付く。

29、30、31は高台付の坏で、ロクロから切り離した後、高台を付けるとともに底部をナデする。

これらの丹塗り土器は三刀屋町馬場遺跡²³³出雲市三田谷I遺跡²³⁵、松江市出雲国庁跡などで比較的まとまって出土している。時期は7世紀後半から8世紀代と考えられ、糸切りの底部を持つ個体は8世紀中葉以降に位置づけられる。

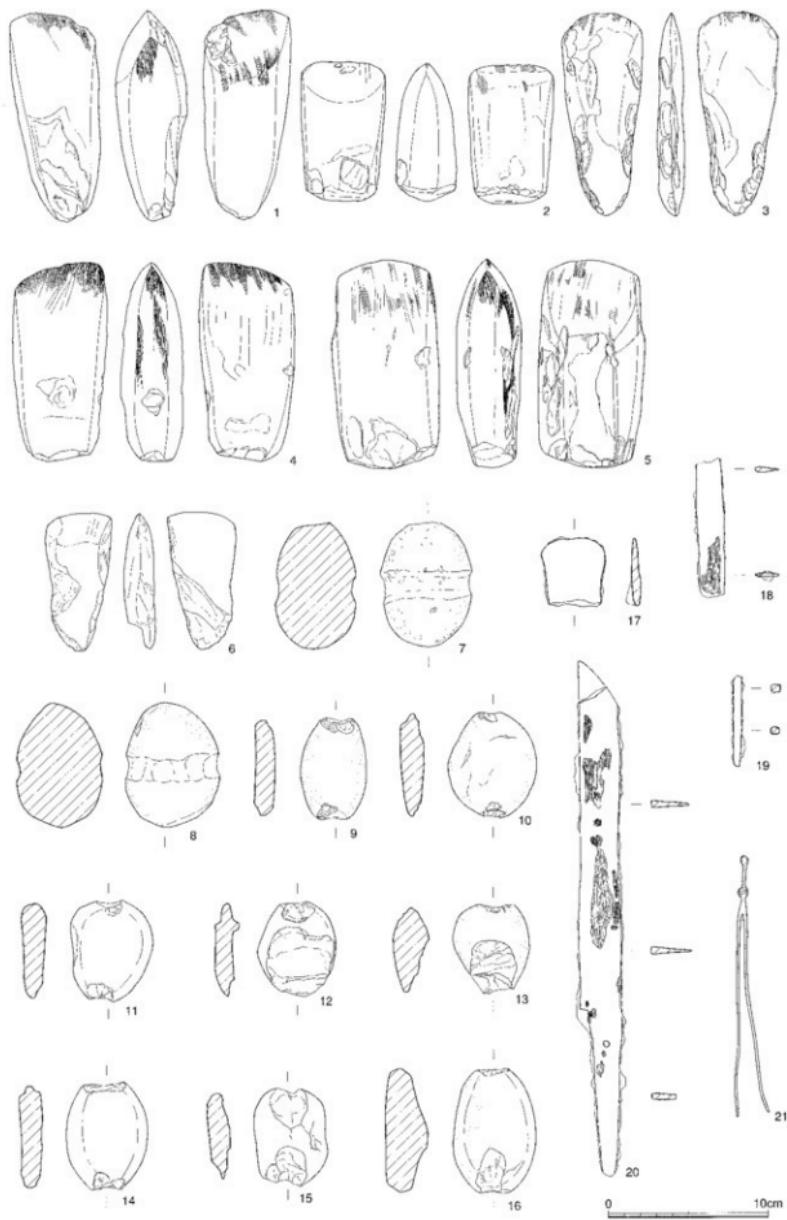
石器類(第138・139図、図版125~127)

石器類は表14~19、21に計測表を挙げた。縄文から弥生時代の石斧、石錘、石鎌、抉状耳飾り、スクレイバー、石匙、石包丁などがある。

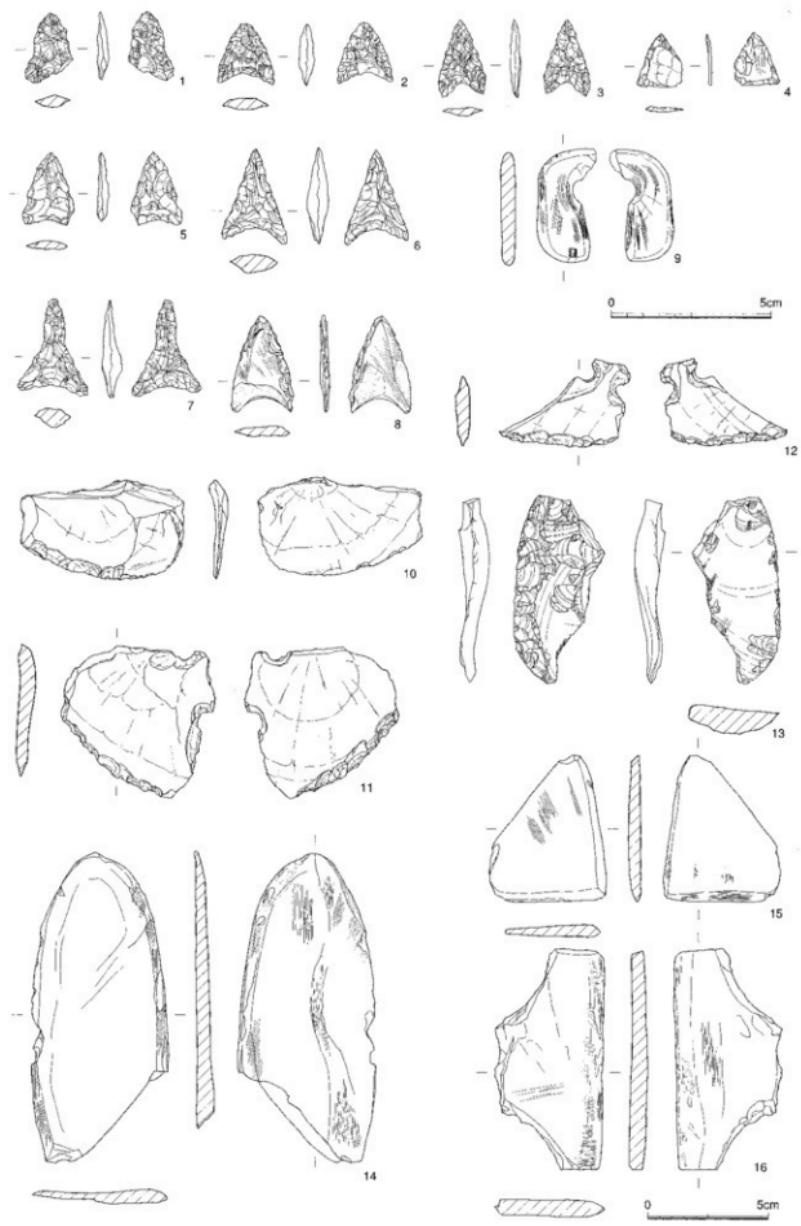
石斧類は11点出土している。乳棒状石斧、定角式石斧、太形蛤刃石斧があるが、138-2は破損後、楔に転用されたようだ。7~16は石錘で、129点出土している。有溝石錘と切目石錘があるが、全石錘の観察表は表19に、形態別割合はグラフ3に、重量別分布表はグラフ4に掲載している。有溝石錘は横方向に溝が廻るもので、弥生時代中期中葉以降に位置づけられる²³⁶。

139-1~8は各種石鎌、10~13はスクレイバーと石匙である。石鎌は総数29点で、黒曜石製約45%、安山岩製約52%である。無茎四基式と平基式があり、7は唯一チャート製である。8は両面に荒い磨きが入る磨製石鎌である。スクレイバーは3点で、黒曜石製と安山岩製がある。

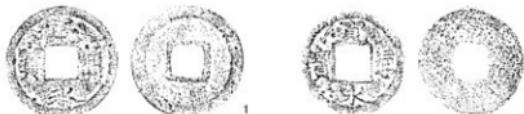
9は抉状耳飾り片で、両側から穿孔ののち、丁寧に面取りしている。石材の詳細は不明であるが変成岩系の石を用いており、遺跡周辺では見られないものである。鳥根・鳥取両県での抉状耳飾り出土例は、同じ縄形のものが佐太講武貝塚出土のものがある。この他、サルガ鼻洞窟、佐太講武貝塚、目久美遺跡、岩泉遺跡などで横形のものが出土している²³⁷。なお垣ノ内遺跡周辺では、平成14年度の調査で家の後II遺跡から2点出土している。



第138図 墳ノ内遺跡出土石器 I・鉄器 (S=1/3)



第139図 塙ノ内遺跡出土石器2 (1~9はS=2/3、10~16はS=1/2)



第140図 塹ノ内遺跡出土銭 (S=1/1)

14～16は板状の磨製石器で、石包丁であろうか。14は柳葉状の磨製石器で、刃部を除き片面の磨きが無いため未製品かもしれない。15は2辺に刃部を持つもので、刃部

再生品の可能性がある。16は粘板岩系の石材を用いる両刃の刀器で、刃部は摩滅している。

金属製品（第138図、図版126）

金属製品はSII3出土の鉄斧をはじめ、刀子、短刀などが出上した。

17は板状の鉄製品で、断面が三角形に整形される。刃部の有無ははっきりしないが板状鉄斧の可能性がある。18は刀子と考えられ、両面に木質が良く残っている。19は断面長方形の棒状鉄製品で、両端が欠損するため全容は不明である。鉄釘もしくは鏡であろうか。これらの遺物は明確の時期は不明であるものの、層位的には中世以前に位置づけられるものである。

20は平作り、平棟の直刀で、加工段2の覆土最上面から出土した。切先を欠くが、残存長は30.2cmで、刀身部残存長は19.8cmである。片闇と考えられるが、闇付近に欠損があるため、両闇の可能性もある。刀身部、茎部とも本質が良く残っている。こうした刀身長1尺以下で平作りの短刀は、平安時代以降に多く作られたとされる¹⁸。

21は玉簪に分類される簪で、真鍮製である。簡素な作りであるが、二葉の松葉モチーフにしており、小型の丸が付けられる。一端はこの種の簪に多く見られる耳搔き状に整形している。玉簪は江戸時代後半以降盛んに作られたが、こうした簡素なものは時期を判断することが困難である。

出土銭（第140図）

表20のように銅製寛永通寶が2点で、新寛永である¹⁹。

第5節　まとめ

塹ノ内遺跡の調査結果は以上であるが、最後に時代ごとの成果をまとめつつ、若干の考察をしてみたい。

縄文時代の塹ノ内遺跡

第3節冒頭で記したように、縄文時代の遺構は全くなかったものの、包含層出土の土器は4,500点を上回った。大部分を占める中期の土器は、船元2式から里木2式に至る約3,300点である。このうち縄文地の土器は100点程度であり、後に続く後期前葉の磨消し縄文の土器が計10点程度であるから、捺り糸地の里木2式が圧倒的に多いことが分かる。遺構面を明確にし得なかつたため不明な部分は多いが、遺物量を見る限り、少なくともこの時期に付近に集落が営まれていたことは間違いない。この地域の遺跡では、近年まで斐伊川支流の阿井川上流に位置する下鴨倉遺跡が唯一、中期の土器がまとまって出土した遺跡であり、里木貝塚と酷似するとされるその土器群は、この地域

が山陽と同じ文化圏にあたることを示す資料として紹介されてきた²²⁰。近年の調査では垣ノ内遺跡をはじめ、本次町川平I遺跡（第2図1）、家の後I・II遺跡（同図7、12）、仁多町前田遺跡（同図15）などから中期の遺物が出土しており、これらを踏まえた上であらためてこの地域の中期の様相を検討する時期に来ているだろう。

家の後I・II遺跡、原田遺跡、暮地遺跡は斐伊川本流の河岸段丘上に位置する遺跡で、後期以降でこそ堅穴住居や埋壺を伴う集落が確立するものの、中期の遺構は皆無である。下鶴倉遺跡、垣ノ内遺跡は斐伊川支流沿いの緩傾斜地に営まれているが、同様に遺物は多いものの中期の明確な遺構に欠ける。一方、谷の最深部や尾根上では、まとまった出土遺物ではなく、集落を想定しうる遺跡は皆無である²²¹。このように中期の集落が想定される遺跡は、河岸の平坦地や緩傾斜地に立地し、後期以降も断続的に営まれるにもかかわらず、一定期間の定住を示す遺構に乏しいという傾向が読み取れる。中国山地では総じて中期の遺跡が少なく、前後の時期に比して低調傾向にある事を考慮しても、この時期に通年的な定住集落を求める事は難しいと考えられる。しかし出土遺物量を考慮すれば、各遺跡に人々がある程度の期間留まっていたこともまた明らかであり、季節ごとあるいは河川の出水にあわせて往来回帰する生活を想定できるかもしれない²²²。

垣ノ内遺跡の弥生時代

垣ノ内遺跡では中期後半（IV-1）までの遺構・遺物はほとんど出土していない。約6,200m²の調査で出土した前期の土器が4点という状況は、この地が完全に日常の生活圏から外れていたことを示している。平成14年度の調査で、北原本郷遺跡（第2図13）から弥生時代前期から後期に至る堅穴住居群が検出され、少なくとも斐伊川本流沿いにはこの時期の集落が存在する事が明らかになりつつあるが、現状ではその数は限られている。一方で半田遺跡（同図21）²²³、暮地遺跡（同図17）²²⁴横田町中山国竹遺跡²²⁵などに見られるように、中期から後期にかけて遺跡が急速に増大することは明らかで、こうした集落の増加、居住域拡大の中で、斐伊川の一主流沿いに過ぎないこの地に新たに集落が誕生したと考えられる。

垣ノ内の集落は中期後半（IV-2）に興り、弥生時代後期末までに15棟の堅穴住居と1棟の小型堅穴建物、いくつかの掘立柱建物が次々に建てられる。時期を把握できる建物に限れば、同時に存在した建物数は最大でも5棟程度（中期後半）で、後期の大部分は數棟程度の規模に過ぎないが、弥生時代後期末に至るまで連綿と集落が継続したと考えられる。それぞれの配置について見ると、後期後半に位置づけられる堅穴住居は比較的標高の高い緩傾斜面に構築され、掘立柱建物群が下段に構築されるのに対し、中期に位置づけられる堅穴住居は、小型堅穴建物を含めて比較的標高の低い川寄りに建てられる傾向が見て取れる。SI13は中期の堅穴住居としては唯一山寄りに位置するが、推定復元される規模は他の住居に比べ大型で、鋳造鉄斧が出土するなど、集落の中でも中心的な位置を占める建物であったと考えられる。

塩町式土器について

垣ノ内遺跡の弥生土器で注目されるのは、塩町式土器と呼ばれる加飾性の強い土器が、比較的まとまって出土したことである。塩町式土器は潮見浩氏によって1964年に設定された土器である²²⁶。広島県三次市塩町遺跡の土坑出土一括資料をもって設定されたもので、第IV様式の土器として位置

づけられている。近年では1992年に妹尾周三氏が細分案を示した³²⁷ほか、伊藤実氏の精力的な研究がある。塙町式土器は壺、壺、台付鉢（注口を持つものを含む）、高坏など多彩で、文様は四線文と刻目文を多層に組み合わせた文様³²⁸を主体とし、円形浮文、棒状浮文、綾杉文、斜格子文を多用するなど、同時期の土器と比べ独自色の強いものである。

塙町式土器が出土した遺跡は、備後北部三次盆地を中心に出雲、石見、伯耆西部、安芸の69か所に及んでいる³²⁹。北側では、江の川、神戸川、斐伊川流域に分布し、石見では鳥井南遺跡³³⁰、古八幡付近遺跡³³¹、伊甘神社脇遺跡³³²など日本海沿岸部で、出雲では古志本郷遺跡³³³、下古志遺跡³³⁴など出雲平野部に分布する。東部の松江・安来地域はタテチョウ遺跡³³⁵が挙げられる程度で分布域からはやや外れるようである。山陰地域の東限は日野川上流の鳥取県日南町丸山大洞遺跡である。一方南側では、備後南部には皆無で、むしろ広島市周辺の安芸に出土例がある。岡山県哲西町の山根屋遺跡³³⁶が東限で、高梁川上流域までが範囲である。このように塙町式土器は主として水系をたどって山間部から下流域に向かって広がっており、こうした水系を介した相互交流が想定される。

垣ノ内遺跡出土の塙町式土器は、壺、壺、鉢、高坏である。45-1、127-1~6などの壺類、127-20の鉢はこの遺跡を代表する塙町式土器といつてもよい。これらの土器に共通する特徴として挙げられるのは、胎土・焼成を観察する限り、特徴的な文様以外は同時期の土器と何ら差がないという点である³³⁷。分類整理時に比較を試みたが、在地と考えられる土器³³⁸とは各部の調整法も含め、何ら特筆すべき相違点を見いだすことができなかった。

一方で、塙町遺跡出土土器自体の胎土が多様であることも指摘しておかねばならない。筆者が実見したものは広島県立歴史民俗資料館蔵の土器のみであるが³³⁹、少なくとも3種類以上が存在するように思われた。その中には垣ノ内遺跡で出土した土器と胎土が酷似するものもあり、備後北部からの搬入品が存在する可能性も十分考えられる。今後胎土分析など多角的な分析が必要だが、現時点では垣ノ内遺跡の塙町式土器が在地のものであるか、搬入品であるかを目視で明らかにすることは難しいといえる³⁴⁰。

今ひとつ塙町式土器について課題を挙げるとすれば、第4節でも仮に「塙町系土器」として取り上げたように、現段階では塙町式土器と「塙町式土器の影響を受けた土器」あるいは「塙町式土器の前後に位置する土器」を整理し切れていないことである。壺についていえば、貼付突帯を刻む文様帯から「重層刻み目文」への変化と、同時期的一般的な壺と同様に内面のケズリが頭部まで徐々に上がってくるというおおまかな変遷が捉えられているに過ぎない。その系譜については、Ⅲ~Ⅳ-1様式の壺・鉢の加飾性が日立ことから、その影響が指摘されている³⁴¹。ただ出雲地域についてみると、塙町式と同時期の広口壺ではそれ以前に比べ明らかに文様の簡素化を指向しており、塙町式で代表的な壺類は総じて加飾性が低い点からみて、塙町式土器と直接的に系譜を繋げることは難しいと考える。127-9の壺の肩部文様は、ごく浅い縱方向の刺突に横方向の沈線を組み合わせるものである。縱方向の刺突は木口を軽く押しつけたものようで、向きも完全に右に倒れてしまっている。こうした施文が稚拙な模倣なのか、退化形態なのかを判断することは現状では困難である。

また垣ノ内遺跡で出土数が目立つ高坏の取り扱いも問題である。備後北部の塙町式土器では、高坏の脚柱部を細く長く採り、透かしの入る部分を除いて全面に凹線を廻らす傾向がある³⁴²。また坏部口縁に凹線を入れるもの、それを刻むことにはそれほど固執していない。対して垣ノ内遺跡の

高坏は、脚柱部を比較的太く短く採り、坏部に対して脚部がアンバランスに小さいものが多い。脚部には透かしが入るものもあるが、128-14、15、17-22のように模様の充填されない空白帯があることも特徴である。こうした特徴は、むしろ出雲平野部の高坏に近いもので、この地域の土器がそのベースになっていると考えられる。また脚柱部には2条の凹線をまとめて刻む方法が多用されるが、他地域では見られない比較的の独自色の強い施文法である²⁰⁶。このように垣ノ内遺跡の高坏は、出雲平野部の土器を基本としながらも塙町式土器の要素を併せ持つという点で、塙町式土器そのものに分類することには躊躇せざるを得ない。

以上のように、垣ノ内遺跡の「塙町系土器」は斐伊川水系を介した備後北部地域との交流の一端をかいさせると同時に、この地の人々がその中で得たものを如何にして受容していくのかを示す資料といえる。塙町式土器は資料整理されはじめて日が浅いこともあり、今後の調査で資料は確実に増えていくと思われる。相前後して流域に築造が始まる四隅突出型墳丘墓、中山国竹遺跡に次ぐ出土となった舶載鉄製品²⁰⁷との関係も含めて、今後の研究課題といえよう。

垣ノ内遺跡の古墳時代から平安時代

古墳時代に入ると、集落は一旦断絶する。遺物が増加してくるのは出雲3期からで、9世紀初頭まで継続する。遺物量のピークは須恵器坏のケズリが簡略化されていく6世紀後半～7世紀初頭と、須恵器・土師器に糸切り底が主流となる8世紀中葉以降が挙げられる。

注目されるのは、7世紀初頭には瓶、移動式竈、甕をセットとする煮炊具が成立している点である。出雲平野部では、6世紀後半～7世紀初頭になると土製支脚、瓶、移動式竈、甕のセットが定着すると考えられている²⁰⁸。一方山間部では、三瓶山周辺の神戸川上流域において、造り付け甕を主体とする煮炊法が確立するのに対し、斐伊川中上流域では移動式竈を使用する煮炊具が採用されたとされる。斐伊川中上流域の調査例は少ないが、出雲平野部とほぼ時を同じくして同様のセットが成立したようだ²⁰⁹。垣ノ内遺跡においても、加工段2の東群に見られるように瓶、移動式竈、甕が組み合わせられていることが分かる。土製支脚が出土していないが、包含層でまとった量出土していることから、これが含まれた可能性が高い。平成14年度に調査が行われた仁多町円満寺遺跡でも、土坑内から甕に混じって土製支脚が出土しており²¹⁰、二本の突起は徐々に短小化し、ついには一本の突起に退化している。こうした退化傾向の見られる土製支脚は、垣ノ内遺跡のそれにも見受けられる。今回は時期毎のセット関係を把握するには至らなかったが、今後資料増加によってはこの地域の煮炊具の変遷が把握できるかもしれない。

第2には8世紀代を中心とする坏（碗）、皿が多く出土していることが挙げられる。須恵器とともに丹塗り土器も多く、当時の様相を知るうえでも重要と考えられる。現状ではこの時期の土器について細かい編年は確立していないが、糸切り底が導入される8世紀中葉以降に、遺跡が再び盛行したことが分かる。

この時期、下布施川流域で注目されるのは装飾大刀を副葬した下布施横穴墓群が築かれていることである²¹¹。6世紀後半～7世紀中葉にかけて營まれたとされるこの横穴墓群は、谷筋の最奥に位置し、現状では被葬者を頂点とする集団が何処に生活基盤をおいていたのか不明なままである。周辺には茶屋の廻遺跡、北原I遺跡などの小規模な散布地はあるものの出土遺物は僅かである。翻つて垣ノ内遺跡を見れば、遺物量は他を圧倒している。加工段や硬化面など実体が掴みがたい遺構が

多く、集落の様相は判然としないが、少なくともこの地が恒常に生活の場となっており、6世紀後半～9世紀に至るまで人々と営まれ続けたことは明らかであり、下布施横穴の被葬者と密接な関係にあった可能性が高い。流域で野だらが盛んに行われるには中世以降であるが、坂本論司氏が指摘するように、この時期既に鉄生産地としての下地が整っていた事は十分に考えられる⁴⁰。集落の社会的、経済的バックボーンとして、鉄生産の占める地位は高かったのではないだろうか。

垣内遺跡の中世以降

中世以降になると、出土遺物が目立って減少する。鎌倉時代の青白磁合子、室町時代の備前窯が1点あるが、10～14世紀までの期間はおよそ人々の生活の香りがしない時期といえる。垣内遺跡の集落は、流域で野だらが盛行するに合わせて、流域内の中心的役割を終えてしまったのである。14世紀以降では若干の貿易陶磁器が出土している。近年の調査では三刀屋町馬場遺跡⁴¹をはじめ、雲南地域でも掘立柱建物とともに貿易陶磁器が確認されはじめているが、垣内遺跡の場合この時期に該当する遺構に欠けるため、当時の様相を復元することは難しい。

遺物が多くなるのは18世紀からである。布志名焼など在地系陶器が多く、石見焼大甕類（ハンド）、備前焼、肥前系の日常雜器類が混じっている。愛宕講に用いられたのか、燭台も出土している。18世紀以降近年に至るまでこの地が生活の舞台であったことが分かる。

埋桶遺構について

今回の調査では、タガの痕跡が残る埋桶遺構が3基検出された。この種の遺構は、板屋Ⅲ遺跡などの調査例では水を溜めたものと想定されている。周囲を粘土（垣内遺跡の地山土も粘土質で、十分その役目を果たしたと思われる）で覆うことで、内部の水分が浸み出るのを防いだことは間違いないだろう。用途として考えられるのは、貯水用の桶と廐用の溜め桶である。どちらも常滑焼（この地域では石見焼も多い）の大甕（ハンド）が普及する明治時代には全国的に使用例が減ってくるが⁴²、この地域では家によっては昭和初期まで残っていたそうである。また廐を作り替える際に、役目を終えた溜め桶に砂を入れて清める儀式があったとの証言を得た⁴³。肥溜めの可能性も否定できないが、肥溜め自体を屋敷の周辺に造ることは少なく、多くは廐周辺に設置する。また、肥溜めの埋桶はあくまで肥やしを作るための施設であるから、粘土を貼り付けてまで漏水対策をすることは考えにくいとのことである。

図版17のように、Ⅰ区からⅢ区にかけては近年まで家屋（母屋と納屋の2棟）が建てられており、それらに付帯する設備と考えるのが妥当と思われる。近年ダム建設工事に伴って尾原地域の民俗調査が行われており⁴⁴、報告書で「本次63家」にあたるこの家屋は明治25年建築とある。また明治34年の家相図が掲載されており、当時の間取りはおおよそ確認できる。母屋と納屋の距離感が正しく表現されておらず、図上での埋桶遺構2、3の位置は明確でないが、炊事場付近もしくは母屋と納屋の間にあたるだろう。家相図では納屋と母屋の間に淡く丸印が描かれており、これが桶そのものかもしれない。埋桶遺構1は石垣との関係を考慮すると、家相図上の私道に位置することになる。私道は民俗調査時まで現役であったから、少なくとも明治34年以前、おそらくは明治25年にこの家屋を建てる以前の施設と考えられる。

おわりに

以上のように、垣ノ内遺跡は縄文時代中期から近年に至るまで、消長を繰り返しながら営まれてきたことが明らかになった。垣ノ内遺跡のある下布施川流域は、近年の調査で古代以降近世までの製鉄関連遺跡が次々と調査されてはいるものの、縄文時代から弥生時代に位置づけられる集落遺跡は垣ノ内のみであり、この流域で中心的な役割を担ってきた集落といえる。垣ノ内の集落は時代の変化に合わせて徐々にその性格を変えながら、脈々と営まれてきたのであろう。

今回の調査では当初の予想を超える遺構・遺物が出土し、それらを分類し、把握する作業で精一杯であった。各遺構の評価や遺跡の位置づけについて未消化な部分が多いことは否めないが、少なくとも遺跡の全容が把握しうるだけのデータは掲載したと考えている。掲載・非掲載を問わず、分類した遺物、図面、写真類は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで収藏・保管しているので、今後の幅広い活用を期待したい。

註1 島根県教育委員会 1996『尾原の民俗』尾原ダム民俗文化財調査報告書

註2 愛宕宮の実際は以下の写真集に掲載されているので、参照されたい。(田部写真館編 1997『懐』—我が故郷よ永久に—尾原ダムふるさと写真集)

註3 杉原清一氏の御教示による。

註4 高尾浩司 2000「鳥取県における弥生時代鉄器の様相」『月刊考古学ジャーナル』467

池瀬俊一 2001「日本海沿岸地域における弥生時代鉄器の普及—山陰地方を中心に」『日本海（東海）がつなぐ鉄の文化』日韓合同鉄器文化シンポジウム

註5 島根県教育委員会 1988『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅱ』

川越哲志編 2000『弥生時代鉄器総覧（東アジアの出土鉄器地名表Ⅱ）』広島大学考古学研究室

註6 田中義昭・石田成 2000「島根県因幡中山遺跡について」『島根考古学会誌』第17集 島根考古学会

註7 門遺跡で検出されたSII01・SI36がこれにあたる。(島根県教育委員会 1996『門遺跡』)

註8 島根県教育委員会 2000『神原I遺跡・神原II遺跡』

註9 領東町板屋II遺跡・下山遺跡・神原I遺跡・山雲市三田谷I遺跡などで同様の遺構が検出されている。

註10 調査にあたった古代文化センター松本岩雄の証言をもとに、当時の実測図を確認、検討した。記述内容は筆者の判断による。(松本岩雄 2002『尼寺原遺跡の調査』島根県埋蔵文化財調査センター研修資料)

註11 いずれ細分類を行う機会を持ちたいが、現状では数字自体よりも、この遺跡では中期の土器の撚り糸地文の土器が卓越するという事実を重視したい。

註12 山本 清 1962「西山陰の縄文式文化」『島根大学山陰文化研究所紀要』第1号

宍道正年 1974『島根県縄文式土器集成Ⅰ』

註13 島根県教育委員会 2002『馬場遺跡・杉ヶ掩・宍山古墳群・迷行遺跡』

註14 島根県教育委員会 2001『島根県飯石郡三刀輝町 馬場遺跡発掘調査報告書』

註15 島根県教育委員会 2000『三田谷I遺跡（Vol.2）』

註16 中四国のあるいは有漢石錐については下條伸行氏、貞綱篤行氏の論考があるが、近年では乗松真也氏が出土資料を整理している。垣ノ内遺跡の有漢石錐はとともに6類にあたり、山陰東部沿岸地域で多く見られる形態である。時期判断できる資料は少ないので、中期後期には出現するようである。(乗松真也 2000「中国・四国地方における有漢石錐の地域差」『研究紀要Ⅳ』財团法人香川県埋蔵文化財調査センター)

註17 会下利宏 2000『宍道湖・中海周辺の縄文遺跡』『山陰の縄文時代遺跡』第28回山陰考古学研究集会

註18 得能一男 1988『入門日本刀図鑑』E芸出版

註19 永井久夫大編 1998『近世の出上七日』兵庫埋蔵文化財調査会

註20 杉原清一 1981『下鴨合遺跡緊急発掘調査報告書』仁多町教育委員会

註21 丘陵あるいは谷の最深部については、陥り穴状の土坑を検出した櫛ヶ押遺跡（第2図6）などがあるが、現段階では集落を想定する遺跡はない。

註22 山田康弘氏は中国地方の縄文集落について整理し、集落構造や居住形態、集落構成員等について興味深い見解を示している。(山田康弘 2002「中国地方の縄文時代集落」『島根考古学会誌』第19集 島根考古学会)当時の居住形態は、「集落を移動させることをベース」として「周辺の自然的・社会的環境や集団内の社会的状況」により「集落規模や居住期間が歴史無縫に変化する」という見解は、本遺跡のような明確な遺構を伴わない

遺跡の位置づけについて、新たな視点を提示するものと考える。

- 註23 坂本渝司ほか 1997『平田遺跡』本次町文化財調査報告書 第4集 本次町教育委員会
- 註24 平成13年度仁多町教育委員会発掘調査
- 註25 吾郷和宏ほか 1992『鳥根県仁多郡横田町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』横田地区 横田町教育委員会
- 註26 潟見 浩 1964『山陰地方I』『弥生式土器集成編1』東京堂出版
- 註27 妹尾周二 1992『注口付の脚台付鉢形土器について』『古代吉備』14
- 註28 塩町式上器の施文は、①突带上に刻目を入れるもの、②多条の凹線文に後から刻目を加えるもの、③ヘラ描き文あるいは刺突文の上に凹線を重ねて刻目を表現するものもあるもの、④3形態がある。現状ではこの文様の呼称は定まっていないが、伊藤実氏は「重層刻日（刺突）文」を提唱している。
- 註29 石田為成氏の御教示による。内部は埴輪8か所、集落遺跡等61か所である。
- 註30 平成9年度大田市教育委員会発掘調査
- 註31 鳥根県教育委員会 2000『神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓』
- 註32 神原博英 2000『川向遺跡』浜田市教育委員会
- 註33 松山智弘 1999『吉古本郷遺跡第6次発掘調査報告書』出雲市教育委員会
鳥根県教育委員会 1999『古志本郷遺跡Ⅰ』
- 註34 米田恵美子ほか 2001『下志遺跡』出雲市教育委員会
- 註35 鳥根県教育委員会 1990『朝鶴川河川改修工事に伴うタテチヨウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
- 註36 竹田 勝はか 1977『山根郡遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告22 岡山県教育委員会
- 註37 垣ノ内遺跡は水掛けが良好で堆積土が厚かったこともあって、上器の残りがよく、表面や胎土の観察が容易である。
- 註38 ここでは、この時期出雲地域に一般的に見られる土器で、遺跡周辺で作られた可能性が高い土器を在地と表記する。垣ノ内遺跡で一般的な土器胎土は、赤褐色・含有物などからは、出雲平野部、松江・安米周辺、神戸川上流域、江の川流域のいずれの上器とも判断できない。
- 註39 塩町遺跡は旧塩町高校のグラウンド造成に伴って発見され、当初の調査は高校の教師と生徒が行い、後に広島大学が加わった。出土土器の大部分は広島大学に保管されているが、一部が高校に残され、現在は広島県立歴史民俗資料館に保管されている。塩町式土器の設定にあたって用いられた土坑出土十一括資料は、広島大学で保管されている。
- 註40 近年、三辻利一氏らにより塩町遺跡を含む備後北部の弥生土器の蛍光X線分析が行われ、胎土比較の面から搬入出関係を明らかにするための基礎データの収集が進められている。
- 註41 米田美江子氏は塩町式土器のルーツについて、Ⅱ様式以降出現する付仔穴帯などで装飾する広口壺との関係を指摘している。(米田美江子 2002『搬入系遺物』『下志遺跡－考察編－』出雲市教育委員会)
- 註42 伊藤実氏の御教示による。
伊藤 実 1992『備後地域』『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』木耳社
1997『広島県の弥生土器について－中期後半から後期の地域的特徴と分布－』(財)島根県埋蔵文化財調査センター研究資料
- 註43 脱稿直前、平成14年度島根県教育委員会調査の平田市青木遺跡出土土器に、同様の施文を行う高杯脚部片を確認したが、僅かな量の上器を実見したに過ぎず、どの程度の割合で含まれるか不明である。
- 註44 板状铁斧を調査した大津正巳氏は、炒鋼産物の貼銅技術とともにとく「合わせ鍛え」製品の可能性が大きく、鳥根県内で弥生時代の羽口を持つ鍛冶遺構が確認できていない以下、国内加工説は保留せざるを得ないと述べている。(大津正巳 2000『鳥根県国吉遺跡出土板状铁斧の金属学的調査』『島根考古学会誌』第17集)
- 註45 本次町家の上遺跡から軌、上脛支脚、甕などが出土している。(坂本渝司 1998『家の上遺跡・石塙遺跡』本次町教育委員会)
- 註46 古代文化センター岩橋季典の教示による。
- 註47 杉原清一 1988『角田遺跡・又下遺跡・付大東高校グラウンド遺跡他資料』大東町教育委員会
- 註48 坂本渝司 2002『下布施横穴墓群 安久寺遺跡』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財調査報告書4 本次町教育委員会
- 註49 坂本渝司のご教示では、寺田I遺跡(平成14年度調査)で出土した殷鉄構は、古代まで通る可能性があるという。
- 註50 島根県教育委員会 2001『鳥根県飯石郡三刀屋町 馬場遺跡発掘調査報告書』
- 註51 寺孝孝・ 2001『図説 江戸考古学事典』江戸考古学研究会
- 註52 これらの証言は大原郡、仁多郡に在住する調査会業員の皆さんから得たものである。この他にも日々の調査の中で調査地周辺の歴史、芸能地方の習慣、伝承などについて多くの御教示をいただいた。記して感謝の意を表したい。
- 註53 島根県教育委員会 1996『尾原の民俗』尾原ダム民俗文化財調査報告書

表9 塙ノ内遺跡出土堅穴住居計測表

SI01

形 狽		円形				後期後業（草田5～7期）	
最大長×最大幅×堅穴高(m)		6.6×6.36×0.6				柱 数	5
番 号	P3-2	P4	P6	P7	P8	P3-2	
柱 穴	上面径(cm)	60×56	68×56	72×68	86×60	48×42	36×36
	底の標高(m)	182.41	182.28	182.29	182.3	182.31	182.04
柱間距離(m)	P3-2～P4	P4～P6	P6～P7	P7～P8	P8～P3-2		
	1.74	1.53	1.71	1.62	1.59		
方 位	N14°E	N51°W	N40°E	N17°W	N 0°		

SI07

形 狽		隅丸方形				後期前業（V-1）	
最大長×最大幅×堅穴高(m)		4.59×4.59×0.12				柱 数	4
番 号	P1	P3-1	P4	P2			
柱 穴	上面径(cm)	45×39	51×36	42×39	39×33		
	底の標高(m)	182.53	184.44	182.28	182.51		
柱間距離(m)	P1～P3-1	P3-1～P4	P4～P2	P2～P1			
	2.01	1.38	1.77	1.65			
方 位	N79°W	N15°E	N70°W	N22°E			

SI02

形 狽		円形				後期後業	
最大長×最大幅×堅穴高(m)		(7.7)×(3.25)×(0.28)				柱 数	(5)
番 号	P3	P4	P5	P6	P7		
柱 穴	上面径(cm)	35×34	36×31	41×35	49×44	64×55	
	底の標高(m)	181.76	181.75	181.85		182	
柱間距離(m)	P3～P4	P4～P5	P5～P6	P6～P7			
	1.44	2.26	1.68	2.3			
方 位	N85°E	N77°W	N37°W	N 5°E			

SI04

形 狽		円形？				SI02以前	
最大長×最大幅×堅穴高(m)		(4.4)×(1.51)×(不明)				柱 数	(2)
番 号	P1	P2					
柱 穴	上面径(cm)	43×38	32×25				
	底の標高(m)	181.8	182				
柱間距離(m)	P1～P2						
	2.42						
方 位	N54°W						

SI03

形 狽		円形				後期中葉～後業	
最大長×最大幅×堅穴高(m)		4.46×(2.94)×(0.29)				柱 数	(3)
番 号	P1	P2	P3				
柱 穴	上面径(cm)	22×21	17×15	27×24			
	底の標高(m)	180.6	180.58	180.16			
柱間距離(m)	P1～P2	P2～P3					
	1.3	1.76					
方 位	N56°E	N60°W					

SI05

形 狽		円形				中期後半（IV-2）	
最大長×最大幅×堅穴高(m)		5.92×5.15×0.72				柱 数	4
番 号	P1	P2	P4-1	P3			
柱 穴	上面径(cm)	79×74	62×60	60×58	90×59		
	底の標高(m)	178.65	178.88	178.98	179		
柱間距離(m)	P1～P2	P2～P4-1	P4-1～P3	P3～P1			
	2.89	2.98	2.98	2.37			
方 位	N70°W	N26°E	N58°W	N26°E			

SI08

形態		円形			中期後半(IV-2)	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		6.35×5.45×(不明)			柱数	4
柱穴	番号	P1	P2	P4-2	P3	
	上面径(cm)	79×54	62×60	50×42	90×59	
	底の標高(m)	178.65	178.88	178.8	179	
柱間距離(m)		P1-P2	P2-P4-2	P4-2-P3	P3-P1	
		2.89	3.3	2.74	2.37	
方位		N70°W	N30°E	N50°W	N26°E	

SI06

形態		隅丸方形			中期後半(IV-2)	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		5.52×(3.22)×(0.36)			柱数	2
柱穴	番号	P1	P2			
	上面径(cm)	36×34	44×38			
	底の標高(m)	176.58	176.36			
柱間距離(m)		P1-P2				
		1.24				
方位		N63°W				

SI09

形態		不明			中期後半～後期初頭(IV-2～IV-1)	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		(4.15)×(2.8)×(0.25)			柱数	2
柱穴	番号	P1	P2			
	上面径(cm)	59×57	52×48			
	底の標高(m)	178.12	177.96			
柱間距離(m)		P1-P2				
		3.17				
方位		N63°E				

SI10

形態		隅丸方形			不明	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		(2.92)×(1.94)×(不明)			柱数	(2)
柱穴	番号	P1	P2			
	上面径(cm)	56×54	54×46			
	底の標高(m)	182.42	182.26			
柱間距離(m)		P1-P2				
		1.9				
方位		N65°W				

SI11

形態		隅丸方形			不明	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		(3.04)×(2.9)×(不明)			柱数	(2)
柱穴	番号	P1-2	P2			
	上面径(cm)	28×26	48×42			
	底の標高(m)	182.42	182.34			
柱間距離(m)		P1-2-P2				
		1.2				
方位		N69°W				

SI12

形態		円形 or 六角形			不明	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		6.1×(2.5)×(不明)			柱数	(3)
柱穴	番号	P1	P2	P3		
	上面径(cm)	55×30	50×26	65×40		
	底の標高(m)	182.7	182.58	182.59		
柱間距離(m)		P1-P2	P2-P3			
		2	2.04			
方位		N22°W	N29°E			

SI13

形態		円形			中期後半 (IV-2)	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		(4.64)×(3.12)×(0.2)			柱数	(3)
番号	P1	P2	P3			
柱穴	上面径(cm)	43×34	36×34	39×39		
	底の標高(m)		184.35	184.31		
柱間距離(m)	P1~P2	P2~P3				
方位	2.21	2.36				
	N55°E	N65°W				

SI14

形態		不明			不明	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		(2.9)×(0.36)×(0.28)			柱数	(0)
番号						
柱穴	上面径(cm)					
	底の標高(m)					
柱間距離(m)						
方位						

SI15

形態		不明			不明	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		(3.96)×(0.86)×(不明)			柱数	(2)
番号	P1	P2				
柱穴	上面径(cm)	30×28	58×46			
	底の標高(m)	182.64	182.44			
柱間距離(m)	P1~P2	1.7				
方位	N67°W					

SI16

形態		方形			中期後半 (IV-2)	
最大長×最大幅×豊穴高(m)		2.39×1.96×(0.12)			柱数	(0)
番号	P1	P2				
柱穴	上面径(cm)	29×29	23×19			
	底の標高(m)	176.23	176.21			
柱間距離(m)						
方位						

表10 塙ノ内遺跡出土獨立柱建物計測表

SB01

規 模		梁行き				桁行き			
		2間(3.3m)				1間(1.3m)			
SB01-1 土軸		N90°E							
番 号	P1-1	P2-1	P3	P4	P5	P6			
柱 穴	上直径(cm)	48×(32)	30×(20)	95×(20)	47×38	38×(15)			
	底の標高(m)	179.46	179.44	179.4	179.22	179.2			
柱間距離(m)	P1-1~P2-1	P2-1~P3	P3~P4	P6~P1-1					
	0.59	1.7	1.34	1.5					
SB02-2 土軸		NS8°E							
番 号	P1-2	P2-2	P3	P4	P5	P6			
柱 穴	上直径(cm)	57×40	59×(30)	95×(20)	47×38	51×49	38×(15)		
	底の標高(m)	179.47	179.42	179.4	179.22	179.42	179.2		
柱間距離(m)	P1-2~P2-2	P2-2~P3	P3~P4	P4~P5	P5~P6	P6~P1-2			
	1.6	1.7	1.34	1.58	1.7	1.7			

SB02

規 模		梁行き				桁行き			
		2間(2.6m)				1間(1.2m)			
SB02-1 土軸		N87°W							
番 号	P7	P8-1	P9	P10-1	P11	P12			
柱 穴	上直径(cm)	87×55	47×36	79×69	42×(28)	81×60	65×53		
	底の標高(m)	179.24	179.34	179.21	179.1	179.17	179.21		
柱間距離(m)	P7~P8-1	P8-1~P9	P9~P10-1	P10-1~P11	P11~P12				
	1.16	1.52	1.2	0.72	1.68				
SB02-2 土軸		N85°W							
番 号	P7	P8-2	P9	P10-2	P11	P12			
柱 穴	上直径(cm)	87×55	61×(36)	79×69	56×(28)	81×60	65×53		
	底の標高(m)	179.24	179.21	179.2	179.04	179.17	179.21		
柱間距離(m)	P7~P8-2	P8-2~P9	P9~P10-2	P10-2~P11	P11~P12				
	1.48	1.12	1.24	1.08	1.68				

SB03

規 模		梁行き				桁行き			
		2間以上				2間(3.4m)			
主 軸		N75°E							
番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7		
柱 穴	上直径(cm)	82×72	108×86	100×76	80×74	84×60	94×64	72×64	
	底の標高(m)	177.38	177.32	177.56	177.18	176.92	176.92	176.8	
柱間距離(m)	P1~P2	P2~P3	P3~P4	P4~P5	P5~P6	P6~P7			
	2.4	2.52	2.48	2.4	2.2	2.2			

SB05

規 模		梁行き				桁行き			
		3間(3.52m)				1間(1.9m)			
SB05-1 土軸		N69°W							
番 号	P1	P2	P3-1	P4-1	P5-1				
柱 穴	上直径(cm)	68×56	108×92	60×(52)	60×(52)	72×(40)			
	底の標高(m)	180.75	180.14	181.08	181.14	198.1.18			
柱間距離(m)	P1~P2	P2~P3-1	P3-1~P4-1	P4-1~P5-1					
	1.88	1.4	1.92	1.6					
SB05-2 土軸		N70°W							
番 号	P1	P2	P3-2	P4-2	P5-2				
柱 穴	上直径(cm)	68×56	108×92	56×(20)	56×(16)	64×(32)			
	底の標高(m)	180.75	180.14	181	181.05	181.22			
柱間距離(m)	P1~P2	P2~P3-2	P3-2~P4-2	P4-2~P5-2					
	1.88	2.2	2.12	1.6					

SB05 - 3 主軸		N70° W						
柱穴	番号	P1	P2	P3-3	P4-3	P5-3		
	上面径(cm)	68×56	108×92	92×84	92×64	88×64		
	底の標高(m)	180.75	180.14	180.88	180.78	180.9		
柱間距離(m)	P1~P2	P2~P3-3	P3-3~P4-3	P4-3~P5-3				
	1.88	1.72	1.92	1.48				

SB06

規 模		築行き				桁行き			
主 軸	番号	2間(4.0m)				1間(2.12m)			
	番号	P6	P7	P8	P9	N75° W			
	上面径(cm)	60×56	68×56	72×68	86×60				
柱穴	底の標高(m)	180.6	180.58	180.16	181.18				
柱間距離(m)	P6~P7	P7~P8	P8~P9						
	2	2	2.12						

SB07

規 模		築行き				桁行き			
SB07-1 主軸	番号	3間(3.76m)				1間(2.16m)			
	番号	P10	P11-1	P12-1	P13-1	P14-1	P15		
	上面径(cm)	88×56	36×(24)	56×54	52×44	(56×62)	70×60		
柱穴	底の標高(m)	180.9	180.92	180.89	180.88	180.92	180.76		
柱間距離(m)	P10~P11-1	P11-1~P12-1	P12-1~P13-1	P13-1~P14-1	P14-1~P15				
	1.68	2.06	1.76	1.52	2.12				
SB07-2 主軸		N75° W							
柱穴	番号	P10	P11-2	P12-2	P13-2	P14-2	P15		
	上面径(cm)	88×56	72×60	60×58	58×54	60×52	70×60		
	底の標高(m)	180.9	180.9	180.92	180.86	180.9	180.76		
柱間距離(m)	P10~P11-2	P11-2~P12-2	P12-2~P13-2	P13-2~P14-2	P14-2~P15				
	2.16	1.64	1.8	1.8	2.2				

SB09

規 模		築行き				桁行き			
主 軸	番号	3間(4.0m)				?			
	番号	P1-1	P1-2	P2-1	P2-2	P3-1	P3-2	P4-1	P4-2
	上面径(cm)	46×36	30×24	46×36	36×26	40×32	44×28	40×28	46×28
柱穴	底の標高(m)	185	184.77	185.14	184.85	185.07	185.01	185.03	185.02
柱穴	番号	P5	P6						
	上面径(cm)	42×40	36×36						
	底の標高(m)	184.89	185.14						
柱間距離(m)	P1-1~P2-1	P2-1~P3-1	P3-1~P4-1						
	2.22	2.28	2.22						

表11-1 垣ノ内遺跡出土遺物総覧1（遺構・土器窯出土遺物は復元後の個体数）

表11-2 塙ノ内遺跡出土遺物総観2(遺構・土器類出土遺物は復元後の個体数)

種別	分類1	分類2	分類3	分類4	時期	A区	B区	C区	D区	E区	F区	G区	備考	土器類	合計	
坪井	西台付	刃方不明、ナゾ網底			7~8世紀中葉~	7	95	1	11	2	3	-	7	18	41	
		底部未切			8世紀中葉~	7	9	6	-	-	-	-	7	28	31	
		タガ状突起が付く												1		
		刃方不明の小片			不明~	5	20	4	21	2	20	21	64			
		底部ハラ切り			ハラ切り直角いケズリ	出雲4期	9	7	10	10	1	2	16	33	88	
					ハラ切り直角いケズリ	出雲4期	2	2	-	-	-	-	2	5	11	
					ハラ切り直角いケズリ	出雲4期	5	-	2	-	-	-	5	6	14	
					ハラ切り後部彫刻	出雲5期~	8	-	-	-	-	-	8	3	20	
		底部未切			表面つる	8世紀代	6	4	3	4	1	-	11	1	32	
					表面つる	8世紀~	4	2	2	3	4	1	5	1	16	
					表面つる	8世紀中葉~	7	21	3	3	1	1	1	1	29	
					表面つる	8世紀中葉~	69	117	90	20	3	11	79	27	253	
		刃方不明の小片	立上がり有		受到影響	一山家~	19	221	20	10	-	-	21	29	263	
					受到影響	出雲4期	6	4	1	-	-	-	4	1	18	
					受到影響	出雲4期	20	21	25	24	-	-	45	1	134	
					シカヒガリ無	「伝」字や「に」とか「？」	8	6	1	2	9	11	-	35		
					シカヒガリ無	口縁部でくびれる	8世紀中葉~	66	35	23	45	21	7	65	2	270
	坪井	つまみ無	ハラ切り直角いケズリ		一山家~	19	31	27	17	2	-	-	22	26	144	
			ハラ切り後部彫きケズリ		山陰4期	62	97	59	66	3	5	65	31	366		
			ハラ切り直角直角切欠きケズリ		出雲5期	9	10	12	6	-	-	3	1	49		
					山陰5期	2	2	2	1	-	-	-	1	8		
		ケズリ後、ナゾで彫物			出雲5期	12	8	3	4	-	1	4	1	32		
		ケズリ省略			7世紀~	2	3	4	2	-	-	5	1	17		
	つまみ付				8世紀~	8	15	24	3	1	3	3	9	1	44	
		鍵穴			8世紀~	2	2	2	1	2	2	-	5	1	17	
		円錐状			7世紀後期	24	41	7	16	5	2	52	1	147		
		つまみ形不規正鋸小刀			7世紀後期~	2	6	3	7	2	1	-	19	3	43	
					口縁部でくびれる	8世紀中葉~	66	35	23	45	21	7	65	2	270	
		口縁部ののみの削片	山根らしく北端		所蔵者不明	15	26	26	71	4	-	27	25	122		
			口縁部ののみの削片	山根内側花模様	山陰4期	115	9	21	8	4	-	10	1	43		
				口縁部ののみの削片	山根内側花模様	山陰4期	11	19	5	9	3	-	6	17	71	
					山陰4期	37	31	16	20	-	1	81	4	193		
	持子	直角形			7世紀後期?	7世紀後期~	2	2	1	1	-	-	2	1	5	
		口縁部ののみの削片	口縁部ののみの削片		所蔵者不明	9	20	2	3	2	-	-	1	1	32	
					所蔵者不明	2	6	1	4	-	3	-	2	1	8	
		直角形			7世紀後期	2	2	1	1	-	-	2	1	5		
		直角形			7世紀後期	1	1	1	1	-	-	1	1	3		
		直角形			7世紀後期	1	1	1	1	-	-	1	1	3		
		直角形			7世紀後期	10	14	2	13	2	2	34	1	78		
		口縁部ののみの削片	口縁部ののみの削片		7世紀後期	1	-	-	-	-	-	-	1	2		
					7世紀後期	1	-	-	-	-	-	-	1	2		
		直角形			7世紀後期	1	-	-	-	-	-	-	1	2		
		直角形			7世紀後期	2	1	2	1	-	-	2	2	10		
	高坪	直角形			丹波4~5期	3	2	2	1	1	-	3	1	15		
		直角形			山陰4期~	1	7	3	4	2	-	3	2	22		
		直角形			山陰4期~	1	-	-	-	-	-	-	1	1		
		直角形			山陰4期~	24	23	3	7	1	9	-	66			
		直角形			合 計	510	846	202	389	37	72	351	650	213	303	

1年(総)	高台付	高い直角				5	7	1	1	1	1	7	2	23
		直角				3	4	5	1	2	-	5	2	12
		直角と一点化				1	2	1	1	-	-	3	1	9
	高台付	底部縁部が凹曲する			口縁が斜度字る	20	3	1	4	-	-	14	2	49
					口縁が斜度字る	13	7	6	11	1	1	66	4	97
					口縁が斜度字る	1	1	1	12	-	-	21	2	30
		口縁部底が一全体			口縁が斜度字る	9	13	2	1	2	-	22	4	53
					口縁が斜度字る	19	7	1	3	5	1	41	3	80
		口縁部底が一全体			口縁が斜度字る	3	-	-	-	-	-	3	1	5
					口縁が斜度字る	11	2	-	-	1	2	3	1	10
		口縁部底が一全体			口縁が斜度字る	11	2	-	-	2	-	7	2	20
					口縁部底がくびれる	1	1	-	-	-	-	2	2	6
		口縁部底が一全体			口縁部底がくびれる	2	-	-	-	-	-	2	1	5
					口縁部底がくびれる	3	-	-	-	-	-	3	1	5
		事前解説			口縁部底がくびれる	14	21	1	-	-	-	6	2	25
		無基			口縁部底がくびれる	1	-	-	-	-	-	1	1	2
		つまみが付く			円錐状	3	1	2	2	-	-	3	1	6
					円錐状	3	1	2	2	-	-	5	1	13
		口縁部底がくびれる			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		口縁部底がくびれる			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	14	21	1	-	-	-	6	2	25
					円錐状	1	-	-	-	-	-	1	1	2
		外周に凹線			円錐状	3	1	2	2	-	-	5	1	13
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
		外周に凹線			円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6
					円錐状	2	1	1	1	-	-	2	1	6

表12 沿ノ内遺跡遺構別出土遺物数量表

時 期	施 工	SII01-07	SII02-04	SII03	SII05-08	SII06	SII09	SII10	SII11	SII12	SII13	SII14	SII15	SII16	通構2・施工段1	SII17	SII18	SII19	SII20	SII21	SII22	SII23	SII24	SII25	備 考		
新生時代中期後半	先 灰	2	3	4	2						6			1	12	12		5	5	3	41		1				
	瓦等(瓦類)		1	1							2														8		
	台付壺																										
	角付																										
	広口壺		1								2																
新生時代後期初頭	甕										1																
新生時代後期前半	甕	2	2								3							35									
新生時代後期後半	角付																	6								1	
新生時代後期後半	先 灰	1	4						2								17			8	3					6	
	角付																										
新生時代後期後半	甕	4	2														14			6	4						
	角付	5																									
新生時代後期後半	先 灰		1																								1
新生時代後期後半	角付	2																									
新生時代後期後半	甕																										
新生時代	甕																										
	角付		1	1	1						6						39			17	3	12				1	
	角付																24										
繩状器(出雲3-4期)	瓦																			4							1
	小 壺																			23	8	3	8				
	小 壺																			43	1	12					
(出雲3-4期)	瓦																1		2							1	
	小 壺																1			4	3	7					
	角付																		1								
	角付																		1								
(7世紀代)	瓦																		1	2							
	小 壺																										
(8世紀代)	不 備																										
	土 壁																23			3							
	瓦																		176	4	7						
	瓦 大 壺																		4		1						
	小 壺																		5								
	瓦																		65		3	1					8
	瓦 大 壺																		2		1	2				7	
	小 壺																		11								3
	瓦 小 壺																										1

表13 塙ノ内遺跡出土土器観察表

序号	出土番号	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	最高(cm)	底径(cm)	色調	内面の網目	外面の網目	形態・文様の特徴	備考
25	1 20	D区	SII01-07	弥生	甕	(24.6)	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ			
26	2 20	D区	SII01-07	弥生	甕	16.2	-	-	全面：淡灰褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
26	3 20	D区	SII01-07	弥生	甕	(19.6)	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	柱円錐、底に よる削れ	
26	4 20	D区	SII01-07	弥生	甕	(19.6)	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		
26	5 20	D区	SII01-07	弥生	甕	(16.2)	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		
26	6 20	D区	SII01-07	弥生	甕	(17.4)	-	-	全面：淡灰褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ	海藻紋底紋	
26	7 20	D区	SII01-07	弥生	甕	15.0	-	-	全面：淡墨褐色	ヨコナデ、ナデ、 ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
26	8 -	D区	SII01-07	弥生	高杯	22.4	6.5	-	全面：淡紅褐色	ヨコナデ底紋の上 にナデ	ヨコナデ底紋の上 にナデ		
26	9 -	D区	SII01-07	弥生	高杯	22.7	-	-	外：褐色 内：朱墨色	ヨコナデ、ミガキ ナ、ナメ模様	ヨコナデ、ミガキ ナ		
26	10 20	D区	SII01-07	弥生	高杯	-	-	-	外：淡褐褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		
26	11 20	D区	SII02-07	弥生	高杯	20.4	6.0	-	外：青褐色 内：淡墨褐色	ナデ後もガキ、ハ ケ後もガキ	ナデ後もガキ、ハ ケ後もガキ	縫合孔	12と同一 個体 か?
26	12 20	D区	SII01-07	弥生	高杯	-	6.6	14.0	内面：黄褐色	ナデ、ハケメ、ミ ガキ	ナデ、ハケメ、ミ ガキ		
26	13 20	D区	SII01-07	弥生	高杯	(19.6)	-	-	全面：淡褐色	ミガキ	ミガキ	異質による剥離	
26	14 20	D区	SII01-07	弥生	高杯	-	-	-	全面：淡褐色	ミガキ	ヨコナデ		
26	15 20	D区	SII01-07	弥生	高杯	-	-	-	全面：水色茶 色	ミガキ	ミガキ	心円状スタンプ	
26	16 20	D区	SII01-07	弥生	高杯	-	-	-	内：青褐色	ナデ	ナデ		
26	1 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	-	-	-	内面：淡褐色	ヨコナデ	ナデ		
26	2 23	C区	SII02-04	弥生	豆皿	-	-	-	内：青褐色	ケズリ後ナデ、保 留模様	ヨコナデ、ミガキ		
26	3 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	(19.8)	-	-	外：青褐色 内：青褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	復元工具による剥離 痕	
26	4 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	28.2	-	-	外：青褐色 内：褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	上腹部に凹線文	
26	5 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	(15.6)	-	-	外：青褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	口沿部に凹線文	
26	6 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	(20.4)	-	-	外：青褐色 内：青褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	上腹部に凹線文	
26	7 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	(19.0)	-	-	内：褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	上腹部に凹線文	
26	8 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	(22.6)	-	-	内：褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	上腹部に凹線文	
26	9 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	-	-	-	全面：淡青褐色	ケズリ	ハケメ後ナデ	板状工具による剝離 痕	舟溝り
26	10 22	C区	SII02-04	弥生	豆皿	-	-	-	外：青褐色 内：乳白色	一	一	土器片の再利用	
31	1 23	C区	SII03	弥生	甕	(25.6)	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口部部に凹線文	
31	2 23	C区	SII03	弥生	甕	(24.8)	-	-	内：青褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	不規則な凹線文	
31	3 23	C区	SII03	弥生	甕	-	-	(8.6)	外：青褐色 内：乳白色	ケズリ、捺壓模様	ヨコナデ、ミガキ		
34	1 25	B区	SII05-08	弥生	甕	(25.2)	-	-	外：淡褐色 内：青褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ メ	口直等に凹線文 痕、腹壁に板状工具 による剝離工具	
34	2 25	B区	SII05-08	弥生	甕	(16.2)	-	-	内：青褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口部部に凹線文3条	
34	3 25	B区	SII05-08	弥生	甕	-	-	-	外：淡褐色	ナデ	ナデ	縫合式	
34	4 25	B区	SII05-08	弥生	甕	(25.2)	-	-	内：青褐色	ナデ	ナデ	口部部に凹線文3条	
34	5 25	B区	SII05-08	弥生	甕	-	-	-	外：淡褐色	ナデ	ナデ	縫合式	
34	6 25	B区	SII05-08	弥生	甕	(6.4)	-	-	内：小乳頭 外：淡褐色 内：乳白色	ナデ	ナデ、ナメ 模様	ナデ、ナメ、ミガ キ、深井田痕	
34	7 25	B区	SII05-08	弥生	甕	-	-	-	外：淡褐色 内：乳白色	ケズリ、捺壓模様	ヨコナデ、ミガ キ	口直等に凹線文 痕、腹壁に板状工具 による剝離工具	
34	8 25	B区	SII05-08	弥生	甕	(4.6)	-	-	内：淡褐色	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ミガ キ、深井田痕	
37	1 26	C区	SII06	弥生	甕	(17.6)	-	-	全面：孔眼	ヨコナデ	ヨコナデ	口部部に凹線文3条	
37	2 26	C区	SII06	弥生	甕	(22.6)	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口部部に凹線文3条	
37	3 26	C区	SII06	弥生	甕	(12.0)	-	-	内：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ、捺壓	ヨコナデ	
37	4 26	C区	SII06	弥生	甕	(18.0)	-	-	外：淡褐色 内：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ	口部部に凹線文3条	
37	5 26	C区	SII06	弥生	甕	(14.6)	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ	口部部に凹線文3条	
37	6 26	C区	SII06	弥生	甕	(13.0)	-	-	外：淡褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ	口部部に凹線文3条	
37	7 26	C区	SII06	弥生	甕	22.2	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		
37	8 26	C区	SII06	弥生	甕	-	-	-	全面：淡褐色	ナデ	ナデ	縫合式	
37	9 26	C区	SII06	弥生	甕	-	-	-	全面：淡褐色	ナデ	ナデ	ナデ	
37	10 26	C区	SII06	弥生	甕	-	-	-	全面：乳白色	ナデ	ナデ	ナデ	
37	11 27	C区	SII06	土器群	甕	-	-	-	外：淡褐色 内：乳白色	ケズリ	ハケ後ナデ、否 定型	ハケ後ナデ、否 定型	
40	1 27	B区	SII09	弥生	甕	(22.0)	-	-	外：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口部部に凹線文2条	
40	2 27	B区	SII09	弥生	甕	(14.8)	-	-	内：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口部部に凹線文2条	
40	3 27	B区	SII09	弥生	甕	-	-	(0.8)	外：淡褐色 内：乳白色	ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
45	1 32	E区	SII3(造價11)	弥生	甕	(12.8)	-	-	外：淡褐色 内：乳白色	ヨコナデ、ハラ タ	ヨコナデ	縫合式に沿う 削り目、斜削り	外側に埋植行

鉢形 番号	道具 番号	写真 図版	地区	出土位置	種類	器 横	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	色 調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備 考
45 2 32 II区	ST13 (遺傳11)	弥生	庵	14.2	-	外: 淡褐色 内: 淡黄褐色	ヨコナデ、ハケ ミ、ケズリ、ナデ	ヨコナデ	磨工による削羽 片状剥離	磨工による削羽 片状剥離	磨工による削羽 片状剥離	磨工による削羽 片状剥離	磨工による削羽 片状剥離	
45 3 32 II区	ST13 (遺傳11)	弥生	茎	(22.6)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
45 4 32 II区	ST13 (遺傳11)	弥生	茎	14.8	-	外: 淡褐色 内: 淡黄褐色	ヨコナデ、ハケ ミ、ケズリ、ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ ミ、ケズリ、ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
45 5 32 II区	ST13 (遺傳11)	弥生	茎	-	-	(5.0)	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
45 6 32 II区	ST13 (遺傳11)	弥生	茎	-	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
45 7 32 II区	ST13 (遺傳11)	弥生	茎	-	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
50 1 34 I区	SD16 (陶傳9)	弥生	茎	20.0	-	全曲: 浅褐色	ヨコナデ、ハケ ミ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ ミ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 1 37 I区	遺傳2	弥生	男	(16.4)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 2 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(14.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 3 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(16.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 4 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(14.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 5 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(21.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 6 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(15.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ナデ ミ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 7 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(23.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズ リ、擦痕	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 8 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(28.0)	-	-	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 9 37 I区	遺傳2	弥生	茎	23.2	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 10 37 I区	遺傳2	弥生	茎	21.6	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 11 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(15.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズ リ、擦痕	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 12 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(30.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ハケ ミ、ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 13 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(28.0)	-	-	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 14 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(25.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 15 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(18.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズ リ、ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 16 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(16.4)	-	-	-	-	-	全面: 浅褐色	ヨコナデ、ナデ ミ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 17 37 I区	遺傳2	弥生	茎	(17.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 18 37 I区	遺傳2	弥生	茎	23.0	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ハケ ミ、ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
53 19 39 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 1 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(19.0)	-	-	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 2 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(37.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 3 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(20.0)	-	-	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ナデ ミ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 4 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(17.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ナデ ミ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 5 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(18.4)	-	-	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 6 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(29.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ、ナ デ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 7 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(20.0)	-	-	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 8 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	0.8	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ナデ ミ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ ミ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 9 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	(4.0)	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 10 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	(5.0)	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 11 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	(8.0)	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ナデ ミ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 12 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	5.4	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 13 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	(5.0)	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 14 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	(5.0)	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 15 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	(5.4)	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 16 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	2.7	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 17 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(16.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 18 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(18.0)	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 19 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(16.0)	-	-	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 20 38 I区	遺傳2	弥生	茎	(37.0)	-	-	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ ミ、ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 21 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	-	-	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 22 39 I区	遺傳2	弥生	茎	18.5	8.3	10.0	-	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
54 23 38 I区	遺傳2	弥生	茎	-	-	-	(15.0)	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ

件名	通号	出土番号	写真	図版	地区	出土位置	種類	器種	口径 (cm)	若高 (cm)	底径 (cm)	色 調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
61	2	39	T区	遺構2	土器部	甕	14.5	-	-	金面：淡赤褐色 口コナデ、ミダ リ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ 後ミダ				外向脚部より 上、片側底部付 近に僅存	
61	1	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	壺蓋	12.3	4.3	-	外：青灰色 内：灰褐色	同軸ナデ					
61	2	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	壺蓋	12.6	3.9	-	全面：灰褐色	同軸ナデ、薄地な 同軸ヘタケズリ					
61	3	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	壺蓋	10.8	4.5	-	全面：青灰色	同軸ナデ、薄地な 同軸ヘタケズリ					
61	4	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	壺蓋	11.1	4.5	-	外：青灰色 内：灰褐色	同軸ナデ	同軸ナデ、圓錐な 同軸ヘタケズリ				
61	5	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	小壺	5.4	6.1	-	全面：淡褐色	ナデ	施ヘルニアズ リ	ナデ、西脇注釈			
61	6	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	小壺	10.4	11.8	-	少面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ヨコナデ、丁寧な ナデ					
61	7	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	小壺	9.2	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ					
61	8	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	12.6	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ後ナ ダ			一部に僅		
61	9	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	16.0	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ	ハケメ		一部に僅		
61	10	46	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	15.7	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ					
61	11	49	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	16.0	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ		ハラ印記?			
61	12	49	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	13.7	-	-	全面：青褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ					
61	13	47	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	19.0	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ					
61	14	47	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	16.2	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ			一部に僅		
61	15	47	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	17.0	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ			一部に僅		
61	16	47	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	18.8	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ					
61	17	47	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	12.0	12.4	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ					
62	1	17	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	16.0	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ハケメ	ナデ					
62	2	47	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	18.0	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ					
62	3	47	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	22.4	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ	ハケメ				
62	4	48	B区	ML段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	17.2	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ			内調1/4に淡褐色		
62	5	48	B区	ML段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	-	-	-	外：淡褐色 内：褐色	ケズリ	ナデ				
62	6	48	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	14.6	-	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ			一部に僅		
62	7	48	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	20.8	27.8	-	全面：褐色 ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ			堤防跡面に5cm× 0.5cmの牽引孔		
62	8	48	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	25.8	-	-	外：淡褐色 内：淡黃褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ				
62	9	49	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	23.6	27.2	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ナデ					
62	10	49	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	20.6	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ リ、ケズリ後ナデ 先ナデ					
63	1	49	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	移造式甕	25.2	34.5	-	全面：淡褐色 ナデ、ケズリ	ナデ					
63	2	49	B区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	縫隙甕	2.6	2.5	4.8	全面：乳白色				表面に縫隙文		
64	1	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	15.8	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ					
64	2	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	21.8	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ					
64	3	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	13.8	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ナア			一部に僅		
64	4	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	15.0	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ					
64	5	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	21.4	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ					
64	6	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	15.2	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ ナデ、ハケメ			一部に僅		
64	7	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	28.4	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ ナデ、ハケメ					
64	8	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	34.0	-	-	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ					
64	9	50	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	甕	22.5	-	7.5	全面：淡褐色 ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、 ハケメ、縫隙文			底部付近に穿孔		
64	10	49	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	縫隙甕	4.9	2.0	-	全面：淡褐色				縫隙文		
65	1	53	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	壺蓋	13.8	4.0	-	全面：青灰色 同軸ナデ	同軸ナデ、輕薄な 同軸ヘタケズリ					
65	2	53	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	壺蓋	12.2	4.0	-	外：淡青灰色 内：青灰色	同軸ナデ、輕薄な 同軸ヘタケズリ					
65	3	53	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	壺蓋	10.4	3.9	-	外：青灰色 内：淡青灰色	同軸ナデ、ナデ 同軸ヘタケズリ					
65	4	53	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	須恵器	壺蓋	-	6.3	-	外：淡青灰色 内：青灰色	同軸ナデ、同軸ヘ タケズリ					
65	5	53	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	丹波?	甕	13.4	6.5	-	全面：赤褐色 ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、各部ナ デ、ハケメ			甕部が壊している		
65	6	53	C区	加T段2 (BKDD, CKDD)	土器部	縫隙甕	-	-	-	全面：淡褐色	同軸ナデ			甕部付近に穿孔		

地番	通号	写真番号	地名	出土位置	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色	調査	外西の調整	形態・文様の特徴	備考
57	7	S1	C区	足T段(CKD02)	土師器	壺	13.4	-	-	外: 黄褐色 内: 陶灰褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ		
67	8	53	C区	加T段(CKD02)	土師器	壺	14.2	-	-	全面: 乳白色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ハケメ		
67	9	53	C区	加T段(CKD02)	土師器	壺	16.5	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナゲ		
67	10	43	C区	加T段(CKD02)	土師器	壺	21.4	33.7	-	全面: 淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナゲ、ハケメ	外側一部に朱 全周風化	
20	1	35	A区	被焼付(AXD02)	土師器	壺	-	2.2	5.1	全面: 淡褐色	ナゲ			
20	2	35	A区	被焼付(AXD02)	土师器	壺	12.7	4.5	-	全面: 乳白色	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切 り直ナデ		
20	3	36	A区	被焼付(AXD02)	土師器	壺	18.4	-	-	全面: 淡褐色	ナゲ、ケズリ後ナ デ	ナゲ、ハケメ		
20	4	36	A区	被焼付(AXD02)	土師器	壺	18.3	-	-	全面: 淡褐色	ナゲ、ケズリ後ナ デ	ナゲ、ハケメ		
20	5	35	A区	被焼付(AXD02)	土師器	壺	16.4	-	-	全面: 淡褐色	ナゲ	ナゲ、ハケメ		
20	6	35	A区	被焼付(AXD02)	土師器	壺	17.2	-	-	全面: 乳白色	ナゲ	ハバメ		
20	7	35	A区	被焼付(AXD02)	土師器	壺	14.4	-	-	全面: 乳白色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ハケメ	全体に風 化部に斑	
20	8	35	A区	被焼付(AXD02)	土師器	壺	16.6	-	-	全面: 淡褐色	ナゲ、ケズリ後ナ デ	ナゲ		
20	9	9	A区	被焼付(AXD02)	土師器	壺	21.8	-	-	全面: 淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ハケメ		
23	1	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	-	-	-	全面: 青褐色	回転ナデ、ナゲ	回転ナデ、ヘラ切 り直ナデ		
73	2	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	13.4	4.6	-	全面: 青褐色	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切 り直ナデ		
73	3	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	13.0	4.3	-	全面: 灰色	回転ナデ、ナゲ	回転ナデ、ヘラ切 り直ナデ		
73	4	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	10.8	3.6	-	全面: 青褐色	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切 り直ナデ		
73	5	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	11.4	3.7	-	全面: 淡褐色	回転ナデ、ナテ	回転ナデ、ヘラ切 り直ナデ		
73	6	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	10.6	4.1	-	全面: 淡褐色	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切 り直ナデ	外観の1/3に自然 剥離	
73	7	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	10.8	4.3	-	全面: 淡褐色	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切 り直ナデ	外観に自然剥離 多い	
73	8	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	14.6	-	-	外: 乳白色 内: 乳白色	ナゲ、ケズリ	ヨコナデ、ナゲ、 ハバメ		
73	9	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	15.6	-	-	全面: 淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ		
73	10	37	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	15.0	-	-	全面: 淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ハケメ		
73	11	38	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	-	-	-	全面: 乳白色	ケズリ	ナゲ、ハケメ		
73	12	38	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	2.6	2.6	4.2	全面: 乳白色	ナゲ		風化	
73	13	38	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	-	-	-	全面: 乳白色	ナゲ			
73	14	38	B区	被焼付(BKD02)	土师器	壺	2.8	2.7	4.5	全面: 乳白色	ナゲ	回転文		
26	1	38	I区	被焼付	土师器	壺	-	-	7.6	全面: 青褐色	回転ナデ	ヨコナデ、回転ナ デ、ヘラ切こし仕 ナデ		
26	2	38	I区	被焼付	土师器	壺	25.0	-	-	全面: 淡青色	ヨコ回転ナデ	回転ナデ		
26	3	38	I区	被焼付	土师器	壺	-	-	-	全面: 淡青色	有目	ナゲ		
26	4	38	I区	被焼付	土师器	壺	-	-	-	全面: 淡青色	ヨコナデ、ナテ	長毛生痕		
26	5	38	I区	被焼付	土师器	壺	-	-	-	全面: 月桂色	ナゲ	ナゲ		
26	6	38	I区	被焼付	土师器	壺	-	-	-	全面: 月桂色	ナゲ	ナゲ、ミガキ		
26	7	38	I区	被焼付	土师器	壺	-	-	-	全面: 月桂色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ミガキ	一部に風 化部に斑	
26	8	38	I区	被焼付	土师器	壺	-	-	-	全面: 月桂色	ナゲ	ナゲ、ミガキ	日陰部に斑	
29	1	60	D区	SK02	丹塗り	壺	(10.1)	4.1	-	丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、漆頭庄 原	皮は薄らない、 漆け跡あり	
29	2	61	D区	SK02	丹塗り	壺	14.5	3.3	10.5	全面: 丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、ナゲ	皮は薄らない、 漆け跡あり	
29	3	60	D区	SK02	丹塗り	壺	(12.6)	3.8	10.0	全面: 丹塗り	ヨコナデ、ナゲ	ヨコナデ、ナゲ	皮は薄らない	
29	4	60	D区	SK02	丹塗り	壺	-	-	8.9	全面: 丹塗り	ヨコナデ、ナゲ	ヨコナデ、ナゲ	皮は薄らない	
29	5	60	D区	SK02	被塗土器	(9.6)	-	-	-	外: 漆黒色 内: 漆黒褐色	窓ナデ	窓ナデ		
29	6	61	D区	SK02	月桂色	壺	13.5	2.6	9.8	全面: 月桂色	ヨコナデ、ナゲ	ヨコナデ、漆頭庄 原		
29	7	60	D区	SK02	月桂色	壺	-	-	7.1	全面: 月桂色	ヨコナデ	ヨコナデ	漆白内面は直ら ない	
29	8	60	D区	SK02	月桂色	壺	-	-	8.0	全面: 月桂色	ヨコナデ	ヨコナデ	漆は盛らない	
29	9	61	D区	SK02	土師器	壺	(26.0)	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		
29	10	60	D区	SK02	土師器	壺	(23.6)	-	-	外: 漆牛糞色 内: 漆褐色	ハケメ残ナデ、ケ ズリ	ナゲ、ハメメテナ デ、抱頭丸痕		
29	11	60	D区	SK02	土師器	壺	(18.2)	-	-	外: 黑褐色 内: 漆褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナゲ		
29	12	60	D区	SK02	「」形器	壺	-	-	-	全面: 淡褐色	ハケメ、ケズリ	ハケメ後ナデ、ハ ケメ、折頭庄原		
29	13	61	D区	SK02	漆油器	壺	(20.6)	-	-	外: 蘭青色 内: 青灰色	ヨコナデ、タキシ	ヨコナデ、タキシ	同心円状あく程度	
29	14	61	D区	SK02	被塗土器	壺	8.1	11.7	6.5	全面: 漆褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	東御阿良赤堀切	
29	15	60	D区	SK02	被塗土器	壺	(13.8)	-	-	全面: 青黑色	ヨコナデ	ヨコナデ、漆頭庄 原		
29	16	60	D区	SK02	被塗土器	(10.4)	-	-	全面: 乳白色	ヨコナデ、青漆油	ナゲ、指屈庄原			
29	17	60	D区	SK02	被塗土器	(12.2)	-	-	外: 漆青褐色 内: 漆褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナゲ、指屈庄原			
29	18	61	D区	SK02	漆油器	(20.6)	-	-	外: 蘭青色 内: 青灰色	ヨコナデ、タキシ	ヨコナデ、タキシ			
29	19	61	D区	SK02	被塗土器	壺	-	-	-	外: 漆牛糞色 内: 漆褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		
29	20	62	D区	漆油器	壺	13.3	4.8	9.0	全面: 漆牛糞色	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラ切 り後ナデ			
29	21	62	D区	漆油器	壺	11.9	3.8	6.5	全面: 丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、ナゲ			
29	2	62	D区	漆油器	壺	29.0	-	-	外: 黑褐色 内: 乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ			
29	3	62	D区	漆油器	壺	13.6	3.3	-	外: 漆褐色 内: 乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ、ナゲ	外観の一端に丹 が残る		

種別	番号	写真 番号	地名	出土位置	種類	器種	口径 (cm)	深さ (cm)	底径 (cm)	色	内面の調整	外観の調整	形態文様の特徴	備考
82	6	62	D区	遺跡8	卉歩り	片	16.0	1.7	-	全面：丹赤色	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ			
82	7	62	D区	遺跡8	卉歩り	直	-	(10.0)	全面：丹赤色	ナデ	ナデ後3カギ		裏面の内側も丹 赤り	
96	1	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	更	(18.6)	-	-	全面：乳白色 外：輪ぬれ色 内：乳白色	ヨコナデ、ハケ メ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か、柄穴は点打2列	
96	2	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	更	(14.0)	-	-	全面：乳白色 内：乳白色	ヨコナデ、ハケ メ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か、柄穴は点打2列	
96	3	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	-	全面：淡黄色	ナデ		茎可式	
96	4	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	(22.4)	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ		口縁部は丸く柔ら か、腹部に筋状の 付突起	口縁部をなし
96	5	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	(28.0)	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2条	
96	6	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	(18.0)	-	-	外：淡黄色 内：乳白色	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	ヨコナデ、ハケ メ	口縁部は丸く柔ら か、柄穴は点打2列	
96	7	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	更	(17.6)	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	ヨコナデ、ハケ メ	口縁部は丸く柔ら か	
96	8	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	(10.0)	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	ヨコナデ	口縁部は丸く柔ら か	
96	9	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	更	-	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か、腹部に筋状の 付突起	口縁部をなし
96	10	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	21.8	-	-	全面：淡黄色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か、腹部に筋状の 付突起	
96	11	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	(13.2)	-	-	外：乳白色 内：乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ メ	口縁部は丸く柔ら か、柄穴は点打2列	
96	12	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ キ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	
96	13	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	(16.5)	-	-	全面：淡黄色	ナデ、ハケメ、ニ ガキ	ナデ、ハケメ、ニ ガキ	口縁部は丸く柔ら か、腹部に筋状の 付突起	表面の洗浄痕 が付いています
96	14	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	-	外：淡黄色 内：淡黄色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、ニ ガキ	口縁部は丸く柔ら か、腹部に筋状の 付突起	
96	15	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	-	外：淡黄色 内：淡黄色			ミガキ	
96	16	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	広口直	-	-	-	全周：暗褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か、腹部に筋状の 付突起	
96	17	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	7.6	外：乳白色 内：乳白色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	
96	18	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	7.8	外：乳白色 内：乳白色	ナデ	ナデ	口縁部は丸く柔ら か	
96	19	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	7.4	全周：乳白色	ナデ	ナデ	口縁部は丸く柔ら か	
97	1	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	-	外：乳白色 内：乳白色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
97	2	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	-	全周：淡黄色	ミガキ、ケズリ	ミガキ		口縁部は丸く柔ら か
97	3	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	-	全周：淡黄色	ミガキ、ケズリ	ミガキ、ナデ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列、凹 溝
97	4	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	-	-	15.8	外：淡赤褐色 内：淡赤褐色	ナデ後2テ、ヨ コナタケズリ、ナ ゲ	ナデ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列、凹 溝
97	5	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	19.0	-	8.5	全周：淡褐色	ナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ、ナ ゲ	ミガキ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列、凹 溝
97	6	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	(20.0)	-	-	全周：淡褐色	ヨコナデ、ミガ キ、ナタ、ヨコナ タケズリ	ミガキ、ナデ	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列、凹 溝	地・環
97	7	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	直	30.6	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	後板部ハケのちミ ガキ、ヨコナデ	ミガキ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列、凹 溝
99	1	73	I区	土器縁911	弥生	直	12.2	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列、凹 溝
99	2	73	I区	土器縁911	弥生	直	13.0	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナデ キ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	外縁部有り
99	3	74	I区	上器縁911	弥生	直	16.2	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	4	73	I区	上器縁911	弥生	直	-	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	
99	5	73	I区	上器縁911	弥生	直	21.0	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	6	73	I区	上器縁911	弥生	直	36.0	-	-	全周：黄褐色	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	7	73	I区	上器縁911	弥生	直	(13.2)	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	8	74	I区	土器縁911	弥生	直	-	-	4.8	全周：淡褐色	ヨコナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	9	74	I区	上器縁911	弥生	直	-	-	8.8	全周：淡褐色	ヨコナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	10	74	I区	上器縁911	弥生	直	37.4	-	-	全周：淡褐色	ヨコナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	11	74	I区	土器縁911	弥生	広口直	-	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ	ヨコナデ、ミガキ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	12	74	I区	土器縁911	弥生	直	20.0	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナタ、ヨ コナタケズリ	ヨコナデ、ミガキ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	13	74	I区	土器縁911	弥生	直	17.6	-	-	全周：乳白色	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列
99	14	74	I区	土器縁911	弥生	直	-	-	27.0	全周：淡褐色	ケズリ	ナデ	口縁部は丸く柔ら か	口縁部は丸く柔ら か、口縁部は2列

種類	備考	写真番号	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外蓋の調整	形態・文様の特徴	備考
108 1 80 I区	土器裏9	先住	東	(19.6)	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹面な段、	口縁部に凹面な段、	口縁部に凹面な段、		
108 2 81 I区	土器裏9	先住	東	(17.3)	-	-	全面：黄褐色	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	凹面2ヶ条、通路に	凹面2ヶ条、通路に	凹面2ヶ条、通路に		
108 3 80 I区	土器裏9	先住	東	20.0	-	-	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ、ハケメ、指擦痕	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹面文2ヶ条	口縁部に凹面文2ヶ条	口縁部に凹面文2ヶ条	外縁周り	
108 4 80 I区	土器裏9	先住	東	23.0	-	-	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ハケメ、指擦痕	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹面文、側	口縁部に凹面文、側	口縁部に凹面文、側		
108 5 80 I区	土器裏9	先住	東	(33.0)	-	-	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	側面文、口縁部に凹	側面文、口縁部に凹	側面文、口縁部に凹		
108 6 80 I区	土器裏9	先住	東	-	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	側面文、瓶形	側面文、瓶形	側面文、瓶形		
108 7 80 I区	土器裏9	先住	東	-	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	側面文、瓶形	側面文、瓶形	側面文、瓶形		
108 8 80 I区	土器裏9	先住	東	-	-	-	全面：淡黒褐色	ハラサミ	ハラサミ	側面文、瓶形	側面文、瓶形	側面文、瓶形		
108 9 81 II区	土器裏10	先住	東	14.6	-	-	全面：淡黒褐色	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	口縁部に要凹面文、	口縁部に要凹面文、	口縁部に要凹面文、	内縁周り	
108 10 81 II区	土器裏10	先住	東	8.6	-	-	内：褐色	ナデ、ミガキ、ケズリ	ナデ、ミガキ	側面文	側面文	側面文		
108 11 81 II区	土器裏10	先住	東	-	-	4.2	外：淡褐色	ケズリ	ミガキ	底もミガキ	底もミガキ	底もミガキ		
108 12 81 II区	土器裏10	先住	東	15.8	-	-	全面：淡赤褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	本口を凹しながらあ	本口を凹ながらあ	本口を凹ながらあ		
108 13 81 II区	土器裏10	先住	東	16.8	-	-	全面：淡赤褐色	ミガキ、ケズリ	ナデ	ててに凸筋	ててに凸筋	ててに凸筋		
108 14 81 II区	土器裏10	先住	東	23.3	-	-	全面：淡黄褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縫部、瓶形に要凹	口縫部、瓶形に要凹	口縫部、瓶形に要凹		
108 15 81 II区	土器裏10	先住	東	16.4	-	-	外：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	側面文	側面文	側面文		
108 16 81 II区	土器裏10	先住	西	-	-	15.8	内：褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	貝殻後ナデ、ミガキ	貝殻後ナデ、ミガキ	貝殻後ナデ、ミガキ	貝殻後	
108 17 81 II区	土器裏10	先住	西	-	-	-	全面：灰白色	ナデ、ミガキ	ミガキ	内縁部2ヶ条の間に削	内縁部2ヶ条の間に削	内縁部2ヶ条の間に削	後成不良	
108 18 81 II区	土器裏10	先住	西	15.0	-	-	全面：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	口縫部に要凹面文、	口縫部に要凹面文、	口縫部に要凹面文、		
108 19 81 II区	土器裏10	先住	西	-	-	-	外：淡褐色	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ	口縫部に要凹面文、	口縫部に要凹面文、	口縫部に要凹面文、		
108 20 81 II区	土器裏10	先住	西	22.8	-	-	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	瓶状立溝による押打	瓶状立溝による押打	瓶状立溝による押打		
108 21 81 II区	土器裏10	先住	西	-	-	6.8	外：褐色	ケズリ	ミガキ	口縫部に直行骨	口縫部に直行骨	口縫部に直行骨	直行	
112 1 85 II区	土器裏3	先住	東	(13.6)	-	-	全面：淡黒褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縫部にいびつな凹	口縫部にいびつな凹	口縫部にいびつな凹	外縁に付着	
112 2 85 II区	土器裏2	海舟	西	(16.0)	-	-	外：淡黒褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ、ケズリ	側面文	側面文	側面文	かなり異色なし	
112 3 85 II区	土器裏1	先住	東	(17.6)	-	-	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
112 4 85 II区	土器裏1	先住	東	(25.4)	-	-	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	側面部に凹面文	側面部に凹面文	側面部に凹面文		
112 5 85 II区	土器裏1	先住	西	(24.8)	-	-	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	側面部に凹面文	側面部に凹面文	側面部に凹面文	受取	
112 6 85 II区	土器裏1	先住	西	-	-	(19.6)	外：淡赤褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	内縁部に要凹面文	内縁部に要凹面文	内縁部に要凹面文	両台部	
112 7 85 II区	土器裏2	先住	東	(11.6)	-	-	外：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ、ナデ	内縁部に要凹面文、	内縁部に要凹面文、	内縁部に要凹面文、		
112 8 85 II区	土器裏1	先住	東	18.4	-	-	内：淡褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ	内縁部に要凹面文	内縁部に要凹面文	内縁部に要凹面文		
112 9 85 II区	土器裏3	土埋置	東	-	-	-	全面：褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	外縁に小切に風化	外縁に小切に風化	外縁に小切に風化	が進んで	
112 10 85 II区	土器裏3	土埋置	東	21.2	-	-	全面：褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	ハケメ	ハケメ	ハケメ		
112 11 85 II区	土器裏3	土埋置	東	23.7	22.6	8.9	全面：淡褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ	内縁部に要凹面文	内縁部に要凹面文	内縁部に要凹面文		
113 1 86 II区	土器裏1	土埋置	東	23.3	-	-	全面：褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	内縁部に要凹面文	内縁部に要凹面文	内縁部に要凹面文		
113 2 86 II区	土器裏1	土埋置	東	22.2	25.0	-	全面：褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	内面用具物束り、内縁部多	内面用具物束り、内縁部多	内面用具物束り、内縁部多		
113 3 86 II区	土器裏3	土埋置	東	18.0	25.2	-	全面：淡褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ		
114 4 86 II区	土器裏2	土埋置	東	17.6	28.0	-	外：淡黒褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ	外縁周り	外縁周り	外縁周り		
113 5 86 II区	土器裏1	土埋置	東	18.3	-	-	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ	外縁周り	外縁周り	外縁周り		
113 6 86 II区	土器裏1	土埋置	東	17.0	22.2	-	外：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ	外縁周り	外縁周り	外縁周り		
113 7 86 II区	土器裏1	土埋置	東	16.8	-	-	全面：褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ	外縁周り	外縁周り	外縁周り		
113 8 87 II区	土器裏3	土埋置	東	13.0	4.6	-	全面：灰白	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁内に流脂	
113 9 87 II区	土器裏3	土埋置	東	10.5	8.6	-	全面：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	外縁多	外縁多	外縁多		
113 10 87 II区	土器裏1	土埋置	東	10.0	(15.2)	-	外：淡黒褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ	内縁全体に灰有	内縁全体に灰有	内縁全体に灰有		
113 11 87 II区	土器裏1, 2	土埋置	東	10.8	-	-	外：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ		
113 12 86 II区	土器裏5	土埋置	東	18.4	21.0	-	全面：褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ		
116 1 88 A区	AKDD	新惠石	环	11.5	-	-	全面：灰白	ヨコナデ	ヨコナデ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ		
116 2 88 A区	AKDD	土埋置	東	-	-	-	全面：淡褐色	ケズリ	ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ		
116 3 88 A区	AKDD	土埋置	東	22.8	-	-	全面：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ		
116 4 88 A区	AKDD	土埋置	東	23.2	-	-	外：淡黒褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ		
116 5 88 A区	AKDD	土埋置	東	21.1	-	-	外：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ	ハケメ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ		
116 6 88 A区	AKDD	土埋置	東	23.6	-	-	全面：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ	内縁ナデ		

標図 番号	遺物 写真 類別	地区	出土位置	種類	器 種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色 調	内面の調査	外蓋の調査	形態・文様の特徴	備 考	
216	7	88	A区	AKDD	土器鉢	素	26.2	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ハケメ、ケズリ	ナゲ、ハケメ			
216	8	88	A区	AKDD	土器鉢	素	21.2	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ			
216	9	88	A区	AKDD	土器鉢	素	21.6	-	全面：褐色 内：褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ハケメ			
216	10	89	A区	AKDD	土器鉢	素	30.8	-	全面：淡褐色 内：褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ハケメ			
216	11	89	A区	AKDD	土器鉢	素	21.5	-	全面：褐色 内：褐色	ナゲ、ハケメ、ケズリ	ナゲ、ハケメ			
216	12	89	A区	AKDD	土器鉢	素	36.8	-	全面：淡褐色 内：褐色	ナゲ、ハケメ、ケズリ	ナゲ、ハケメ			
119	1	91	B区	土器縁り4	灰生	器	19.4	-	外：褐色 内：褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ハケメ			
119	2	91	B区	土器縁り4	灰生	器	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ケズリ、淡褐色	ナゲ、ミヤギ			
119	3	91	B区	土器縁り5	丹塗	耳	14.7	3.5	-	全面：丹塗	ヨコナデ	ヨコナデ		
119	4	90	B区	土器縁り5	丹塗	耳	14.6	(3.6)	(7.0)	全面：丹塗 内：丹塗	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ		
119	5	90	B区	土器縁り5	丹塗	耳	14.6	(3.6)	(7.0)	全面：丹塗	ヨコナデ	ヨコナデ	表面の塵が多い	
119	6	90	B区	土器縁り5	丹塗	耳	9.6	(4.6)	(6.6)	全面：丹塗 内：丹塗	ヨコナデ	ミヤギ、ケズリ	表面は灰	
119	7	90	B区	土器縁り5	丹塗	耳	7.6	-	-	全面：丹塗 内：丹塗	ミガキ、ケズリ	ミガキ、表面は灰	埋葬孔	
119	8	90	B区	土器縁り5	土器鉢	素	27.0	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、指紋状 模、ハケメ模ナメ			
119	9	91	B区	土器縁り5	土器鉢	素	25.0	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ、指紋状	ヨコナデ			
119	10	91	B区	土器縁り5	土器鉢	素	28.6	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ			
119	11	91	B区	土器縁り5	土器鉢	素	25.1	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、暗褐色	ヨコナデ、ハケメ			
119	12	91	B区	土器縁り7	須無器	耳	13.2	5.1	9.0	外：淡灰色 内：淡灰色	ヨコナデ、アゲ	ヨコナデ	底部凹凸あり	
119	13	91	B区	土器縁り7	須無器	耳	-	-	-	ヨコナデ、アゲ	ヨコナデ	ヨコナデ	底部凹凸あり	
119	14	90	B区	土器縁り6	須無器	耳	(24.2)	-	-	ヨコナデ、暗褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		
119	15	91	B区	土器縁り6	須無器	耳	(31.0)	-	-	ヨコナデ、暗褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
119	16	91	B区	土器縁り7	須無器	耳	(35.0)	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナメ	外蓋の一辺に擦付箇	
120	1	92	D区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文	網文(田波文 2系)		
120	2	92	E区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文	網文		
120	3	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ	網文	網文		
120	4	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	アゲ	網文	網文		
120	5	92	C区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	網文		
120	6	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	アゲ、網文	網文	網文(或子式?)		
120	7	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	アゲ	網文、指紋印痕	網文		
120	8	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	アゲ	網文、四波文 ナメ	網文、四波文		
120	9	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナデ	アゲ、網文、細かい 溝文、円溝文	網文		
120	10	92	A区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文、四波文	網文		
120	11	92	D区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文、四波文	網文		
120	12	92	D区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文	網文		
120	13	92	D区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文	網文		
120	14	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	ナメ、網文、刺突 ナメ	網文		
120	15	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	ナメ、網文、丁目 竹型文	網文		
120	16	92	D区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文、四波文	和光丸たる縁器文		
120	17	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文、丁目 竹型文	和光丸3または4		
120	18	92	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文、四波文	和光丸		
120	19	93	B.C区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	ナメ、網文、刺突 ナメ	和光丸		
120	20	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	網文、四波文	和光丸		
120	21	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	牛乳竹葉文、源 承	源承文	至元2	
120	22	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	源承文、丁哉井青 文	源承文	至元2	
120	23	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	源承文、牛乳竹葉 文	源承文	至元2	
120	24	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	源承文、牛乳竹葉 文	源承文	至元2	
121	1	93	I区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	源承文、半瓶行營 文	源承文	至元2	
121	2	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	源承文、半瓶行營 文	源承文	至元2	
121	3	93	C区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	源承文、半瓶行營 文	源承文	至元2	
121	4	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	熱り承、四波文	四波文	至元2	
121	5	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：褐色 内：褐色	ナメ	熱り承、半瓶行營 文	半瓶行營文	至元2	
121	6	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナメ	熱り承、半瓶行營 文	半瓶行營文	至元2	
121	7	93	B区	伝呂層	陶文	深鉢	-	-	全面：乳白色 内：乳白色	ナメ	熱り承、ナメ	熱り承	至元2	

種別	学名	品目	地区	出土位置	種類	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
124	5 98	I区	混合層	弥生	茎	(18.1)	-	-	外：淡褐色 内：白色	ナゲ、ケズリ、指 跡凹痕	ヨコナデ、ハケメ	側面に削文2列		
124	6 98	A区	混合層	弥生	茎	15.1	-	-	外：深褐色 内：白色	ナゲ、ハケメ、ケ ズリ	ナゲ、ミゼキ	側面に削文2列		
124	7 99	A区	混合層	弥生	茎	22.2	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ケズリ、ミ ゼキ	ナゲ	口縁部に2条の凹痕 側面に2条の削文		
124	8 99	A区	混合層	弥生	茎	21.4	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ケズリ、ミ ゼキ	ナゲ、ハケメ、ミ ゼキ	側面に削文		
124	9 99	D区	混合層	弥生	茎	(21.0)	-	-	全周：淡褐色	ヨコナデ、ナゲ、ケ ズリ	ヨコナデ	側面に2条の削凹 側面に削文2列		
124	10 99	A区	混合層	弥生	茎	24.0	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ハケメ、ナ ゼキ	ヨコナデ、ハケメ、ミ ゼキ	口縁部に3条の凹痕 側面に削文2列		
124	11 99		混合層	弥生	茎	(23.4)	-	-	全周：乳白色	ナゲ、ハケメ、ケズリ、ミ ゼキ	ヨコナデ、ハケメ、ミ ゼキ	側面に2条の削凹 側面に削文2列		
124	12 99	I区	混合層	弥生	茎	(21.0)	-	-	外：乳白色 内：淡黄色	ナゲ、ケズリ、後 ハタマ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に3条の凹痕 側面に削文2列		
124	13 99	A区	混合層	弥生	茎	(23.6)	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ハケメ、ケ ズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に3条の凹痕 側面に削文2列		
124	14 -		混合層	弥生	茎	9.6	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ケズリ		キザミ?		
124	15 -		混合層	弥生	茎	11.8	-	-	外：淡褐色 内：白色	ナゲ、ケズリ、ガ ガニ	ナゲ、ハケメ、ミ ゼキ	削凹に削文	外縁多く	
124	16 -	II区	混合層	弥生	茎?	9.6	-	-	全周：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に3条の凹痕 側面に削文		
125	1 100		混合層	弥生	茎	18.2	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ケズリ、ナ ゼキ	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	2 100	II区	混合層	弥生	茎	29.0	-	-	外：褐色 内：淡褐色	ナゲ、ハケメ、ケ ズリ	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	3 100	B区	混合層	弥生	茎	(24.0)	-	-	外：乳白色 内：乳白色	ナゲ、ハケメ	ヨコナデ、ナゲ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	4 100	A区	混合層	弥生	茎	27.2	-	-	全周：黑褐色	ナゲ、ハケメ	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	5 100		混合層	弥生	茎	28.6	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ミゼキ	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	6 100	A区	混合層	弥生	茎	(12.0)	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	7 100	B区	混合層	弥生	茎	23.3	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	8 100	B区	混合層	弥生	茎	(15.8)	-	-	全周：乳白色	ヨコナデ、ハテメ	ヨコナデ、ナゲ	口縁部に4条の削凹 側面に削文		
125	9 100		混合層	弥生	茎	27.6	-	-	全周：褐色	ナゲ、ハケメ、ナ ゼキ	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	10 102		混合層	弥生	茎	30.0	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ケズリ、後 ハタマ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に4条の削凹 側面に削文		
125	11 102	A区	混合層	弥生	広口茎	36.0	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ハケメ	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	12 102	II区	混合層	弥生	広口茎	22.9	-	-	外：褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナゲ	ヨコナデ	口縁部に4条の削凹 側面に削文		
125	13 102	A区	混合層	弥生	広口茎	20.3	-	-	全周：淡褐色	ヨコナデ、ナゲ	ヨコナデ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	14 102		混合層	弥生	広口茎	20.1	-	-	外：褐褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナゲ	ヨコナデ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
125	15 102	D区	混合層	弥生	広口茎	32.6	-	-	外：褐色 内：淡褐色	ハケメ	ハケメ	口縁部に4条の削凹 側面に削文		
125	16 102	II区	混合層	弥生	広口茎	20.8	-	-	全周：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に4条の削凹 側面に削文		
126	1 102	A区	混合層	弥生	広口茎	29.6	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ハケメ、長 縫状斑	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の凹痕 側面に削文		
126	2 102	I区	混合層	弥生	広口茎	36.5	-	-	全周：淡褐色	ハケメ	ハケメ	口縁部に2条の削凹 側面に削文		
126	3 102	I区	混合層	弥生	広口茎	33.6	-	-	全周：淡褐色	ナゲ、ハケメ	ナゲ、ハケメ	口縁部に3条の削凹 側面に削文		
126	4 102	C区	混合層	弥生	広口茎	46.8	-	-	全周：褐色	ナゲ	ナゲ、ハケメ	口縁部に4条の削凹 側面に削文		
126	5 102	I区	混合層	弥生	広口茎	37.6	-	-	外：淡褐色 内：深褐色	ヨコナデ	ハサメ	口縁部に4条の削凹 側面に削文		
126	6 102	D区	混合層	弥生	広口茎	-	-	-	外：淡紅褐色 内：深褐色	ハケメ	ハケメ	側面に削文	内面に深褐色	

所蔵 番号	博物 館名	写真 版型	地区	出土位置	種類	器種	口径 (cm)	基高 (cm)	基径 (cm)	色調	内面の調査	外面の調査	形態・文様の特徴	備考
126	7	102	T.K.	包金帶	糸生	広口部	-	-	-	全面：淡黄色 外：淡黄色	ナゲ、ハケメ	ハケメ、ハケメ後 ナゲ	裏部に凸縫文と条 状文	
126	8	102		包金帶	糸生	広口部	-	-	-	全面：淡黄色 内：淡黄色	ナゲ、ハケメ	ナゲ	側部に凸縫文と条 状文	
126	9	102	A区	包金帶	糸生	腹	11.8	-	-	全面：淡黄色 内：淡黄色	ナゲ	ナゲ	前面に凸縫文と条 状文にキサギ 縫文	
126	10	102		包金帶	糸生		(10.2)	-	-	全面：淡黄色 外：汗毛色 内：乳白色	ミガキ、ケズリ?	ナゲ、ミガキ	凸縫部に凸縫文を有 し、1縫部内にキサギ 縫文	
126	11	102		包金帶	糸生	裏?	-	-	-	外：汗毛色 内：乳白色	ナゲ、ハケメ	ナゲ、ハケメ	裏部に凸縫文6条	外面に側付帯
126	12	103	C区	包金帶	糸生	底	-	-	-	全面：淡黄色 外：淡黄色 内：乳白色	ナゲ、ケズリ?	ナゲ		
126	13	103		包金帶	糸生	底部	-	-	5.4	外：淡黄色 内：乳白色	ナゲ	ロコテ、 カガ		外面に側付帯
126	14	103	A区	包金帶	糸生	底部	-	-	5.8	外：淡黄色 内：乳白色	ナゲ	ミガキ		
126	15	103	A区	包金帶	糸生	脚台	-	-	7.4	全面：暗褐色 内：淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ	凸縫文2条	
126	16	103		包金帶	糸生	脚台	-	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ケズリ	ハケメ後ミガキ、 ナゲ、ミガキ	裏部に凸縫文	外縫に側付帯
126	17	103		包金帶	糸生	裏?	-	-	13.3	全周：淡褐色 内：乳白色	ミガキ	ナゲ		中央化
126	18	103		包金帶	糸生	脚台	-	-	11.8	全面：淡褐色 内：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ナゲ		前面の一部に側 付帯
126	19	103	A区	包金帶	糸生	脚台	-	-	7.2	全周：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ	ミガキ		側付帯多い
126	20	102	B区	包金帶	糸生	底口千筋	-	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ハケメ	ナゲ		
126	21	102		包金帶	糸生	底部	-	-	-	外：淡褐色 内：乳白色	ナゲ	ナゲ		
126	22	102	C区	包金帶	糸生	上脚脚台	-	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色				再利用品?
126	23	102		包金帶	糸生	上脚小玉	-	-	-	全周：淡褐色 内：淡褐色				
127	1	103	B区	包金帶	糸生	腰	17.5	-	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ	本口?による開閉	
127	2	103	A区	包金帶	糸生	腰	18.3	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ミコナゲ、ケズリ	ナゲ	キサギ・鬼頭丸文	
127	3	103	I区	包金帶	糸生	腰	17.7	-	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ミコナゲ、ケズリ	ナゲ	キサギ・板目紋	
127	4	103		包金帶	糸生	腰	-	-	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ミコナゲ、ケズリ	ナゲ		
127	5	106	A区	包金帶	壺形式	腰	30.5	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナゲ、ハケメ	ナゲ	ヨコナゲの口縫 文、側付帯6条の凸 縫文(後キサギ)	
127	6	104	A区	包金帶	糸生	腰	28.2	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ケズリ後ナ ゲ	ナゲ、ハケメ	キサギ・鬼頭丸文	
127	7	104	A区	包金帶	糸生	脚台式	腰	-	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ハケメ	ナゲ	口縫にキサギ、後3条 の凸縫文、側付帯に鳥 羽文、腹部に羽根目 文、円形容縫文	
127	8	104	B区	包金帶	糸生	脚台式	腰	-	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ハケメ、ケズリ	ナゲ、ハケメ	キサギ・後縫合4条	
127	9	104	A区	包金帶	糸生	脚台式	23.8	-	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ハケメ	ナゲ	凸縫文キサギ	
127	10	104	D区	包金帶	糸生	脚台式	腰	21.6	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ	ナゲ	キサギ・後縫合4条	
127	11	106	A区	包金帶	糸生	腰	16.6	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ミガキ、ミ ザギ	ナゲ	腰部に足付文、側 付帯6条	
127	12	104	B区	包金帶	糸生	脚台式	腰	-	-	外：淡褐色 内：乳白色	ハケメ	ナゲ、ハケメ	腰部に足付文、側 付帯6条	
127	13	105	A区	包金帶	糸生	腰	-	-	-	全周：乳白色 内：淡褐色	ハケメ	ナゲ、ハケメ	キサギ・後縫合4条 と2列、側付帯2列	
127	14	104		包金帶	糸生	脚台式	腰?	15.3	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ナゲ	腰部に足付文、側 付帯6条	
127	15	104	A区	包金帶	糸生	脚台式	腰	18.6	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ハケメ、ミ ザギ、蜜蜜打痕	ナゲ	キサギ後縫合3条、 側付帯6条に右付で ある	右付?
127	16	104	A区	包金帶	糸生	脚台式	腰	11.6	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ	口縫等に凸縫文2条、 側付帯6条に左付で ある(左付)、側付帯6 条	右付?
127	17	104	A区	包金帶	糸生	脚台式	腰	(12.0)	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ヨコナゲ、ミガ キ、	ミゼキ	口縫等にキサギ・後縫 文3条、側付帯6条に 左付、腰部に凸縫 文、側付帯6条	右付?
127	18	104	D区	包金帶	糸生	脚台式	腰	-	-	全周：淡褐色 内：淡褐色		ナゲ	口縫等に足付文2 条、側付帯6条に右付 である	
127	19	104	B区	包金帶	糸生	脚台式	腰	11.4	-	全周：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ハケメ	ミガキ	腰部に足付文、 側付帯6条	
127	20	106	I区	包金帶	糸生	脚台式	体	36.5	-	外：墨赤褐色 内：墨赤褐色	ナゲ、ハケメ	ミガキ、ハケメ	腰部に足付文、 側付帯6条	右付?
128	1	106	C区	包金帶	糸生	高环	(21.8)	-	-	全周：淡黄色 内：淡黄色	ヨコナゲ、ミガキ	ヨコナゲ、ミガキ	口縫部前面に条の 内縫文	
128	2	106	C区	包金帶	糸生	高环	20.0	-	-	全周：淡褐色 内：淡黑色	ナゲ、ハケメ後ミ ガキ	ヨコナゲ、ミガキ	口縫部前面に条の 内縫文	
128	3	106	A区	包金帶	糸生	高环	16.8	-	-	外：淡褐色 内：淡黑色	ナゲ、ハケメ、ミ ガキ	ヨコナゲ、ミガキ	口縫部前面に条の 内縫文	
128	4	106	A区	包金帶	糸生	高环	(20.8)	-	-	全周：淡褐色 内：淡黑色	ナゲ、ハケメ、ミ ガキ	ヨコナゲ、ミガキ	口縫部前面に条の 内縫文	
128	5	306		包金帶	糸生	高环	18.4	-	-	全周：淡褐色 内：淡黑色	ヨコナゲ、ミガキ	ハケメ後ミガキ	口縫部前面に条の 内縫文	

採集 番号	種類 番号	地図 番号	地区	出土位置	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色 調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備 考
128 6 106	盒	106	高含層	海生	高坏	(16.8)	-	-	外：深褐色 内：深褐色	ヨコナラ、ミガキ	荒いカギ	口部外側に3条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凹溝と2条の凸溝		
128 7 106	A区	106	高含層	海生	高坏	(23.6)	-	-	全面：淡褐色	ナダ、ハケヌ、ミ ガキ	ミガキ	口部外側に3条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝		
128 8 106	A区	106	高含層	海生	高坏	16.0	15.0	10.5	全面：淡褐色	ナダ、ミガキ？、 タヌリ、指揮状	ミガキ？ナダ	口部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝		
128 9 106	D区	106	高含層	海生	高坏	19.1	-	-	全周：淡褐色	ナダ	ナダ	口部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝		
128 10 106	A区	106	高含層	海生	高坏	(26.4)	-	-	全面：淡褐色	ヨコナラ、ハケ ヌ、ミガキ	ミガキ	口部外側に3条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝		
128 11 106	A区	106	高含層	海生	高坏	(26.4)	-	-	全周：淡褐色	ヨコナラ	ミガキ？	口部外側に3条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝		
128 12 106	A区	106	高含層	海生	高坏	25.2	-	-	全面：淡褐色	ヨコナラ、ハケヌ	ミガキ	口部外側に3条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝		
128 13 106	B区	106	高含層	海生	高坏	(24.4)	-	-	全面：淡褐色	ヨコナラ、ミガキ	ミガキ	口部外側に3条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝		
128 14 107	A区	107	高含層	海生	高坏	34.2	29.5	-	全面：明褐色	ヨコナラ、ハケヌ ミガキ？、タヌリ	ミガキ、ハケヌ、 ナダ	口部外側に3条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝		
128 15 108	A区	108	高含層	海生	高坏	-	-	-	外：淡褐色質 内：深褐色	タヌリ、波り	ミガキ	朱色の凹溝に1ヶ所		
128 16 108	A区	108	高含層	海生	高坏	-	-	-	全周：深褐色	ヨコナラ、ミガキ タヌリ、波り	ミガキ？	脚部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝と1条の横溝		
128 17 108		108	高含層	海生	高坏	-	-	-	全周：深褐色	タヌリ、波り	ミガキ	脚部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝と1条の横溝		
128 18 108	A区	108	高含層	海生	高坏	-	-	-	全周：淡褐色	タヌリ	ミガキ	脚部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝と1条の横溝		
128 19 108	C区	108	高含層	海生	高坏	-	-	-	全周：淡褐色	タヌリ	ミガキ	脚部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝と1条の横溝		
128 20 108	A区	108	高含層	海生	高坏	-	-	-	全面：淡褐色	タヌリ、波り	ミガキ	脚部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝と1条の横溝		
128 21 108	A区	108	高含層	海生	高坏	-	-	-	外：淡褐色 内：深褐色	ハケ、タヌリ、波 リ	ミガキ	脚部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝と1条の横溝		
128 22 108	A区	108	高含層	海生	高坏	-	-	-	全周：淡褐色	タヌリ、波り	ミガキ	脚部外側に2条の凹溝と2条の斜溝と、底部に2条の凸溝と1条の横溝		
129 1 109	B区	109	高含層	海生	高坏		15.7	-	全周：淡褐色	ナダ、タヌリ	ナダ？	脚部の子面に4条の凹溝と2条の斜溝		
129 2 109	A区	109	高含層	海生	高坏		20.8	-	全周：淡褐色	タヌリ	ナダ、ハサヌ	脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝		
129 3 109	A区	109	高含層	海生	高坏		14.8	-	全周：淡褐色	タヌリ	ナダ？ミガキ？	脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
129 4 109		109	高含層	海生	高坏		12.1	-	全周：淡褐色	タヌリ、ナダ	ミガキ	脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
129 5 109	A区	109	高含層	海生	高坏		11.9	-	全周：淡褐色	タヌリ、ナダ、波 リ	ミガキ？	脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
129 6 109	B区	109	高含層	海生	高坏		12.3	-	全周：淡褐色	タヌリ	ミガキ、ナダ	脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
129 7 109		109	高含層	海生	高坏		13.0	-	外：淡褐色質 内：深褐色	タヌリ、ナダ	ナダ	脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
129 8 109		109	高含層	海生	高坏		25.8	-	外：淡褐色質 内：深褐色	タヌリ、ナダ	ナダ	三連窓？、脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
129 9 109	A区	109	高含層	海生	高坏		15.8	-	全周：淡褐色	タヌリ、ナダ	ナダ	二連窓？、脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
129 10 109		109	高含層	海生	高坏		30.8	-	全周：淡褐色	タヌリ	ナダ	三連窓？、脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
129 11 109	B区	109	高含層	海生	高坏		-	-	全周：赤褐色 海生	ミガキ、タヌリ	ミガキ	脚部の子面に3条の凹溝と2条の斜溝	外側に複数溝	
130 1 111		111	高含層	海生	壳	20.8	-	-	全面：淡褐色	ヨコナラ	ナダ	口部部に凹溝3条 底部に斜溝		
130 2 111	B区	111	高含層	海生	壳	18.4	-	-	全周：淡褐色	ヨコナラ、タヌリ	ナダ	口部部に凹溝3条 底部に斜溝	外側に複数溝	
130 3 111		111	高含層	海生	壳	28.3	-	-	全面：淡褐色	タヌリ	ナダ、ハケヌ	口部部に凹溝3条 底部に斜溝	外側に複数溝	
130 4 111		111	高含層	海生	壳	13.0	-	-	外：淡褐色 内：深褐色	タヌリ、タヌリ	ナダ	口部部に凹溝3条 底部に斜溝	外側に複数溝	
130 5 111		111	高含層	海生	壳	15.6	-	-	外：淡褐色 内：深褐色	タヌリ、タヌリ	ナダ	内側に朱色		
130 6 110	B区	110	高含層	海生	壳	20.0	-	-	外：淡褐色 内：深褐色	ナダ、タヌリ	ナダ	口部部に凹溝3条 底部に斜溝	外側に複数溝	
130 7 109	B区	109	高含層	海生	壳	20.4	-	-	全周：暗褐色	ミガキ、タヌリ	ミガキ	口部部に凹溝3条 底部に斜溝	外側に複数溝	
130 8 110	C区	110	高含層	海生	壳	(25.0)	-	-	外：淡褐色 内：深褐色	タヌリ、タヌリ	タヌリ	口部部に凹溝3条 底部に斜溝	外側に複数溝	
130 9 110	B区	110	高含層	海生	壳	26.2	-	-	全周：淡褐色	タヌリ、タヌリ	タヌリ	口部部に凹溝3条 底部に斜溝	外側に複数溝	
130 10 110	C区	110	高含層	海生	壳	15.9	-	-	全周：淡褐色	タヌリ、タヌリ	タヌリ	外側に複数溝		

種類	遺物 登録 番号	写真 登録 番号	地区	出土位置	種類	部 種	口径 (cm)	高さ (cm)	絶対 (cm)	魚 漢	内部の痕跡	外面の調整	形態・文様の特徴	備 考	
130	11 110	D 区	包含層	弥生	壳	24.4	-	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ		外縁の一部に擦	
130	12 110	A 区	包含層	弥生	壳	15.8	-	-	-	全面：淡褐色 内：淡褐色	ナゲ、ケズリ、擦	ナゲ、ハケメ		外縁に擦多し	
130	13 110	-	包含層	?	-	-	-	-	-	全面：淡赤褐色 内：淡褐色	ケズリ	擦痕有り、ハケメ		包含を作ろうとしたのか？	
130	14 109	I 区	包含層	弥生	壳	-	15.8	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ケズリ	ミガキ、ナゲ			
130	15 109	B 区	包含層	弥生	壳	-	12.9	-	-	外：朱色顔料 内：暗褐色	ケズリ	ミガキ		顔料剤の付着による内部文	
130	16 109	II 区	包含層	弥生	壳	-	13.6	-	-	全面：深黒褐色	ナゲ、ケズリ			顔料剤による表面に擦痕文	
130	17 110	-	包含層	弥生	壳	22.6	-	-	-	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ケズリ強ミガキ	ハケメ		II区部に顔料は文	
130	18 109	-	包含層	弥生	壳	-	21.7	-	-	全面：淡黒褐色	ナゲ、ケズリ	ナゲ		輪廓形の下部に擦痕文	
130	19 110	-	包含層	弥生	壳	23.5	-	-	-	全面：淡褐色 内：ミガキ	ナゲ			外縁の一部に擦	
130	20 111	II 区	包含層	弥生	陶環	-	8.4	-	-	外：淡褐色 内：淡褐色	ミガキ、ナゲ	ナゲ			
130	21 111	D 区	包含層	弥生	陶環	30.1	9.8	6.1	6.1	金面：淡褐色 内：淡褐色	ミガキ	ミガキ、ミガキ			
130	22 111	B 区	包含層	弥生	陶環	21.6	-	-	-	金面：淡褐色 内：淡褐色	ミガキ	ナゲ、ミガキ		目線端部に凹面1点	
130	23 110	D 区	包含層	弥生	陶環	26.8	-	-	-	全面：淡褐色	ミガキ	ミガキ			
131	1 112	I 区	包含層	漆器部	漆耳杯	13.4	4.5	-	-	全面：灰色	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ			
131	2 112	B 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(12.6)	3.9	-	-	外：淡褐色 内：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁2条	
131	3 112	-	包含層	漆器部	漆耳杯	(14.0)	-	-	-	外：淡褐色 内：灰色	同軸ナテ	同軸ナテ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同縁2条	
131	4 112	-	包含層	漆器部	漆耳杯	(14.0)	4.6	-	-	金面：青灰色	同軸ナテ	同軸ナテ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁2条	
131	5 112	D 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(13.2)	-	-	-	外：淡褐色 内：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁3条	
131	6 112	A 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(14.0)	-	-	-	外：淡褐色 内：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁3条	
131	7 112	A C 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(13.0)	4.6	-	-	金面：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁3条、底部ヘ タケヌキ	
131	8 112	B 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(14.2)	-	-	-	金面：青灰色	同軸ナテ	同軸ナテ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁2条、茎部横 タケヌキ	
131	9 112	A 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(14.0)	4.5	-	-	外：淡褐色 内：青灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁2条、底部横 タケヌキ	
131	10 112	D 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(11.1)	4.6	-	-	金面：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁2条、底部横 タケヌキ	
131	11 112	-	包含層	漆器部	漆耳杯	13.2	4.1	-	-	金面：青灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁2条、底部横 タケヌキ	
131	12 112	D 区	包含層	漆器部	漆耳杯	13.0	3.7	-	-	金面：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁2条、底部横 タケヌキ	
131	13 112	C 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(12.6)	3.7	-	-	外：黑色 内：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内縁2条、底部横 タケヌキ	
131	14 112	-	包含層	漆器部	漆耳杯	(13.6)	4.1	-	-	外：淡褐色 内：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	蓋上部にX印	
131	15 112	A 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(14.0)	4.2	-	-	全面：灰色	同軸ナテ	同軸ナテ、ヘラ切 タケヌキ	同軸ナテ、ヘラ切 タケヌキ		
131	16 112	D 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(12.0)	4.3	-	-	全面：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ		
131	17 112	C 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(10.9)	4.1	-	-	全面：灰色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ		
131	18 112	-	包含層	漆器部	漆耳杯	(10.8)	3.7	-	-	全面：灰色	同軸ナテ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	内側全体に自然 剥離	
131	19 112	C 区	包含層	漆器部	漆耳杯	11.0	4.0	-	-	全面：灰色	同軸ナテ	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ		
131	20 112	-	包含層	漆器部	漆耳杯	11.5	-	-	-	全面：灰色	同軸ナテ	同軸ナテ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ		
131	21 112	C 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(13.0)	-	-	-	全面：青灰色	同軸ナテ	同軸ナテ	同軸ナテ、下段な ナ		
131	22 112	-	包含層	漆器部	漆耳杯	(13.2)	-	-	-	全面：淡褐色	同軸ナテ、ナラ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ		
131	23 112	A 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(13.2)	4.9	-	-	全面：灰色	同軸ナテ	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	外縁に自然剥 離	
131	24 113	B 区	包含層	漆器部	漆耳杯	-	3.2	19.2	19.2	今面：青灰色 内：青灰色	ナラ	ナラ	ナラ		
131	25 113	I 区	包含層	漆器部	漆耳杯	-	3.1	14.1	金面：漆器褐色 内：漆器褐色	ヨコナギ、ナラ タケヌキ	ナラ、ケズリ	ナラ、ケズリ	脚全体つまみ		
131	26 113	D 区	包含層	漆器部	漆耳杯	-	2.9	12.4	金面：漆器褐色 内：漆器褐色	ヨコナギ、ナラ タケヌキ	ナラ、ケズリ	ナラ、ケズリ	脚全体つまみ		
131	27 113	C 区	包含層	漆器部	漆耳杯	-	2.5	12.6	金面：漆器褐色 内：漆器褐色	ヨコナギ、ナラ タケヌキ	ヨコナギ、ナラ	ヨコナギ、ナラ	脚全体つまみ		
131	28 113	B 区	包含層	漆器部	漆耳杯	-	2.0	15.6	金面：漆器褐色 内：漆器褐色	ナラ	ナラ	ナラ	脚全体つまみ		
131	29 113	-	包含層	漆器部	漆耳杯	-	2.1	13.5	金面：漆器褐色 内：漆器褐色	ヨコナギ、ナラ タケヌキ	ナラ、ケズリ	ナラ、ケズリ	脚全体つまみ		
131	30 113	I 区	包含層	漆器部	漆耳杯	-	2.2	15.8	金面：青灰色	同軸ナテ	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	同軸ナテ、ナラ タケヌキ			
131	31 113	A 区	包含層	漆器部	漆耳杯	-	2.6	13.8	金面：漆器褐色 内：漆器褐色	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	ナラ、同軸ヘ タケヌキ、ケズリ	ナラ、同軸ヘ タケヌキ、ケズリ			
131	32 113	A 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(14.4)	4.4	-	-	全面：青灰色 内：青灰色	同軸ナテ	同軸ナテ	同軸ナテ	後部左右各切口	
131	33 113	I 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(15.6)	4.9	-	-	外：青灰色 内：青灰色	同軸ナテ	同軸ナテ	同軸ナテ	底部左右各切口	
131	34 113	A 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(12.6)	4.0	-	-	全面：青灰色	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	脚全体つまみ	
131	35 113	B 区	包含層	漆器部	漆耳杯	(16.0)	4.7	(7.6)	金面：青灰色 内：青灰色	同軸ナテ	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	脚全体つまみ		
131	36 113	A 区	包含層	漆器部	漆耳杯	12.6	3.9	8.8	金面：青灰色 内：青灰色	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	同軸ナテ、ナラ タケヌキ	同軸ナテ、同軸ヘ タケヌキ	脚全体つまみ		
131	37 113	-	包含層	漆器部	漆耳杯	(16.0)	3.9	6.2	金面：青灰色	同軸ナテ	同軸ナテ	同軸ナテ	脚全体つまみ		

埋蔵 場所 番号	遺物 番号	地区	出土位置	種類	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	色調	内部の調整	外側の調整	形態・文様の特徴	備考
131	38	113 II区	益子層	縦底器	身舟	(10.4)	3.7	6.0	全面：灰褐色	同軸ナデ、イダ	同軸ナデ、同軸ナデ		
131	39	113 II区	益子層	縦底器	身舟	17.0	6.4	-	全面：灰褐色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、ナデ		
131	49	113	益子層	縦底器	身舟	(14.6)	5.4	8.2	全面：灰褐色	同軸ナデ、イダ	同軸ナデ、同軸ナデ		
131	41	113 D区	益子層	縦底器	身舟	(12.4)	4.8	9.0	全面：灰褐色	同軸ナデ、イダ	同軸ナデ、同軸ナデ		
131	42	113	益子層	縦底器	身舟	(11.5)	4.5	8.0	全面：灰褐色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、同軸ナデ		
131	43	114 A区	益子層	縦底器	高台付舟	(15.2)	4.7	9.8	全面：灰褐色	同軸ナデ、イダ	同軸ナデ、ナデ		
131	46	114 I区	益子層	縦底器	高台付舟	13.6	4.1	9.6	全面：灰褐色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、ヘラ切り		
131	45	114 A区	益子層	縦底器	高台付舟	(12.4)	4.7	8.0	全面：灰褐色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、ナデ		
131	46	114	益子層	縦底器	芯	-	3.1	20.7	外：淡黄褐色 内：深灰色	ナデ	ナデ、ケズリ		
131	47	114 II区	益子層	縦底器	高台付舟	(18.0)	7.1	(14.0)	全面：乳白色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、ナデ	腹部に漏れ痕跡	
132	1	115 B区	益子層	縦底器	腹	(14.0)	2.2	-	外：白色 内：深灰色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、同軸ナデ		
132	2	115 I区	益子層	縦底器	腹	(16.0)	2.0	-	全面：灰褐色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、同軸ナデ		
132	3	115	益子層	縦底器	腹	(16.6)	-	-	全面：灰褐色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、同軸ナデ		
132	4	115 I区	益子層	縦底器	腹	(16.4)	-	-	全面：灰褐色	同軸ナデ	同軸ナデ、同軸ナデ		
132	5	115	益子層	縦底器	高台付舟	(18.2)	-	-	全面：灰褐色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ、同軸ナデ		
132	6	115	益子層	縦底器	高台付舟	18.6	4.1	9.9	全面：乳白色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ		
132	7	115	益子層	縦底器	高台付舟	-	-	-	全面：乳白色	同軸ナデ、ナデ	同軸ナデ		
132	8	- A区	益子層	縦底器	高台付舟	-	-	-	全面：乳白色	ナデ	表面にハラ痕あり		
132	9	116 A区	益子層	縦底器	高台付舟	-	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ	耳部	
132	10	116 A区	益子層	縦底器	高台付舟	-	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ	耳部	
132	11	115 I区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	ナデ	ナデ		
132	12	115 B区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	ナデ、ケズリ	凹凸変化あり、斜面有り		
132	13	115 A区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	外：乳白色 内：深灰色	タタキ		外側に擦付有り	
132	14	116 T区	益子層	縦底器	腹	12.8	-	-	外：乳白色 内：深灰色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ		
132	15	115	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ		
132	16	115	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ		
132	17	115	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ		
132	18	116 A区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	タタキ	タタキ		
132	19	116 D区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	タタキ	タタキ		
132	20	116 C区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	カタチ、ヘタクツリ	カタチ、ヘタクツリ		
132	21	116 B区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	全面：乳白色	タタキ	タタキ		
132	22	117 A区	益子層	縦底器	腹	(32.0)	-	10.8	外：淡黄色 内：深灰色	タタキ	タタキ、ケズリ	雲か?	
132	23	117 A区	益子層	縦底器	腹	(36.0)	-	-	外：淡黄色 内：深灰色	タタキ	タタキ		
132	24	118 B区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	外：淡黄色 内：深灰色	タタキ	タタキ	内側に擦付有り	
132	25	118 B区	益子層	縦底器	腹	38.4	-	-	外：淡黄色 内：深灰色	タタキ	タタキ	内側に擦付有り	
133	1	118 A区	益子層	縦底器	腹	18.9	-	-	全面：淡黄色	タタキ、タタキ	タタキ、タタキ	内側のあたかも張り出	
133	2	118 B区	益子層	縦底器	腹	-	-	-	外：淡黄色 内：深灰色	タタキ	タタキ	内側のあたかも張り出	
133	3	118 B区	益子層	縦底器	大口	-	-	-	全面：乳白色	タタキ	タタキ	内側のあたかも張り出	
134	1	119 A区	益子層	土師器	身舟	16.0	-	-	全面：乳白色	タタキ、ケズリ	タタキ		
134	2	119	益子層	土師器	身舟	17.6	-	-	全面：乳白色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ		
134	3	119 C区	益子層	土師器	身舟	(15.6)	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ		
134	4	119 C区	益子層	土師器	身舟	17.6	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ	外側に擦付有り	
134	5	119 A区	益子層	土師器	身舟	14.3	-	-	外：淡黄色 内：深灰色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ	外側に擦付有り	
134	6	119 A区	益子層	土師器	身舟	(22.4)	-	-	全面：淡黄色 内：深灰色	タタキ、ケズリ、ハ タケ、頭倒掛	ヨコナデ、ハタケ、ナデ		
134	7	119 A区	益子層	土師器	身舟	31.2	-	-	全面：淡黄色	タタキ、ケズリ	タタキ、ハタケ		
134	8	119 A区	益子層	土師器	身舟	31.6	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ		
134	9	119 A区	益子層	土師器	身舟	28.0	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
134	10	120 A区	益子層	土師器	身舟	28.6	-	-	外：淡黄色 内：深灰色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ		
134	11	120 I区	益子層	土師器	身舟	(25.2)	-	-	外：淡黄色 内：深灰色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ	外側に擦付有り	
134	12	120 A区	益子層	土師器	身舟	29.0	-	-	全面：淡黄色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハタケ、ナデ		
134	13	120 D区	益子層	土師器	身舟	23.0	-	-	全面：淡黄色	ナデ、ケズリ	ナデ	外側に擦付有り	
135	1	120 D区	益子層	土師器	身舟	19.8	28.7	-	全面：淡黄色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハタケ		
135	2	120 D区	益子層	土師器	身舟	(17.5	17.3	-	全面：淡黄色	ナデ、ケズリ	ナデ		
135	3	121 B区	益子層	土師器	身舟	12.6	-	-	全面：淡黄色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハタケ		
135	4	121 A区	益子層	土師器	身舟	16.5	-	-	全面：淡黄色	ナデ、ケズリ	ナデ		

種別	通号	写真番号	地図	出土地位置	種類	器種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	色 調	内面の調整	外観の調整	形態・文様の特徴	備考
135	5	121		匂衣帯	土器群	甌	7.6	—	—	外：栗褐色 内：赤褐色	ナデ、ケズリ、ケズリ強テナ	ナデ		
135	6	121	A区	匂衣帯	土器群	甌	25.0	22.6	—	全面：褐色	ナデ、ケズリ、ケズリ強テナ	ナデ		
135	7	121	A区	匂衣帯	土器群	甌	23.4	—	—	外：栗褐色 内：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
135	8	121	A区	匂衣帯	土器群	甌	22.6	—	—	外：栗褐色 内：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケヌ		
135	9	121	D区	匂衣帯	土器群	甌	24.4	23.3	—	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケヌ		
136	1	122		匂衣帯	土器群	土器群	—	—	—	全面：淡褐色	ナデ	ナデ		
136	2	122	A区	匂衣帯	土器群	土器群	—	—	—	全面：淡褐色	ナデ	ナデ		
136	3	122		匂衣帯	土器群	土器群	—	—	—	全面：淡褐色	ナデ	ナデ		
136	4	122	D区	匂衣帯	土器群	甌	—	—	—	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケヌ		
136	5	123		匂衣帯	土器群	甌	—	—	—	全面：淡褐色	ナデ	ナデ		
136	6	123	B区	匂衣帯	土器群	甌	—	—	—	全面：淡褐色	ナデ	ナデ		
136	7	127	D区	匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：乳白色	ナデ	ナデ		
136	8	127		匂衣帯	白磁	合子	3.6	1.8	2.9	全面：淡青白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	9	127		匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：乳白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	10	127	A区	匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：淡青白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	11	127		匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：淡青白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	12	127		匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：淡青白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	13	127	B区	匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：淡青白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	14	127	D区	匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：乳白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	15	127		匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：乳白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	16	127	D区	匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：乳白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
136	17	127		匂衣帯	白磁	甌	—	—	—	全面：乳白色	ナデ	ナデ	縦目模	縦目模
137	1	123	A区	匂衣帯	手づく	(4.0)	4.2	—	—	外：淡青褐色 内：淡青色	ナデ	ナデ	指紋压痕、シグリ	指紋压痕
137	2	124		匂衣帯	手づく	手づく	4.0	3.6	—	全面：淡褐色	ナデ	ナデ	指紋压痕、ナデ	指紋压痕
137	3	124		匂衣帯	手づく	手づく	6.1	3.4	—	全面：淡灰黑色	ナデ	ナデ	指紋压痕、ナデ	指紋压痕
137	4	124		匂衣帯	手づく	手づく	9.3	5.3	—	外：淡褐色 内：淡青色	ナデ	ナデ	指紋压痕、ナデ	指紋压痕
137	5	124		匂衣帯	手づく	手づく	10.6	5.3	—	全面：淡褐色	ナデ	ナデ	指紋压痕、ナデ	指紋压痕
137	6	122		匂衣帯	手づく	手づく	—	—	—	全面：淡青褐色	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ		
137	7	123		匂衣帯	手づく	手づく	(14.4)	—	—	全面：淡褐色	ナデ	ナデ	指紋压痕、ナデ	指紋压痕
137	8	123	A区	匂衣帯	手づく	手づく	12.6	—	—	外：淡褐色 内：淡青褐色	ナデ	ナデ	指紋压痕、ナデ	指紋压痕
137	9	123		匂衣帯	手づく	手づく	(12.2)	—	—	全面：淡青褐色	ナコナデ	ナコナデ	ヨコナデ、指紋压痕	ヨコナデ、指紋压痕
137	10	123	B区	匂衣帯	手づく	手づく	17.2	2.9	—	全面：淡青褐色	ナデ	ナデ	ヨコナデ、指紋压痕	ヨコナデ、指紋压痕
137	11	124	C区	匂衣帯	手づく	手づく	20.0	2.8	—	全面：淡青褐色	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ、ハメ	ヨコナデ、ケズリ、ハメ
137	12	123		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	(23.2)	—	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ		
137	13	123	A区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
137	14	124	A区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	15.8	3.8	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
137	15	124		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	16.0	3.6	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
137	16	124	A区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	15.0	3.5	—	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ		
137	17	123	B区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	16.4	2.7	—	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ		
137	18	124		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	13.8	2.4	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ強テナ	ヨコナデ、ケズリ強テナ
137	19	124	B区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	14.6	3.1	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ強テナ、ミガキ	ヨコナデ、ケズリ強テナ、ミガキ
137	20	123	A区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	14.0	3.4	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ
137	21	123	B区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ
137	22	123	A区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ
137	23	123	A区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ
137	24	123	B区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ
137	25	123		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ
137	26	123	B区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	14.0	—	—	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ		
137	27	123	B区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	17.0	4.9	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ
137	28	123	B区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	13.0	3.6	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ強テナ	ヨコナデ、ケズリ強テナ
137	29	123		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	12.0	4.2	8.4	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ		
137	30	124	A区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	(10.7)	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
137	31	123		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	(12.4)	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ
137	32	122	B区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	(11.8)	—	—	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ
137	33	124		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	12.2	4.4	—	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、性 状	ヨコナデ、性 状
137	34	124	D区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	12.5	3.9	8.0	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
137	35	124	D区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	(12.4)	3.6	—	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
137	36	124	C区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	10.8	3.4	7.60	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
137	37	124		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	(15.2)	3.5	15.01	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
137	38	124		匂衣帯	丹塗り	丹塗り	(16.0)	3.4	—	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
137	39	124	I区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	12.2	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	複数状の虹文	複数状の虹文
137	40	124	II区	匂衣帯	丹塗り	丹塗り	—	—	(15.0)	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	複数状の暗文	複数状の暗文

表14 塙ノ内遺跡遺構出土石器、鉄器観察表

検査番号	測定番号	写真図版番号	台帳番号	種別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
26	17	20	1	石鏃	SI01中央穴	2.10	1.99	0.35	1.09	黒曜石	平基無茎石鏃(現身)分析 No.80580
45	9	32	2	剥片	SI13	3.50	5.37	1.17	17.48	瑪瑙	熱を受けた可能性がある
54	25	39	3	環状石斧	遺構2	7.63 (4.28)	2.22	0.70	—	—	1/2残存
45	8	32	1	錫造鉄斧	SI13	4.40	6.40	1.20	—	基部の一部を欠損	—

表15 塙ノ内遺跡出土剥片石器観察表

検査番号	遺物番号	写真図版番号	台帳番号	種別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
139	1	127	1	石鏃	C区	2.08	1.32	0.30	0.62	黒曜石	有段凹基無茎石鏃
139	2	127	2	石鏃	B区	1.79	1.67	0.36	0.87	黒曜石	凹基無茎石鏃(現身)
			3	石鏃	B区	1.68	1.70	0.27	0.58	黒曜石	凹基無茎石鏃(現身)
			4	石鏃	C区	1.79	1.84	0.24	0.50	黒曜石	凹基無茎石鏃(現身)
			5	石鏃	D区	1.98	1.62	0.47	0.99	黒曜石	凹基無茎石鏃(現身)
139	3	127	6	石鏃	C区	2.34	1.33	0.27	0.60	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)
139	6	127	7	石鏃	B区	2.90	1.96	0.55	1.87	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)分析 No.80578
			8	石鏃	D区	1.82	1.35	0.28	0.51	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)
			9	石鏃	D区	2.05	2.24	0.52	1.50	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)
			10	石鏃	—	1.92	1.33	0.32	0.57	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)
			11	石鏃	D区	1.39	1.63	0.32	0.60	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)
			12	石鏃	B区	2.47	1.85	0.47	1.21	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)
			13	石鏃	C区	1.71	1.21	0.26	0.37	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)
139	4	127	14	石鏃	II区	1.65	1.39	0.11	0.26	安山岩	平基石鏃(短身)
			15	石鏃	D区	2.31	1.71	0.33	1.68	安山岩	平基石鏃(短身)
			16	石鏃	D区	2.69	1.47	0.20	0.67	安山岩	平基石鏃(短身)
			17	石鏃	II区	2.07	1.46	0.32	0.91	安山岩	平基石鏃(短身)
			18	石鏃	B・C区	1.87	1.27	0.15	0.44	安山岩	凹基無茎石鏃(短身)
			19	石鏃	D区	2.00	1.65	0.16	0.63	安山岩	凹基無茎石鏃(短身)
			20	石鏃	C区	1.85	1.75	0.26	0.57	安山岩	凹基無茎石鏃(短身)
139	5	127	21	石鏃	D区	2.20	1.54	0.28	0.95	安山岩	凹基無茎石鏃(短身)分析 No.80577
			22	石鏃	D区	2.57	1.48	0.23	0.88	安山岩	凹基無茎石鏃(長身)
			23	石鏃	II区	1.91	1.40	0.22	0.48	安山岩	凹基無茎石鏃(長身)
			24	石鏃	I区	1.73	1.48	0.32	0.57	安山岩	凹基無茎石鏃(長身)
			25	石鏃	D区	2.12	1.52	0.32	0.79	安山岩	凹基無茎石鏃(長身)
			26	石鏃	D区	2.27	1.71	0.53	2.06	安山岩	凹基無茎石鏃(長身)
			27	石鏃	C区	2.39	1.53	0.26	0.80	安山岩	凹基無茎石鏃(長身)
			28	石鏃	II区	2.01	1.25	0.27	0.79	安山岩	凹基石鏃(未製品)
139	7	127	29	石鏃	D区	2.93	2.11	0.54	1.50	チャート	有段凹基無茎石鏃分析 No.80579
139	8	127	30	磨製石頭	D区	2.90	1.88	0.29	1.85	チャート	凹基無茎石頭(長身)
			31	磨製石頭	II区	2.31	1.83	0.21	1.06	チャート	凹基無茎石頭(長身)
			32	磨製石頭	I区	1.95	1.49	0.20	0.67	安山岩	凹基無茎石頭(長身)
			33	磨製石頭	D区	2.10	1.48	0.24	0.92	安山岩	凹基無茎石頭(長身)
139	13	126	34	スクレイパー	C区	7.65	3.40	0.99	26.33	黒曜石	分析 No.80581
139	10	126	35	スクレイパー	I区	4.15	6.90	0.64	21.08	安山岩	分析 No.80583
			36	スクレイバー	A区	2.67	3.75	0.54	7.06	安山岩	—
139	11	126	37	石匙	D区	6.34	6.33	0.71	31.98	安山岩	分析 No.80582
139	12	126	38	石匙	B区	3.59	4.93	0.47	8.55	安山岩	—
			39	石匙	D区	7.26	4.31	0.87	23.17	安山岩	—
			40	石匙	—	6.82	3.13	0.73	13.65	安山岩	—
			41	石匙	B区	3.18	5.42	0.85	18.73	安山岩	—
139	9	126	42	抉扒耳飾り	C区	3.40 (1.70)	0.46	4.98	—	—	变成岩石石材
139	14	126	43	石包丁	II区	12.63	5.65	0.54	55.82	—	未製品
139	15	126	44	石包丁	B区	5.94	4.80	0.36	16.17	—	刃部再生品か?
			45	石包丁	—	3.19	3.49	0.30	11.15	安山岩	破片
139	16	126	46	石包丁状石製品	II区	9.03	4.37	0.74	42.55	安山岩	—

表16 垣内遺跡出土二次加工剥片、剥片観察表

標印番号	遺物番号	布員台帳番号	種別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	辨認番号	遺物番号	写真番号	台帳番号	種別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材
	47		二次加工剥片	...	1.86	1.22	0.21	0.71	黒曜石			101	剥片	C区	2.04	1.57	0.50	1.55	黒曜石	
	48		二次加工剥片	B区	4.61	2.02	1.74	17.19	黒曜石			102	剥片	C区	2.12	1.25	0.77	2.13	黒曜石	
	49		二次加工剥片	SIS5	1.69	1.25	0.27	0.61	黒曜石			103	剥片	C区	1.67	1.21	0.22	0.34	黒曜石	
	50		二次加工剥片	B区	2.33	1.64	0.77	3.07	黒曜石			104	剥片	C区	2.40	1.22	0.25	0.60	黒曜石	
	51		二次加工剥片	C区	2.38	1.41	0.48	1.56	黒曜石			105	剥片	C区	2.55	1.91	0.36	1.59	黒曜石	
	52		二次加工剥片	C区	2.64	1.82	0.63	3.00	黒曜石			106	剥片	C区	2.11	1.22	0.77	1.81	黒曜石	
	53		二次加工剥片	D区	1.87	1.43	0.46	1.21	黒曜石			107	剥片	C区	1.28	0.91	0.39	0.30	黒曜石	
	54		二次加工剥片	D区	3.01	1.71	1.29	5.61	黒曜石			108	剥片	C区	3.46	2.37	0.56	2.95	黒曜石	
	55		二次加工剥片	D区	1.36	1.51	0.36	0.91	黒曜石			109	剥片	C区	2.76	1.65	0.52	2.43	黒曜石	
	56		二次加工剥片	II区	7.31	5.12	1.25	36.39	安山岩			110	剥片	C区	2.64	1.36	0.53	1.99	三疊岩	
	57		二次加工剥片	D区	6.53	2.58	0.80	16.82	安山岩			111	剥片	C区	1.63	0.50	0.18	0.18	黒曜石	
	58		二次加工剥片	D区	2.94	1.97	0.31	2.53	安山岩			112	剥片	C区	2.24	1.69	0.45	0.92	黒曜石	
	59		剥片	I区	3.11	2.93	1.06	8.29	黒曜石			113	剥片	C区	2.11	1.50	0.63	1.61	黒曜石	
	60		剥片	I区	1.72	1.21	0.26	0.56	黒曜石			114	剥片	C区	2.68	2.29	0.82	4.77	黒曜石	
	61		剥片	II区	2.53	1.96	0.12	0.90	黒曜石			115	剥片	C区	2.71	2.21	0.68	2.13	黒曜石	
	62		剥片	II区	2.53	1.60	0.56	1.23	黒曜石			116	剥片	C区	3.26	1.23	0.66	2.32	黒曜石	
	63		剥片	S106	1.62	1.78	0.42	0.61	黒曜石			117	剥片	C区	1.44	0.89	0.49	0.67	黒曜石	
	64		剥片	A区	1.12	0.93	0.18	0.13	黒曜石			118	剥片	C区	1.40	0.84	0.15	0.20	黒曜石	
	65		剥片	B区	1.08	0.96	0.31	0.27	黒曜石			119	剥片	C区	0.73	0.72	0.14	0.06	黒曜石	
	66		剥片	B区	2.79	2.05	0.39	3.15	黒曜石			120	剥片	D区	3.39	2.38	0.79	6.41	黒曜石	
	67		剥片	B区	3.03	2.17	0.39	1.80	黒曜石			121	剥片	D区	2.56	1.63	0.44	2.16	黒曜石	
	68		剥片	B区	2.32	1.32	0.27	0.97	黒曜石			122	剥片	D区	1.99	1.60	0.51	1.38	黒曜石	
	69		剥片	B区	3.78	2.29	0.26	4.41	黒曜石			123	剥片	D区	1.75	1.07	0.38	0.72	黒曜石	
	70		剥片	B区	1.06	0.79	0.27	0.22	黒曜石			124	剥片	D区	1.26	1.12	0.16	0.20	黒曜石	
	71		剥片	B区	1.71	1.46	0.46	0.86	黒曜石			125	剥片	D区	0.85	0.77	0.13	0.11	黒曜石	
	72		剥片	B区	2.81	1.73	0.56	2.66	黒曜石			126	剥片	D区	1.72	0.93	0.29	0.42	黒曜石	
	73		剥片	B区	1.64	1.40	0.30	0.63	黒曜石			127	剥片	D区	1.62	1.39	0.35	0.61	黒曜石	
	74		剥片	B区	3.81	1.99	0.84	3.33	黒曜石			128	剥片	D区	1.15	0.66	0.14	0.13	黒曜石	
	75		剥片	B区	2.66	2.05	1.12	6.33	黒曜石			129	剥片	D区	2.47	2.12	0.41	2.16	黒曜石	
	76		剥片	B区	2.79	2.07	0.26	4.50	黒曜石			130	剥片	D区	1.66	1.61	0.47	1.45	黒曜石	
	77		剥片	B区	2.63	1.46	0.70	2.27	黒曜石			131	剥片	D区	1.10	0.83	0.13	0.15	黒曜石	
	78		剥片	B区	2.36	1.38	0.56	1.35	黒曜石			132	剥片	D区	1.98	1.82	0.36	2.47	黒曜石	
	79		剥片	B区	3.37	1.69	1.06	3.37	黒曜石			133	剥片	D区	2.83	1.80	0.57	1.92	黒曜石	
	80		剥片	B区	3.33	1.36	0.69	3.33	黒曜石			134	剥片	D区	1.47	0.69	0.44	0.46	黒曜石	
	81		剥片	B区	2.82	2.02	0.65	2.44	黒曜石			135	剥片	D区	2.78	2.32	0.25	1.39	黒曜石	
	82		剥片	B区	2.25	1.88	0.26	1.19	黒曜石			136	剥片	D区	2.26	1.42	0.44	1.44	黒曜石	
	83		剥片	B区	1.92	1.33	0.61	0.98	黒曜石			137	剥片	D区	3.52	2.33	1.39	7.90	黒曜石	
	84		剥片	B区	1.72	1.17	0.28	0.45	黒曜石			138	剥片	D区	1.15	0.62	0.09	0.09	黒曜石	
	85		剥片	B区	2.92	1.47	0.39	2.81	黒曜石			139	剥片	D区	2.60	2.06	0.93	4.52	黒曜石	
	86		剥片	B区	5.93	1.99	1.24	17.21	黒曜石			140	剥片	D区	1.49	1.34	0.39	5.59	黒曜石	
	87		剥片	B区	2.68	1.68	0.71	3.50	黒曜石			141	剥片	D区	1.68	0.90	0.27	0.39	黒曜石	
	88		剥片	B-C区	3.38	2.15	0.57	2.75	黒曜石			142	剥片	D区	2.59	1.24	0.90	2.77	黒曜石	
	89		剥片	B-C区	2.28	1.58	1.13	2.68	黒曜石			143	剥片	D区	2.11	1.96	0.57	1.42	黒曜石	
	90		剥片	B-C区	2.26	1.04	0.36	0.81	黒曜石			144	剥片	D区	3.32	1.23	0.59	2.01	黒曜石	
	91		剥片	B-C区	2.22	1.47	0.25	0.69	黒曜石			145	剥片	D区	2.08	1.23	0.41	0.89	黒曜石	
	92		剥片	B-C区	1.46	1.10	0.36	0.42	黒曜石			146	剥片	D区	2.13	1.33	0.34	2.37	黒曜石	
	93		剥片	B-C区	1.38	0.87	0.08	0.14	黒曜石			147	剥片	D区	1.61	1.19	0.11	0.25	黒曜石	
	94		剥片	C区	3.76	1.87	1.25	7.49	黒曜石			148	剥片	D区	1.06	0.87	0.12	0.12	黒曜石	
	95		剥片	C区	2.84	1.22	0.45	1.34	黒曜石			149	剥片	D区	2.39	1.45	0.74	2.67	黒曜石	
	96		剥片	C区	2.69	1.23	0.71	2.40	黒曜石			150	剥片	D区	0.74	0.72	0.14	0.11	黒曜石	
	97		剥片	C区	1.80	1.47	0.21	0.56	黒曜石			151	剥片	D区	2.04	1.07	0.34	0.47	黒曜石	
	98		剥片	C区	2.27	1.38	0.48	1.43	黒曜石			152	剥片	D区	1.96	1.33	0.40	0.83	黒曜石	
	99		剥片	C区	2.28	1.57	0.70	1.54	黒曜石			153	剥片	D区	2.27	1.54	0.28	1.05	黒曜石	
	100		剥片	C区	1.89	2.34	0.75	1.96	黒曜石			154	剥片	D区	1.80	0.90	0.37	0.68	黒曜石	

標図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	種別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	写真図版番号	台帳番号	種別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材
	155	剥片	D区	3.10	2.38	0.72	6.22	黑曜石			178	剥片	B区	1.81	1.61	0.16	0.39	安山岩	
	156	剥片	D区	2.46	1.17	0.53	0.94	黑曜石			179	剥片	B区	3.21	1.93	0.62	3.68	安山岩	
	157	剥片	D区	1.53	1.39	0.39	0.76	黑曜石			180	剥片	B-C区	2.59	2.11	0.57	2.41	安山岩	
	158	剥片	D区	2.33	1.54	0.34	0.82	黑曜石			181	剥片	B-C区	2.46	1.66	0.68	2.18	安山岩	
	159	剥片	D区	1.83	0.94	0.72	1.12	黑曜石			182	剥片	B-C区	2.22	1.33	0.42	1.17	安山岩	
	160	剥片	D区	3.01	2.63	0.38	2.29	黑曜石			183	剥片	B-C区	2.28	1.63	0.37	1.19	安山岩	
	161	剥片	D区	1.84	1.24	0.46	0.73	黑曜石			184	剥片	D区	4.21	1.68	0.41	3.51	安山岩	
	162	剥片	D区	2.39	1.34	0.42	1.44	黑曜石			185	剥片	D区	2.04	1.71	0.26	0.76	安山岩	
	163	剥片	D区	1.27	0.91	0.23	0.28	黑曜石			186	剥片	D区	2.90	2.04	0.48	2.28	安山岩	
	164	剥片	D区	1.66	1.32	0.75	1.19	黑曜石			187	剥片	C区	3.09	1.29	0.35	1.44	安山岩	
	165	剥片	D区	1.53	1.30	0.15	0.25	黑曜石			188	剥片	B区	1.72	1.02	0.96	1.03	水晶	
	166	剥片	D区	1.15	0.60	0.32	0.25	黑曜石			189	剥片	C区	2.50	1.61	0.40	2.28	水晶	
	167	剥片	トレンチ	2.84	2.69	0.92	5.38	黑曜石			190	剥片	D区	2.87	2.00	1.65	9.86	水晶	
	168	剥片	-	2.22	0.97	0.33	1.03	黑曜石			191	剥片	D区	3.19	1.86	1.70	11.57	水晶	
	169	剥片	-	2.03	1.58	0.30	0.67	黑曜石			192	剥片	D区	2.62	1.72	1.06	6.31	水晶	
	170	剥片	加工段2	1.69	1.22	0.51	0.87	黑曜石			193	剥片	D区	2.10	1.68	0.67	2.26	水晶	
	171	剥片	加工段2	1.19	0.60	0.07	0.08	黑曜石			194	剥片	D区	5.31	2.91	1.84	22.89	水晶	
	172	剥片	C区	1.80	0.36	0.17	0.26	安山岩			195	剥片	D区	1.91	1.84	0.71	1.76	水晶	
	173	剥片	S106	4.87	2.64	0.32	5.47	安山岩			196	剥片	-	4.31	2.13	1.24	22.28	水晶	
	174	剥片	A区	2.48	1.97	0.35	1.44	安山岩			197	剥片	-	4.30	2.20	1.19	12.96	水晶	
	175	剥片	B区	4.75	4.02	0.49	7.22	安山岩			198	剥片	-	2.50	1.97	0.99	3.71	水晶	
	176	剥片	B区	4.42	4.77	0.38	3.28	安山岩			199	剥片	-	2.31	1.32	0.48	1.82	水晶	
	177	剥片	B区	3.58	1.35	0.48	2.49	安山岩			200	剥片	-	2.69	1.92	0.92	4.45	夏岩	

表17 塙ノ内遺跡出土石斧類觀察表

標図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	種別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
138	1	125	193	磨製石斧	A区	12.89	5.25	4.37	443	緑色片岩	繩文 乳棒状石斧
138	3	125	194	磨製石斧	表探	12.46	4.91	1.78	147	緑色片岩	弥生 太形蛤刃石斧
138	4	125	195	磨製石斧	A区	12.17	5.68	3.74	474	-	弥生 太形蛤刃石斧
138	5	125	196	磨製石斧	B区	12.83	6.62	3.89	604	玄武岩	弥生 太形蛤刃石斧
138	6	125	197	磨製石斧	B区	8.39	4.23	1.72	91	緑色片岩	弥生 太形蛤刃石斧
			198	磨製石斧	D区	13.34	5.90	4.25	615	緑色片岩	弥生 太形蛤刃石斧
			199	磨製石斧	I区	7.93	4.91	3.12	176	緑色片岩	繩文 No.55 乳棒状石斧
			200	磨製石斧	D区	7.95	3.62	1.50	51	-	弥生 再利用品
			201	磨製石斧	II区	(6.47)	5.70	3.92	254	玄武岩	弥生 No.53 太形蛤刃石斧片
138	2	125	202	磨製石斧	A区	8.51	5.31	3.75	299	緑色片岩	楔狀用品
			203	楔		6.03	4.87	2.49	85	-	No.29

表18 塙ノ内遺跡出土石砧觀察表

標図番号	写真図版	遺物番号	台帳番号	種別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
		204	砥石	II区	10.65	3.30	3.42	194	-	No.57	
		205	砥石	I区	7.35	2.26	1.77	46	-	No.87	
		206	砥石	B区	5.15	2.69	0.98	27	-	No.8	
		207	砥石	II区	7.13	6.12	0.90	39	-		
		208	砥石	II区	9.42	3.86	3.18	185	-	No.56	
		209	砥石	II区	3.89	1.98	1.48	17	-	No.58	

表19 埠内流れ出土石錐観察表

探査 番号	遺物 番号	写真 記載版	No.	種別	形態	調査区	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	神田 番号	遺物 番号	写真 記載版	No.	種別	形態	調査区	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
138	9	125	1	石錐	2	D区	6.07	3.98	1.35	64	83	石錐	4	B区	8.51	5.16	2.31	145			
	2	石錐	1	D区	6.43	4.87	2.33	98	84	石錐	1	B区	6.21	4.72	1.24	60					
	3	石錐	1	D区	6.32	5.33	2.05	106	138	13	125	85	石錐	1	B区	5.37	4.62	2.03	75		
	4	石錐	1	D区	6.66	5.73	2.59	127	86	石錐	1	B区	6.91	4.40	1.75	80					
	5	石錐	1	D区	7.00	3.94	2.27	125	87	石錐	1	B区	6.49	4.75	1.88	102					
	6	石錐	1	D区	9.38	5.360	1.92	163	88	石錐	1	B区	5.36	5.00	1.78	65					
	7	石錐	4	A区	5.42	6.29	2.30	140	89	石錐	1	B区	5.52	3.25	1.28	40					
	8	石錐	4	—	7.03	6.03	1.51	100	90	石錐	1	B区	6.40	5.35	1.98	105					
	9	石錐	1	—	9.36	4.12	1.09	64	91	石錐	1	B区	8.20	5.81	2.15	155					
138	10	125	10	石錐	1	D区	6.25	5.40	1.51	85	92	石錐	1	B区	7.76	5.20	2.08	115			
	11	石錐	1	B区	6.33	4.47	1.65	72	138	15	125	93	石錐	1	B区	6.48	5.00	1.76	90		
	12	石錐	4	C区	4.85	5.11	1.80	66	94	石錐	1	B区	5.06	5.69	1.75	80					
	13	石錐	1	B区	5.66	4.01	1.41	69	95	石錐	4	B区	7.40	4.17	1.59	80					
	14	石錐	2	—	6.08	5.17	1.28	60	96	石錐	1	B区	5.08	4.74	2.00	80					
	15	石錐	4	—	6.36	5.61	1.93	139	97	石錐	1	B区	5.80	4.47	1.06	45					
	16	石錐	2	B区	10.07	4.08	2.60	167	98	石錐	1	C区	12.31	8.27	2.39	350					
	17	石錐	1	B区	6.20	4.36	2.51	100	99	石錐	1	C区	6.92	4.31	1.63	75					
	18	石錐	4	B区	7.17	5.75	2.04	144	100	石錐	1	C区	7.43	6.89	1.56	130					
	19	石錐	1	C区	9.32	6.95	2.67	275	138	16	125	101	石錐	1	C区	5.99	4.25	1.36	60		
	20	石錐	1	C区	7.00	3.79	1.93	70	102	石錐	1	C区	6.81	5.40	1.91	95					
	21	石錐	1	C区	5.78	5.20	2.02	92	103	石錐	1	C区	7.34	5.26	2.03	100					
	22	石錐	1	C区	5.65	4.61	1.81	85	104	石錐	1	C区	5.96	4.56	1.86	75					
	23	石錐	1	B区	7.63	2.01	2.02	170	105	石錐	1	C区	4.72	3.96	6.5	40					
	24	石錐	1	B区	7.40	5.60	2.72	147	106	石錐	1	C区	7.42	5.31	1.86	110					
	25	石錐	4	B区	6.50	6.92	2.09	136	107	石錐	1	C区	6.06	4.71	1.69	75					
138	7	125	26	石錐	3	C区	7.25	5.20	4.89	264	108	石錐	1	C区	5.62	4.25	1.94	65			
138	8	125	27	石錐	3	D区	7.03	5.94	5.19	352	109	石錐	1	C区	5.84	4.87	2.50	55			
	28	石錐	4	C区	6.85	5.84	4.67	215	110	石錐	1	C区	5.09	3.79	1.54	55					
	29	石錐	1	B区	9.10	5.35	2.82	220	111	石錐	2	I区	3.20	4.55	1.15	25					
	30	石錐	1	B区	9.36	6.02	2.61	200	112	石錐	2	I区	4.08	5.78	1.03	25					
	31	石錐	1	B区	7.68	3.07	2.02	135	113	石錐	2	I区	6.64	3.86	1.74	70					
	32	石錐	1	B区	7.08	3.71	2.77	125	114	石錐	2	I区	6.01	7.02	1.34	90					
	33	石錐	1	B区	7.09	4.46	2.05	100	115	石錐	2	I区	10.29	7.46	2.00	225					
	34	石錐	1	B区	7.30	4.79	1.82	95	116	石錐	1	I区	5.68	4.86	1.88	75					
	35	石錐	1	B区	7.65	5.28	1.51	85	117	石錐	4	I区	7.05	7.90	1.97	100					
	36	石錐	1	B区	8.12	4.88	2.98	125	118	石錐	1	I区	7.44	5.18	2.61	150					
	37	石錐	4	D区	6.12	6.64	2.21	115	119	石錐	2	I区	3.08	2.96	1.17	10					
	38	石錐	1	B区	7.35	5.82	2.91	146	120	石錐	2	I区	9.23	7.26	1.70	205					
	39	石錐	1	B区	8.35	6.16	1.51	125	121	石錐	2	I区	12.00	6.80	2.58	345					
	40	石錐	1	B区	7.32	4.68	1.90	110	122	石錐	4	B区	5.29	6.01	1.22	30					
	41	石錐	1	B区	8.70	6.91	1.89	125	123	石錐	2	A区	6.37	4.65	1.61	85					
	42	石錐	1	B区	9.21	4.31	2.41	340	124	石錐	2	B区	5.00	4.68	2.08	70					
	43	石錐	1	B区	6.78	5.51	2.04	80	125	石錐	2	B区	5.61	6.24	1.60	90					
	44	石錐	4	D区	7.30	5.67	1.96	135	126	石錐	1	D区	7.62	6.90	3.07	250					
	45	石錐	1	B区	6.41	6.08	2.30	120	127	石錐	2	I区	8.35	4.21	2.75	155					
	46	石錐	1	B区	5.71	4.57	1.70	70	128	石錐	2	A区	6.63	4.28	1.86	84					
	47	石錐	1	B区	6.63	5.35	2.50	110	129	石錐	1	—	8.00	6.45	1.91	161					
138	11	125	48	石錐	1	B区	6.17	5.12	1.63	85											
	49	石錐	1	B区	6.68	5.13	2.31	130													
	50	石錐	1	B区	7.68	4.16	1.51	80													
	51	石錐	1	B区	6.93	5.79	1.48	80													
	52	石錐	1	B区	5.65	5.64	2.05	130													
	53	石錐	1	B区	6.74	4.32	1.70	75													
	54	石錐	1	B区	6.17	3.37	1.57	55													
	55	石錐	1	B区	5.45	4.11	1.78	60													
	56	石錐	1	B区	7.08	4.98	2.14	100													
	57	石錐	1	B区	7.81	5.49	1.94	115													
	58	石錐	1	B区	5.28	5.34	1.30	75													
	59	石錐	1	B区	6.10	5.27	1.97	85													
	60	石錐	1	B区	5.27	4.28	1.32	53													
	61	石錐	1	B区	5.79	4.99	1.82	90													
	62	石錐	1	B区	6.02	4.63	1.06	65													
	63	石錐	1	B区	7.08	5.89	1.91	95													
	64	石錐	4	B区	5.64	4.77	1.36	50													
	65	石錐	4	B区	7.27	6.14	1.26	95													
	66	石錐	1	B区	6.99	5.58	2.70	100													
	67	石錐	1	B区	8.31	6.31	2.59	210													
	68	石錐	1	B区	6.23	5.87	2.48	125													
	69	石錐	1	B区	6.80	5.58	1.93	120													
	70	石錐	1	B区	7.54	4.74	1.98	95													
	71	石錐	1	B区	6.41	5.89	1.75	110													
	72	石錐	1	B区	6.68	3.67	1.78	85													
	73	石錐	1	B区	7.27	4.46	2.06	115													
	74	石錐	4	B区	5.14	5.53	2.45	45													
	75	石錐	1	B区	6.78	4.09	1.61	55													
	76	石錐	2	B区	5.42	5.25	1.91	65													
	77	石錐	2	B区	5.91	5.95	2.35	100													
	78	石錐	1	B区	6.73	6.00	2.02	120													
	79	石錐	1	B区	7.67	5.95	1.96	125													
	80	石錐	1	B区	6.02	5.31	1.66	85													
	81	石錐	1	B区	5.94	4.64	1.50	80													
	82	石錐	4	B区	5.80	5.29	2.05	72													

形態確立例

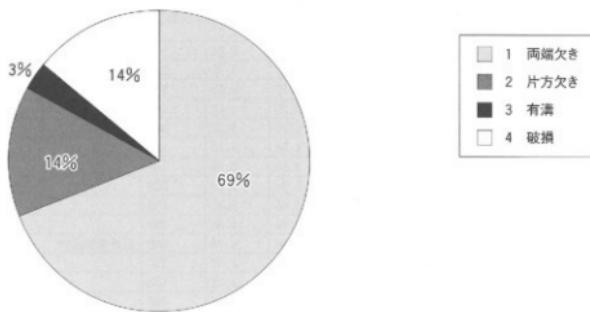
1. 南端丸型

2. 片方丸型

3. 有溝

4. 縦槽

グラフ3 堀ノ内遺跡出土石錘形態別割合



グラフ4 堀ノ内遺跡出土石錘重量別分布

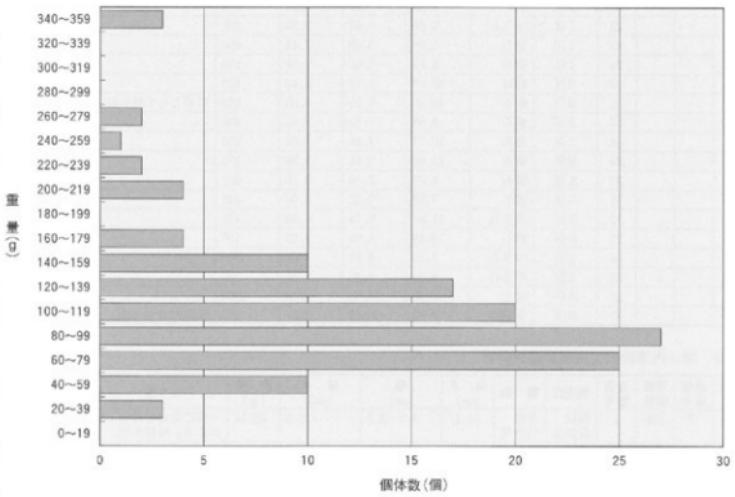


表20 堀ノ内遺跡出土銭觀察表

拂図番号	遺物番号	写真図版	出土位置	名称	寸法(mm)						重さ(g)	初鉄年代	
					a	b	c	d	e	f			
140	1	-	II区表土	寛永通寶	2.34	2.35	1.97	1.96	0.75	0.74	0.12	1.96	17末～18世紀
140	2	-	表採	寛永通寶	2.20	2.19	1.81	1.83	0.82	0.83	0.10	1.68	17末～18世紀

堀ノ内遺跡では二点出土しているが、いずれも鋳製寛永通寶で17世紀末～18世紀代（Ⅲ期）に鋳造されたものである。

表21 塙ノ内遺跡出土礫石器観察表

持団番号	遺物番号	写真	台帳番号	調査区	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
			1	—	磨石	5.97	4.78	2.07	90	
	2	—	2	—	塙み石	8.50	7.87	5.84	530	
	3	—	3	—	磨石	5.95	5.41	4.78	220	
	4	—	4	—	磨石	5.64	11.15	6.65	510	
	5	—	5	—	磨石	5.70	5.29	4.41	180	
	6	—	6	—	叩き石	8.48	5.22	5.32	365	
	7	B区	7	B区	磨石	5.37	4.58	4.12	150	
	8	B区	8	B区	叩き石	9.78	3.49	2.19	130	
	9	B区	9	B区	叩き石	11.83	5.36	3.10	320	
	10	D区	10	D区	叩き石	15.16	6.46	3.20	545	
	11	D区	11	D区	叩き石	8.75	4.94	4.08	290	
	12	B区	12	B区	叩き石	12.28	6.46	4.78	610	石斧未製品か
	13	B区	13	B区	叩き石	11.29	5.21	2.52	230	
	14	B区	14	B区	叩き石	9.79	3.48	2.42	135	
	15	B区	15	B区	叩き石	10.73	6.21	2.87	340	
	16	B区	16	B区	叩き石	12.61	5.44	3.62	380	
	17	D区	17	D区	磨石	7.92	7.09	3.73	290	
	18	D区	18	D区	磨石	10.32	8.39	3.60	495	
	19	D区	19	D区	磨石	5.55	4.15	2.01	80	
	20	B区	20	B区	磨石	6.16	5.94	3.12	180	
	21	D区	21	D区	磨石	7.13	7.41	5.35	560	
	22	I区	22	I区	叩き石	9.09	6.44	3.53	295	
	23	I区	23	I区	磨石	5.28	9.69	7.45	480	
	24	I区	24	I区	磨石	8.07	5.65	2.01	155	
	25	II区	25	II区	磨石	12.97	5.72	3.40	420	
	26	II区	26	II区	磨石	10.85	6.23	4.85	520	砥石として使われたものか
	27	II区	27	II区	磨石	5.55	7.71	2.61	200	
	28	I区	28	I区	磨石	10.71	4.46	3.01	250	
	29	II区	29	II区	磨石	11.09	3.64	2.78	175	
	30	A区	30	A区	磨石	8.37	7.40	5.16	420	
	31	A区	31	A区	磨石	7.52	7.62	7.90	435	
	32	B区	32	B区	叩き石	11.84	5.79	4.20	435	
	33	B区	33	B区	磨石	10.45	3.96	3.52	190	
	34	I区	34	I区	叩き石	7.23	8.24	4.54	390	
	35	I区	35	I区	叩き石	4.40	3.54	3.32	80	
	36	A区	36	A区	磨石	9.50	11.45	6.08	1000	
	37	B区	37	B区	荒削輝	6.83	6.63	4.56	210	水晶の荒削り棒

表22 塙ノ内遺跡出土金属製品観察表

持団番号	遺物番号	写真	台帳番号	調査区	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
138	17	126	1	板状 鉄製品 包含層	II区	(4.1)	3.2~3.9	0.6	35.14	一端に刃部を持ち、板状鐵斧の可能性がある。時期不明。
138	18	126	2	刀子	B区 包含層	(8.5)	1.8	0.2	24.21	
138	19	126	3	板状 鉄製品 包含層	B区	5.6	0.4~0.5	—	4.47	両端部欠損。鉄針、錐などの破片だろうか。時期不明。
138	20	126	4	短刀	C区 包含層	(30.2)	刃部：2.5 茎部：2.7 葉部：1.4	刃部：4.5 茎部：4	181.76	平作り、平様の直刀である。切先を欠く間にX線写真から判断する限り、刃部側に欠損があるので、両端の可能性がある。茎部は徐々に幅が狭られ、茎尻は幾何学である。刃身部残存長19.8cm、茎長10.2cm、目釘穴径0.4~0.5cmである。刀身部、茎部とも木質が残存付着。短刀（刃部長・足以下、平作り）が多く作られた平安時代以前のものと考えられる。
138	21	126	5	簪	表土	16.2	0.2	—	4.88	真鍮製の簪で、二重に分かれた松葉をモチーフにしたもの。交差部に玉を付ける玉簪に分類されるもので、葉の交差部は断面を扁平に、輪部は円形に仕上げる。先端部は、先端をヒラ状に広げて焼き状に曲げている。江戸時代後半のものか？



調査前の垣ノ内遺跡（南から）平成6年3月



下：調査前空撮（南から）平成11年12月

図版 18



平成12年度調査後全景（北西から）



平成13年度調査後全景（南から）

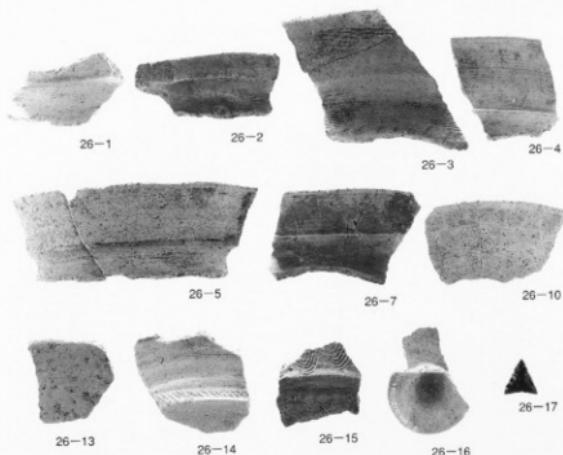


SI01・07完掘状況（南から）



SI01・07完掘状況（北から）

图版 20



SI01・07出土遺物



SI01・07出土遺物



SI02・04半截状況（北から）

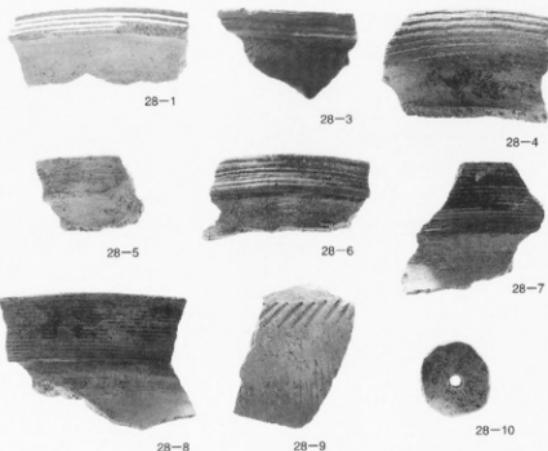


SI02・04全景（北から）

図版 22



SI02・04完掘状況（南から）



SI02・04出土遺物



SI03完掘状況（南から）



28-2

31-1

31-2

31-3

SI02・04, SI03出土遺物

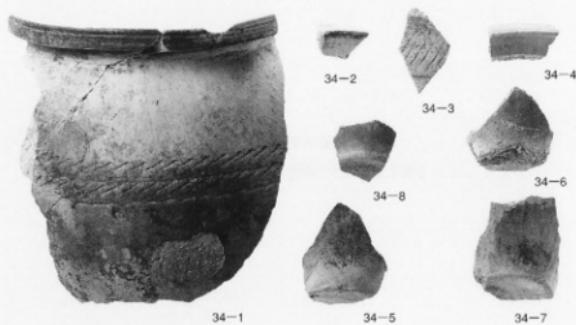
図版 24



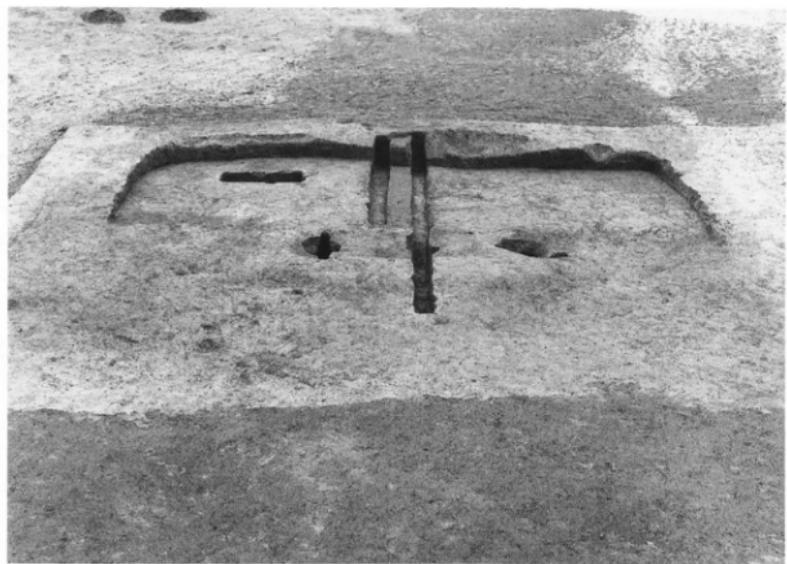
SI05・08半掘状況（南から）



SI05・08完掘状況（南から）



SI05・08出土遺物

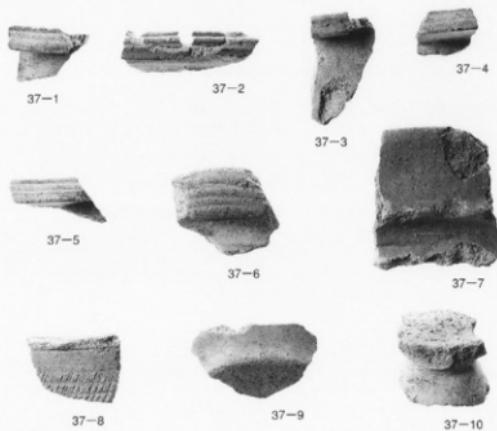


SI06完掘状況（南から）

図版 26



SI06セクション遺物出土状況（東から）



SI06出土遺物



SI09完掘状況（北から）



SI06、SI09出土遺物